

元総社蒼海遺跡群

元総社小見VI遺跡

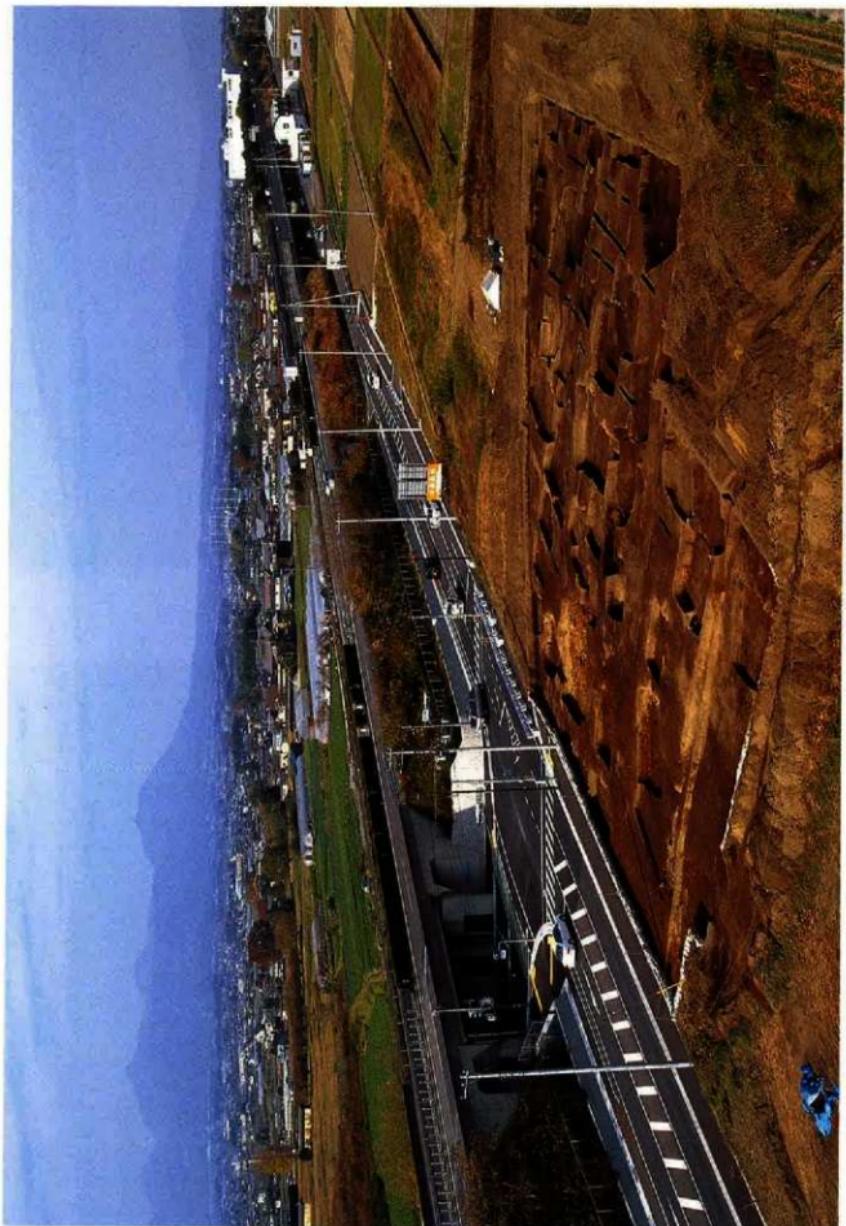
前橋都市計画事業元総社蒼海地区整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



2005. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



西条区連絡（南側から）



灰釉陶器・綠釉陶器・丸瓶



D-2号土塁出土の高台碗と石

はじめに

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。平成16年12月には粕川村、宮城村、大胡町と合併し、新たなる歴史をスタートさせたところであります。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室4古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東4名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度調査を行いました元總社小見VI遺跡は、前橋市西部の国分尼寺の南、推定国府域の西側に位置します。国府や国分尼寺に直接関連すると思われる遺構は検出されませんでしたが、竪穴住居跡、溝跡、土坑などが検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の土地利用の状況を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、厳しい気候の中、調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成17年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 中原 恵治

例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社浜海地区整理事業に伴う元総社小見VI遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

- 調査場所 群馬県前橋市元総社町1614-1 他
発掘調査期間 平成16年5月24日～平成16年12月15日
整理・報告書作成期間 平成16年12月16日～平成17年3月22日
発掘・整理担当者 近藤雅順・後藤俊輔（発掘調査係員）
4. 本書の原稿執筆・編集は近藤・後藤が行った。
 5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石井春江・後藤進一・佐藤佳子・下境 弥・下境米治・富岡和子・富澤理恵・内藤 旭・内藤よし
中島利夫・西山勝久・西山光彦・峰岸あや子
 6. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 掘出中に使用した北は、座標北である。
2. 拡印に国土地理院発行の1:200,000地形図（宇都宮・長野）、1:25,000地形図（前橋）、1:6,000前橋市現形図を使用した。
3. 本発掘調査の略称は、16A107である。
4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
J…縄文時代の竪穴住居跡 H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡 W…溝跡 D…土坑
JD…縄文時代の土坑
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構 全体図…1:200 住居跡・溝跡・土坑・縄文時代の土坑…1:30・1:60・1:100
竪・炉断面図…1:30
遺物 土器…1/3・1/4 鉄器・鉄製品…1/3 石器・石製品・土製品…1/2・1/3・1/6
瓦…1/2・1/4
6. 土器の器種について、本報告書では、口径12.0cm以下・器高4.0cm以下・輪轂整形・酸化焰焼成の环形土器を「かわらけ」と呼称する。
7. 計測値については、（ ）は現存値、〔 〕は復元値を表す。
8. セクション注記の記号は、縦まり・粘性の順で示す。
◎は縦まり・粘性非常にあり、○は縦まり・粘性あり、△は縦まり・粘性ややあり、×は縦まり・粘性なしを表す。
セクション注記の語句は、多く含むは15%、含むは10%、少なく含むは5%、わずかに含むは2%程度とした。
9. 遺構平面図の-----は推定線-----は切られるが存在する面を表す。
10. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図	燒	土…	粘	土…
遺構断面図	構築面	面…		
遺物実測図	須恵器断面	面…	漆付着	着…
	黒色処理	面…	スス付着	着…
	綠・灰釉陶器断面	面…	灰釉陶器表面	面…
11. 火山降下物の略称と年代は次のとおりである。
As-B（浅間 B テ フラ：供給火山=浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山=榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA（榛名ニッ岳渡川テフラ：供給火山=榛名山、6世紀初頭）
As-C（浅間 C 穀石：供給火山=浅間山、4世紀前半～中葉）

目 次

はじめに	1
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査方針と経過	
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本眉序	9
V 遺構と遺物	
1 堅穴住居跡	10
2 溝跡	25
3 土坑	25
4 グリッド等出土遺物	26
VI まとめ	42

図版

- 図版 1 調査区遠景（南東から）
2 次軸陶器・縦軸陶器・丸瓶
3 D-2号土坑出土の高台挽と石

- P.L. 1 調査区全景、J-1・2号住居跡
2 H-6・9・57・59号住居跡
3 H-7・8・15号住居跡
4 調査区北中央部住居跡重複状況、H-21・
23号住居跡
5 H-24・25・28・29号住居跡
6 H-32号住居跡
7 H-33・38・40号住居跡
8 H-42・45・47号住居跡
9 H-49・50・51～53号住居跡
10 H-54・60・76号住居跡
11 H-79・59号住居跡、W-1・2号溝跡、D-
2号土坑
12 J-1・2号住居跡、JD-2・5・11号土
坑出土の遺物
13 H-4・7・8・9・11・12・14号住居跡
出土の遺物
14 H-14・15・17～19・21・22号住居跡出土
の遺物
15 H-23～29号住居跡出土の遺物
16 H-29～32・34・35号住居跡出土の遺物
17 H-35～44・46・47号住居跡出土の遺物
18 H-48～53号住居跡出土の遺物
19 H-54・56・59～62・64号住居跡出土の遺
物
20 H-64・66・67～69・72～74・76・80・83・
84号住居跡、D-2号土坑出土の遺物
21 鉄器・鉄製品
22 主な瓦

挿 図

- Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図
 2 周辺遺跡図
 3 元總社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
 4 基本層序
 5 元總社小見VI遺跡全体図
 6 J—1・2号住居跡
 7 H—1～3号住居跡
 8 H—4・5・11号住居跡
 9 H—6・7・9・57号住居跡
 10 H—8号住居跡
 11 H—12号住居跡
 12 H—13・14・62号住居跡
 13 II—15・17号住居跡
 14 H—18・19号住居跡
 15 H—20・21号住居跡
 16 H—22・23・81号住居跡
 17 H—24・25号住居跡
 18 H—26・27号住居跡
 19 H—28・29号住居跡
 20 II—30・32号住居跡
 21 H—31・34号住居跡
 22 H—33号住居跡
 23 H—35・36号住居跡
 24 II—37・38・41号住居跡
 25 H—16・39・40号住居跡
 26 H—42・43号住居跡
 27 H—44・45・70号住居跡
 28 H—46・48号住居跡
 29 H—47号住居跡
 30 H—49・50・74号住居跡
 31 II—51号住居跡
 32 H—52・53・55号住居跡
 33 H—54・61号住居跡
 34 H—59・60号住居跡
 35 H—64・66号住居跡
 36 H—65・67・75・77号住居跡
 37 H—56・69・71・72号住居跡
 38 II—68・73号住居跡
 39 H—76・79号住居跡
 40 H—78・83号住居跡
 41 II—80・84号住居跡
 42 W—1・2号溝跡
 43 JD—1～11号土坑、D—1～8号土坑
 44 J—1号住居跡出土の遺物
 45 J—2号住居跡出土の遺物
 46 JD—1・2・5・11号土坑出土の遺物
 47 H—2・4・5・7・8号住居跡出土の遺物
 48 H—9・11～13号住居跡出土の遺物
 49 H—14・15号住居跡出土の遺物
 50 H—15・17号住居跡出土の遺物
 51 H—18～21号住居跡出土の遺物
 52 II—22～24号住居跡出土の遺物
 53 H—24・25号住居跡出土の遺物
 54 H—26～28・30号住居跡出土の遺物
 55 H—29・31・34号住居跡出土の遺物
 56 H—32・35号住居跡出土の遺物
 57 H—33・35～38号住居跡出土の遺物
 58 H—39～43号住居跡出土の遺物
 59 II—43～47号住居跡出土の遺物
 60 H—47・48号住居跡出土の遺物
 61 H—48～50号住居跡出土の遺物
 62 H—51～53号住居跡出土の遺物
 63 H—54・56・62号住居跡出土の遺物
 64 H—59～61・64号住居跡出土の遺物
 65 H—66～69・74～77号住居跡出土の遺物
 66 II—72・78～80・82・83号住居跡出土の遺物
 67 H—73・84号住居跡、D—2号土坑出土の遺物
 68 石器・石製品
 69 石製品・土製品
 70 鉄器・鉄製品
 71 瓦(1)
 72 瓦(2)
 73 瓦(3)
 74 瓦(4)
 75 瓦(5)
 76 瓦(6)
 77 瓦(7)

表

- Tab. 1 周辺遺跡概要一覧表
 2 墓穴住居跡一覧表
 3 溝跡計測表
 4 土坑計測表
 5 銅文時代出土土器観察表
 6 古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
 7 石器観察表
 8 石製品・土製品観察表
 9 鉄器・鉄製品観察表
 10 瓦観察表

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、5年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成16年4月19日付けで、前橋市長 高木政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 中原惠治に対し、調査実施を協議し、調査団はこれを受諾した。平成16年5月12日、調査依頼者である前橋市長 高木政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団 团長 中原惠治との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月24日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見VI遺跡」(遺跡コード:16A107)の「小見」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「VI」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で両されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以前のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。總社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比較3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畠地として利用してきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と統いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

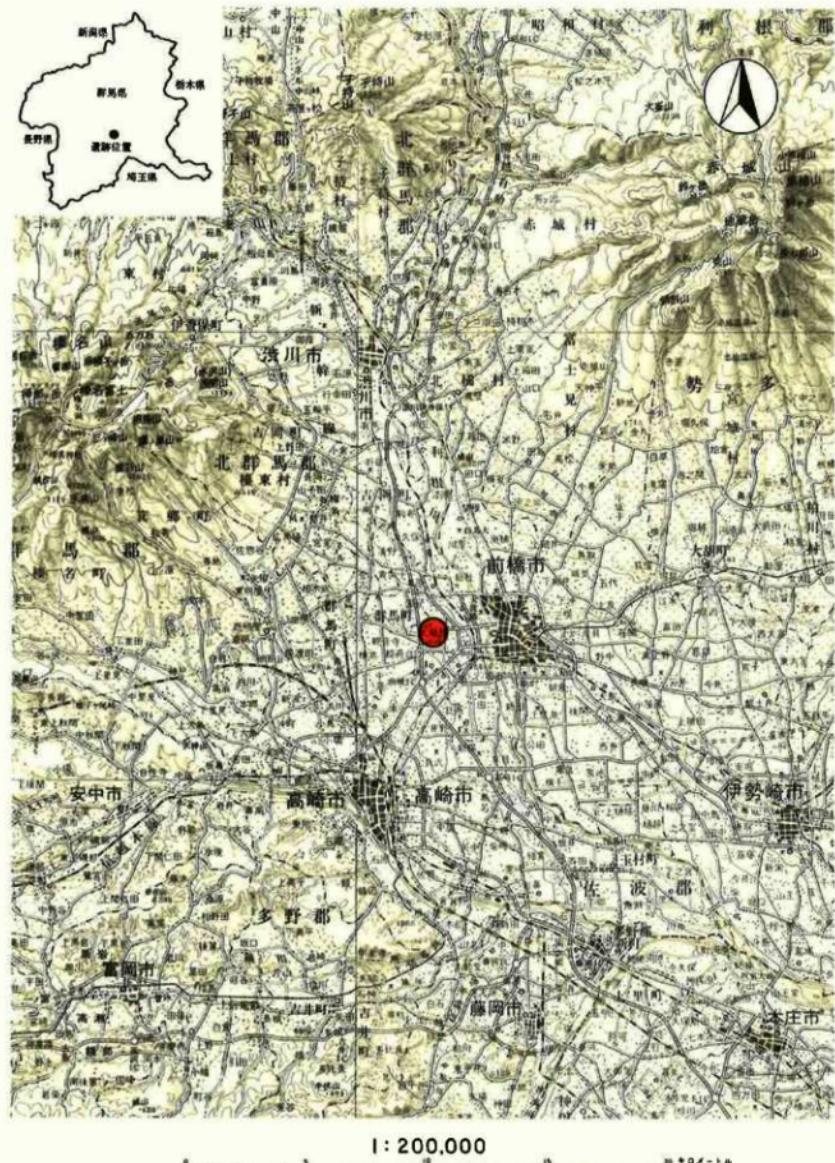


Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・聚落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本道跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である干山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の總社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山上庵寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈していく。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元總社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭遺跡や、「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き器や人形が出土した元總社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元總社宅地遺跡がある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された開渠跡遺跡と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡の調査成果により、国府城の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元總社小見内Ⅲ遺跡や元總社小見内Ⅳ遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面鏡、巡方（腰帶具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要御藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中袖線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の守護確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永亨元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の綱張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの綱張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元總社地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

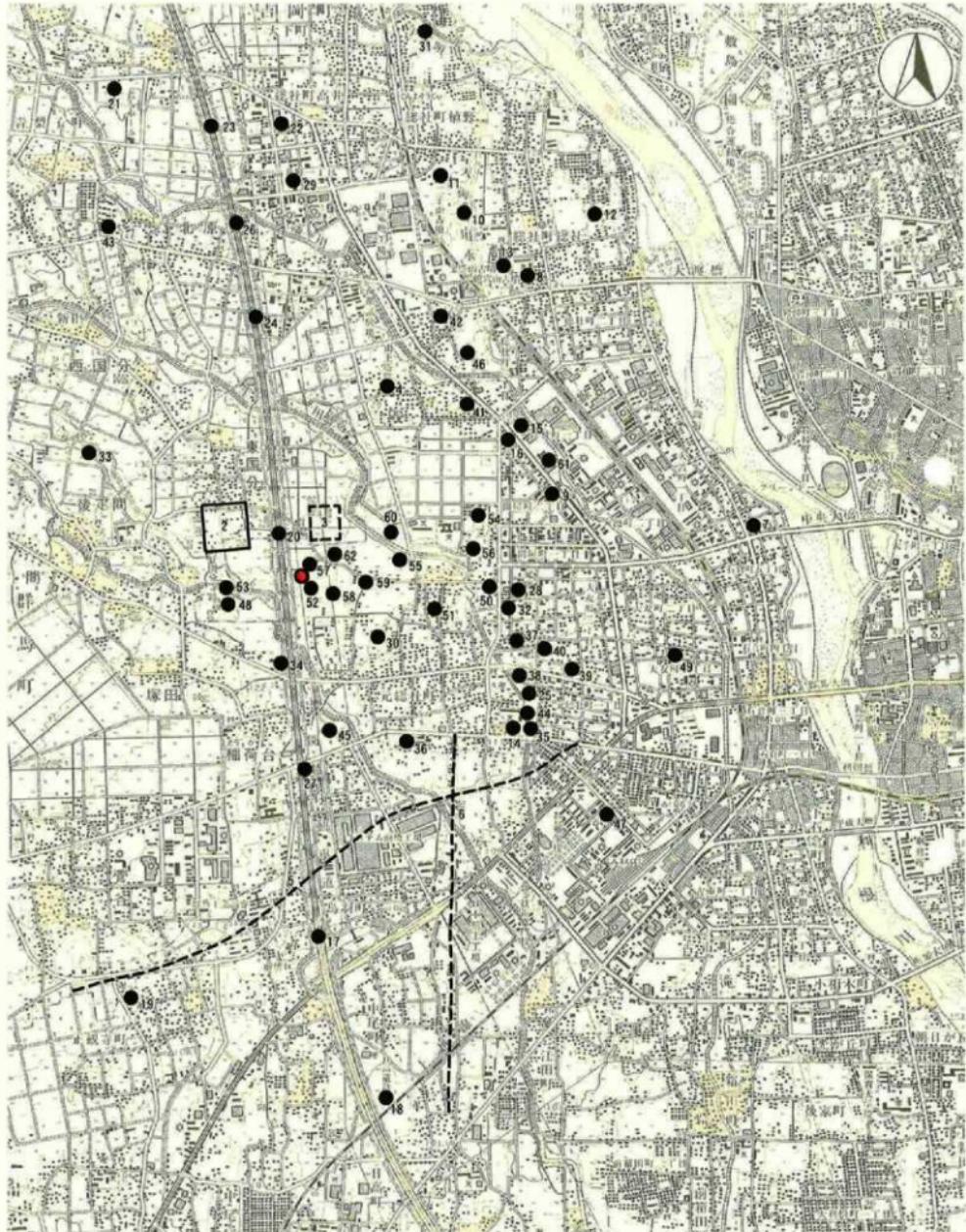


Fig. 2 周辺遺跡図

1 : 25,000

Tab. 1 元絶社賓海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元絶社小見VI遺跡	2004	本遺跡
2	上野国分寺跡（奈良委）	1980～1988	奈良：企堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王殿跡	(1974)	古墳：塔心壁・根巻石
5	東山道（櫛定）		
6	日高道（櫛定）		
7	壬王古墳	1972	古墳：前方後円墳（6C中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8C初）
9	鶴荷山古墳	1988	古墳：円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6C末～7C初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7C末）
14	元總社小学校校庭跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水H跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具・平安：冬至制水田跡
19	正觀寺遺跡I～IV（高崎市）	1979～1981	弥生：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地城（事業団）	1980～1983	縄文：住居跡・石塀遺構・弥生：住居跡・万形周溝墓・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状遺構
21	清里南部道路群・III	1980	縄文：ビット・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～1984	縄文：附外理處・弥生：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：住居跡・溝跡
24	国分境II遺跡	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
25	国分境III遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：土城墓
26	元總社明神跡跡I～XIII	1982～1996	古墳：住居跡・水田跡・掘跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形・中世：住居跡・溝跡・天日茶碗
27	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石構造・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
28	鳥羽遺跡（事業団）	1978.19～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（特設施設）
29	閑泉廻遊跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～7m、下幅3.24m、深さ2m）
30	柳木遺跡・II遺跡	1983, 1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
31	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
32	綾ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
33	總社綾ヶ丘遺跡・II遺跡	1985, 1987	奈良・平安：住居跡
34	閑泉競南遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
35	後走間遺跡I～III（群馬町）	1985～1987	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
36	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
37	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
38	天神遺跡・II遺跡	1986, 1988	奈良・平安：住居跡
39	墨敷遺跡	1986, 1995	古墳：住居跡・平安：住居跡・石敷道構
40	大友屋敷II・III遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
41	堀越II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	昌楽寺跡向道跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
43	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷II・III遺跡	1989	平安：住居跡
44	元總社寺田遺跡I～III（事業団）	1988～1991	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、人形・資串・墨書き文、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・II遺跡	1989, 1995	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大原堂遺跡I～VI	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡、地下式土坑・溝跡
47	穴越社稻葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野四分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	總社開皇明神北遺跡	1999	古墳：島跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	總社開皇明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
51	元總社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鐵冶場跡・溝跡、道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・廐塼
52	元總社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、道路状遺構
53	元總社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・島跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	總社甲稻荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：島跡・近世：溝跡
	總社甲稻荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元總社小見内III遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
	總社甲稻荷塚大道西III遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・島跡・溝跡
56	總社開皇明神北II遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	總社甲稻荷塚大道西IV遺跡	2003	古墳：島跡・中世：島跡
	元總社小見II遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡、道路状遺構
57	元總社小見IV遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元總社小見V遺跡	2003	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
58	元總社小見III遺跡	2002	縄文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡、道路状遺構
	元總社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
59	元總社小見内IV遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壤窓・掘立柱建物跡・溝跡
	元總社小見内VII遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：窓穴状遺構
60	元總社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・島跡・中・近世：掘立柱純物跡・水田跡・火葬塚
61	福井塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・竪構築材採掘痕・井戸跡
62	元總社小見内VII遺跡	2003	縄文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：島跡・溝跡

* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。

* 遺跡名の後の（事業団）は就群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査方針と経過

1 調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元總社畜海土地区両整理事業に伴う造成予定地で調査面積は1,760m²である。グリッド座標については、日本測地系（旧座標）X=+44,000・Y=-72,200を基点（X 0・Y 0）とする4mピッチのものを使用し、西から東へX19、X20、X21…、北から南へY132、Y133、Y134…となり、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX26・Y140の公共座標は次のとおりである。

第 IX 系	X = +43794.909	Y = -72387.753	(新座標)
	X = +43440.000	Y = -72096.000	(旧座標)
緯 度	36°23'19". 8950	經 度	139°01'46". 5200
子午線収差角	28°36". 7	増 大 率	0.999964

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遺り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈・炉は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

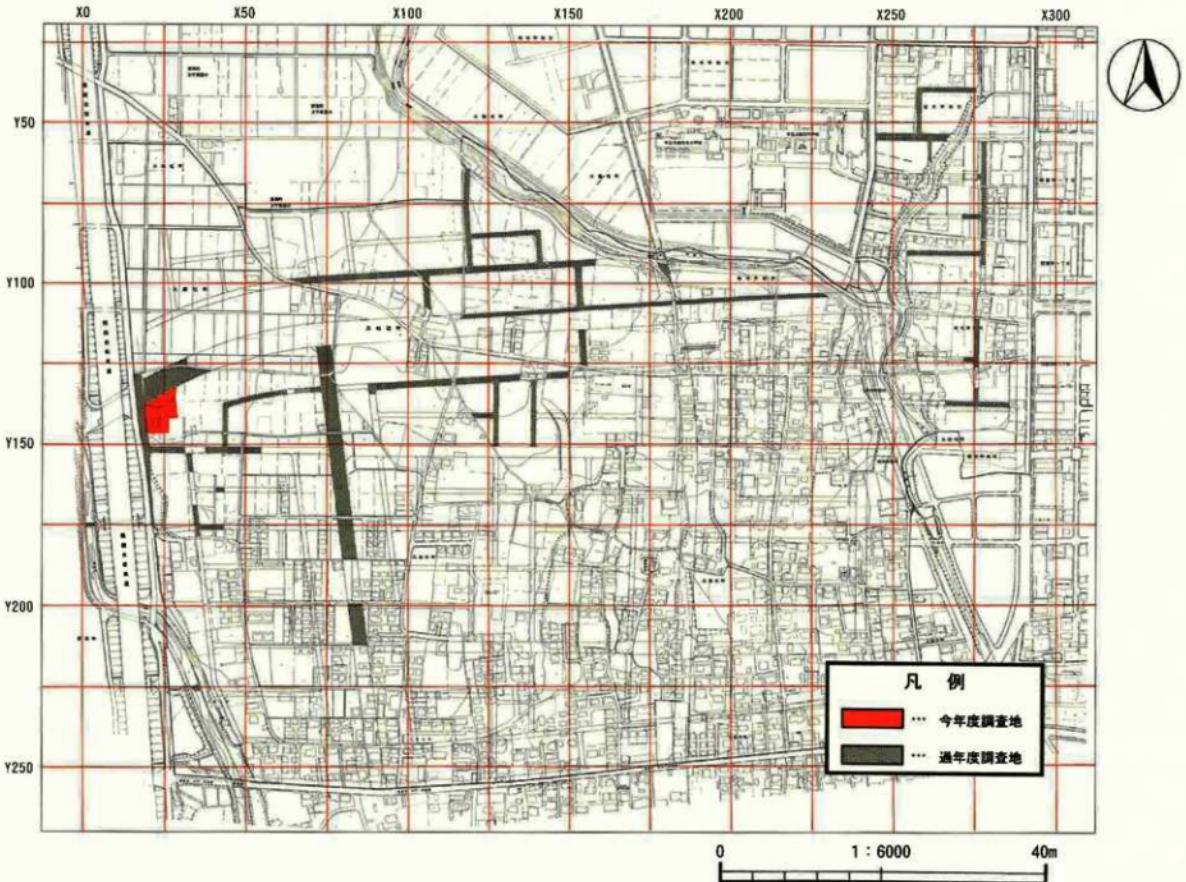
本調査は5月21日より現地調査を開始した。調査地は畑作地であるため耕作土と遺構面の土とを分ける必要があった。したがって、まず、重機（バックフォー0.7m³）にて約20cm程現耕作土を掘削し一ヵ所に集めた。その後、更に約30cm程掘り下げ、As-C-Hr-FPを含む暗褐色土の面において遺構確認調査を行った。6月1日には杭打ち測量を行い遺構の掘り下げ・精査開始に至った。

調査区は全体的に北西から南東方向に向かって次第に低くなるので、調査は西側より進めることとした。北西のやや高い地区からは古代の住居跡が多数検出され、縄文時代・古墳時代・奈良・平安時代に至る遺構が高い密度で重複していることが明らかになった。そのため、遺構の新旧関係の判断に苦心し、遺物の収納にもかなり時間を要した。東側の遺構密度はやや低かったが、地山と遺構覆土との違いが分かりづらく、ここでも遺構確認に時間を要した。そこで、10月下旬より、作業員を増員して調査を進めた。

11月26日にハイライダー（24m）による調査区全景撮影を行い、11月29日から遺構構築状況等の調査を行った。そこでも、新たな古墳時代や縄文時代の遺構が検出されたり、さらに、調査区北側中央部に縄文時代の遺物包含層があることが明らかになった。そして、精査の結果、縄文竪穴住居跡2軒、古墳・奈良・平安整穴住居跡83軒、溝跡2条、縄文土坑11基、土坑9基を検出した。12月15日に調査を終了し、その後調査区の埋め戻しを行った。

12月16日より文化財保護課に戻り、整理作業を開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納を行い、3月22日にすべての業務を終了した。

Fig. 3 元総社畜海連跡地位置とグリッド設定期



IV 基本層序

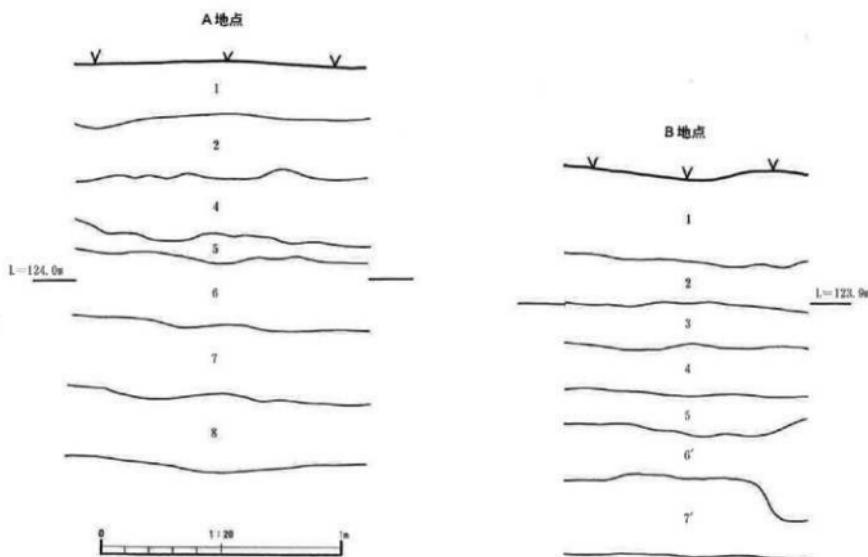


Fig. 4 基本層序

本遺跡地内のA地点、B地点の地層の堆積は、下記のとおりである。

- 1 現耕作土
- 2 灰黃褐色粗砂層 (10YR4/2) 緩まり△ 粘性△
As-B 混土層
- 3 にぶい黄褐色細砂層 (10YR4/3) 緩まり○ 粘性△ (B地点に存在)
As-C・Hr-FP 含む、As-B 少なく含む
- 4 暗褐色細砂層 (10YR3/3) 緩まり○ 粘性○
As-C・Hr-FP 含む
- 5 黒褐色細砂層 (10YR3/1) 緩まり○ 粘性○ (A地点は部分的、B地点はやや厚く存在)
As-C 含む
- 6 黑褐色微砂層 (10YR3/2) 緩まり○ 粘性○ (A地点)
赤い軽石・黄色い軽石わずかに含む、炭化物わずかに含む
- 6' 黄褐色粗砂層 (10YR5/6) 緩まり○ 粘性× (B地点)
赤い軽石・黄色い軽石含む (總社砂層)
- 7 黑褐色微砂層 (10YR2/2) 緩まり○ 粘性○ (A地点)
赤い軽石・黄色い軽石わずかに含む
- 7' 灰黃褐色粗砂層 (10YR5/2) 緩まり○ 粘性× (B地点)
赤い軽石・黄色い軽石含む、小石含む (總社砂層)
- 8 暗褐色微砂層 (10YR3/3) 緩まり○ 粘性○ (A地点)
(總社砂層)

V 遺構と遺物

1 穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 6・44・68, PL. 1・12)

位置 X20・21、Y137・138グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 漏丸方形。長径4.63m、短径4.57m、壁現高65cmを測る。面積 16.57m² 床面 ほぼ平坦な床面。中央やや南に埋設土器有。北壁近くに多孔石が設置されている。炉 中央やや西より地床炉が検出され、長軸方向N-66°-E、長軸66cm、短軸44cmを図り、深さは床面よりやや下がる。重複 II-13と重複しており、新旧関係は本遺構→H-13の順である。出土遺物 総数1216点。そのうち、深鉢10点、打製石斧2点、多孔石1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から縄文時代前期（諸磯C期）と考えられる。

J-2号住居跡 (Fig. 6・45, PL. 1・12)

位置 X25・26、Y137・138グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 円形と推定される。長径(5.48)m、短径(5.30)m、壁現高81cmを測る。面積(22.11)m² 床面 ほぼ平坦な床面。中央やや北に埋設土器有。炉 中央やや南より石囲い炉が検出されたが2石は抜かれていた。長軸方向N-25°-W、長軸75cm、短軸72cm、深さ4cmを図る。重複 H-8・29・38と重複しており、新旧関係は本遺構→H-8・29・38の順である。出土遺物 総数4112点。そのうち、深鉢6点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から縄文時代中期（加曾利E3期）と考えられる。

H-1号住居跡 (Fig. 7)

位置 X20、Y141・142グリッド 主軸方向 N-39°-E 形状等 方形と推定される。セクション部での住居の立ち上がりは確認できたが、掘り下げていく中で立ち上がりが分かりづらくなかった。東西(3.07)m、南北(2.97)m、壁現高20cmを測る。面積(6.20)m² 床面 平坦な床面であるが、堅致ではない。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-26°-E、全長85cm、最大幅65cm、焚口部幅17cmを測る。焼土はほとんど確認できなかつたが、灰白色粘土ブロック、炭化物を多く確認した。重複 H-2と重複しており、新旧関係はH-2→本遺構の順である。出土遺物 総数85点。備考 時期は埋土や重複関係から上限は6世紀後半を過らず、下限はAs-B降下以前と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 7・47)

位置 X20、Y141～143グリッド 主軸方向 N-64°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.68)m、南北(5.16)m、壁現高50cmを測る。面積(14.52)m² 床面 平坦で堅致な床面。周溝有。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-70°-E、全長127cm、最大幅100cm、焚口部幅21cmを測る。構築材として、粘土、両袖に凝灰岩を使用している。重複 H-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-1の順である。出土遺物 総数312点。そのうち、环1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第3四半期と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 7)

位置 X19・20、Y141グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.04)m、南北(2.25)m

m、壁現高18cmを測る。面積(2.22)m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁南隅より検出され、主軸方向N-83°-E、全長85cm、最大幅79cm、焚口部幅45cmを測る。構築材として、粘土・左袖に川原石を使用している。重複 H-61と重複しており、新旧関係はH-61→本遺構の順である。出土遺物 総数162点。そのうち、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や重複関係から10世紀前半からAs-B降下以前と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig. 8・47・70, PL.13・21)

位置 X19・20、Y139・140グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.49)m、南北(4.42)m、壁現高33cmを測る。面積(4.76)m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-85°-E、全長98cm、最大幅110cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、粘土・両袖に凝灰岩、燃焼部壁に瓦を使用している。竈前で凝灰岩が崩れて検出されており、天井も凝灰岩と思われる。重複 H-5と重複しており、新旧関係は本遺構→H-5の順である。出土遺物 総数172点。そのうち、蓋1点、壺1点、甕1点、刀子1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig. 8・47)

位置 X19・20、Y139・140グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.45)m、南北(2.19)m、壁現高24cmを測る。面積(3.01)m² 床面 平坦で堅緻な床面。その下20cmにも、粘土ブロックを含むやや中央に傾斜する堅緻な部分があり、住居があった可能性有。竈 東壁そばに焼土粒・粘土ブロックが認められる部分があったが、検出されず。重複 H-4と重複しており、新旧関係はH-4→本遺構の順である。出土遺物 総数56点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig. 9、PL. 2)

位置 X21・22、Y141・142グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形。東西3.05m、南北2.58m、壁現高31cmを測る。面積 6.93m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 東壁中央やや北より検出され、主軸方向N-84°-E、全長60cm、最大幅54cm、焚口部幅27cmを測る。両袖とも壊されているが、構築材として、粘土を使用している。重複 H-9・57・59と重複しており、新旧関係はH-59→H-9→H-57・本遺構の順である。出土遺物 総数331点。備考 時期は埋土や重複関係から8世紀前半からAs-B降下以前と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig. 9・47, PL. 3・13)

位置 X23・24、Y141・142グリッド 主軸方向 N-74°-E 形状等 長方形。東西3.92m、南北3.53m、壁現高66cmを測る。面積 12.70m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-73°-E、全長103cm、最大幅98cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土・右袖に凝灰岩3石を使用している。重複 H-80と重複しており、新旧関係はH-80→本遺構の順である。出土遺物 総数577点。そのうち、壺1点、甕2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第4四半期と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig. 10・47、PL. 3・13)

位置 X24・25、Y138・139グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 長方形。東西5.72m、南北4.74m、壁現高80cmを測る。面積 25.53m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-71°-E、全長114cm、最大幅150cm、焚口部幅31cmを測る。構築材として、粘土・両袖・天井に凝灰岩を使用し

ている。重複 J-2、H-46と重複しており、新旧関係はJ-2→本遺構→H-46の順である。出土遺物総数1386点。そのうち、壺1点、鉢1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig. 9・48、PL. 2・13)

位置 X22・23、Y141・142グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 長方形と推定される。東西 [2.91] m、南北2.56m、壁現高37cmを測る。面積 [6.84] m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 東壁中央やや北より検出され、主軸方向N-90°-E、全長95cm、最大幅89cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-6・57と重複しており、新旧関係は本遺構→H-57→H-6の順である。出土遺物 総数121点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第1四半期と考えられる。

H-10号住居跡 欠番

H-11号住居跡 (Fig. 8・48・70、PL.13・21)

位置 X26・27、Y135・136グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形。東西5.09m、南北4.47m、壁現高32.0cmを測る。面積 21.38m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-83°-Eであり、全長104cm、最大幅146cm、焚口部幅77cmを測る。構築材として、粘土、川原石を使用している。重複 H-42・84と重複しており、新旧関係はH-84→H-42→本遺構の順である。出土遺物 総数1454点。そのうち、かわらけ3点、高台碗3点、瓶1点、甕1点、釘1点、瓦2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀末と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.11・48、PL.13)

位置 X20~22、Y138~141グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 正方形。東西7.51m、南北7.58m、壁現高49cmを測る。面積 53.36m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-64°-Eであり、全長146cm、最大幅98cm、焚口部幅62cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-13・49・60と重複しており、新旧関係は本遺構→H-13→H-60、本遺構→H-49の順である。出土遺物 総数628点。そのうち、壺1点、高环1点、椀1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第2四半期と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.12・48・69)

位置 X20・21、Y138・139グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 長方形。東西3.79m、南北4.69m、壁現高42cmを測る。面積 16.55m² 床面 平坦で堅緻な床面。北側部がやや高い。周溝有。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-82°-Eであり、全長134cm、最大幅80cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 J-1・H-12・60と重複しており、新旧関係はJ-1、H-12→本遺構→H-60の順である。出土遺物 総数399点。そのうち、壺2点、砥石1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.12・49、PL.13・14)

位置 X20・21、Y136・137グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 正方形と推定される。東西 (2.99) m、南北 (3.08) m、壁現高39cmを測る。面積 (6.98) m² 床面 平坦で堅緻な床面。南東壁に粘土を貼付した痕

跡があり棚状のものがあった可能性有。竈 東壁より検出され、主軸方向N-74°-Eであり、全長101cm、最大幅73cm、焚口部幅21cmを測る。構築材として、粘土、川原石、瓦を使用している。重複 II-62と重複しており、新旧関係はH-62→本造構の順である。出土遺物 総数392点。そのうち、かわらけ1点、壺1点、高台椀2点、羽釜1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第4四半期と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig.13・49・50, PL. 3・14)

位置 X25・26、Y136・137グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 方形。東西3.24m、南北3.48m、壁現高39cmを測る。面積 9.66m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-89°-Eであり、全長91cm、最大幅97cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土、石、天井に凝灰岩を使用している。重複 H-38・78と重複しており、新旧関係はH-78→H-38→本造構の順である。出土遺物 総数1004点。そのうち、耳皿1点、高台皿1点、高台椀3点、甕1点、壺1点、甑1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第4四半期と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.25)

位置 X26・27、Y138~140グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.34)m、南北(5.47)m、壁現高60cmを測る。面積 (14.93) m² 床面 H-40に大部分を切られるが、残っている部分は平坦で堅緻な床面。竈 検出されず。重複 H-40・83と重複しており、新旧関係はH-83→本造構→H-40の順である。出土遺物 総数424点。備考 時期は埋土や重複関係からHr-FP 降下から8世紀後半と考えられる。

H-17号住居跡 (Fig.13・50, PL.14)

位置 X21・22、Y136・137グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 長方形。東西3.37m、南北3.98m、壁現高43cmを測る。面積 12.10m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-90°-Eであり、全長104cm、最大幅116cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土、瓦、右袖に石を使用している。重複 H-19と重複しており、新旧関係はH-19→本造構の順である。出土遺物 総数640点。そのうち、壺1点、高台椀1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig.14・51, PL.14)

位置 X22、Y137グリッド 主軸方向 N-100°-E 形状等 長方形。東西2.45m、南北2.90m、壁現高48cmを測る。面積 6.51m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-102°-Eであり、全長92cm、最大幅92cm、焚口部幅42cmを測る。構築材として、粘土、両袖と支脚に石を使用している。重複 H-19と重複しており、新旧関係はH-19→本造構の順である。出土遺物 総数541点。そのうち、高台椀3点、羽釜1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第3四半期と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.14・51, PL.14)

位置 X22・23、Y136・137グリッド 主軸方向 N-96°-E 形状等 長方形と推定される。東西[3.61]m、南北[3.15]m、壁現高42cmを測る。面積 [10.13] m² 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-91°-Eであり、全長66cm、最大幅90cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土、石、凝灰岩を使用している。重複 H-17・18・51と重複しており、新旧関係は本造構→II-17・18の順である。(H-51との新旧関係は不明。)出土遺物 総数1322点。そのうち、壺1点、高台椀1点を図示した。備

考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.15・51)

位置 X27・28、Y133・134グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形。東西4.18m、南北2.76m、壁現高49cmを測る。面積 10.75m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 激しく焼されているが、東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-86°-Eであり、全長72cm、最大幅77cm、焚口部幅39cmを測る。重複 H-67・72と重複しており、新旧関係は本遺構→H-67・72の順である。出土遺物 総数655点。そのうち、壙1点、高台椀1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig.15・51・70、PL.4・14・21)

位置 X22・23、Y137・138グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 長方形と推定される。東西 [3.10] m、南北 [3.61] m、壁現高43cmを測る。面積 [10.68] m² 床面 平坦で堅密な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-102°-Eであり、全長(107) cm、最大幅(120) cmを測る。構築材として、粘土、瓦を使用している。重複 H-51と重複しており、新旧関係は本遺構→H-51の順である。出土遺物 総数1605点。そのうち、高台皿1点、壙3点、高台椀3点、鐵鎌1点、瓦2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.16・52・70、PL.14・21)

位置 X26・27、Y139・140グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 正方形。東西4.04m、南北3.85m、壁現高50cmを測る。面積 13.89m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-78°-Eであり、全長102cm、最大幅103cm、焚口部幅50cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-39・40と重複しており、新旧関係はH-39・40→本遺構の順である。出土遺物 総数596点。そのうち、壙3点、高台椀1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.16・52、PL.4・15)

位置 X23・24、Y135～137グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 正方形と推定される。東西 [4.19] m、南北 [4.35] m、壁現高51cmを測る。面積 [16.86] m² 床面 平坦で堅密な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-80°-Eであり、全長113cm、最大幅115cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-24・27・51・81と重複しており、新旧関係はH-81→本遺構→H-24・27・51の順である。出土遺物 総数1366点。そのうち、壙2点、鉢1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第3四半期と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.17・52・53、PL.5・15)

位置 X23・24、Y135・136グリッド 主軸方向 N-103°-E 形状等 正方形。東西3.37m、南北3.67m、壁現高32cmを測る。面積 11.22m² 床面 平坦で部分的に堅密な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-105°-Eであり、全長86cm、最大幅95cm、焚口部幅39cmを測る。構築材として、粘土、石を使用している。重複 H-23・27と重複しており、新旧関係はH-23・27→本遺構の順である。出土遺物 総数1368点。そのうち、壙3点、高台椀2点、甕3点、瓶1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-25号住居跡 (Fig.17・53、PL. 5・15)

位置 X24~26、Y135・136グリッド 主軸方向 N-72°-E 形状等 長方形。東西[5.18]m、南北[3.89]m、壁現高63cmを測る。面積 [17.61] m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央やや東より検出され、主軸方向N-15°-Wであり、全長93cm、最大幅87cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土、石を使用している。重複 H-26・27・84と重複しており、新旧関係はH-84→本遺構→H-26・27の順である。出土遺物 総数795点。そのうち、壺2点、高台椀1点、瓶1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-26号住居跡 (Fig.18・54・70、PL.15・21)

位置 X25・26、Y135・136グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形。東西3.06m、南北3.94m、壁現高34cmを測る。面積 11.33m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-86°-Eであり、全長82cm、最大幅90cm、焚口部幅49cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-25・84と重複しており、新旧関係はH-84→H-25→本遺構の順である。出土遺物 総数722点。そのうち、蓋1点、壺4点、高台椀1点、篠り金具1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第1四半期と考えられる。

H-27号住居跡 (Fig.18・54・69・70、PL.15・21)

位置 X23~25、Y135・136グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 長方形。東西4.42m、南北5.05m、壁現高42cmを測る。面積 20.87m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-91°-Eであり、全長88cm、最大幅111cm、焚口部幅52cmを測る。構築材として、粘土、石、瓦、凝灰岩を使用している。重複 H-23・24・25と重複しており、新旧関係はH-23・25→本遺構→H-24の順である。出土遺物 総数1033点。そのうち、壺2点、高台椀4点、甕1点、刀子1点、丸柄1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H-28号住居跡 (Fig.19・54・69、PL. 5・15)

位置 X27、Y137グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状等 長方形。東西2.30m、南北1.98m、壁現高41cmを測る。面積 4.31m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-98°-Eであり、全長88cm、最大幅85cm、焚口部幅30cmを測る。構築材として、粘土、石、瓦を使用している。重複 H-45・73と重複しており、新旧関係はH-45・73→本遺構の順である。出土遺物 総数436点。そのうち、高台椀1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第3四半期と考えられる。

H-29号住居跡 (Fig.19・55、PL. 5・15・16)

位置 X24・25、Y137・138グリッド 主軸方向 N-104°-E 形状等 長方形。東西[3.40]m、南北[4.04]m、壁現高45cmを測る。面積 [12.67] m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-98°-Eであり、全長141cm、最大幅138cm、焚口部幅33cmを測る。構築材として、粘土、両袖・支脚・煙道に瓦を使用している。重複 J-2、H-51と重複しており、新旧関係はJ-2→本遺構→H-51の順である。出土遺物 総数1062点。そのうち、壺4点、高台椀4点、瓶1点、甕1点、瓦4点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-30号住居跡 (Fig.20・54、PL.16)

位置 X21・22、Y145～147グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 正方形と推定される。東西(6.05)m、南北(6.05)m、壁現高31cmを測る。面積 (23.66)m² 床面 平坦な床面。周溝有。炉 検出されず。重複 W-2と重複しており、新旧関係は本遺構→W-2の順である。出土遺物 総数318点。そのうち、鉢1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-31号住居跡 (Fig.21・55、PL.16)

位置 X21・22、Y143～145グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 正方形と推定される。東西(6.44)m、南北(6.00)m、壁現高32cmを測る。面積 (28.18)m² 床面 平坦で堅密な床面。周溝有。炉 中央北寄りより地床炉が検出され、長軸方向N-4°-W、長軸115cm、短軸50cm、深さ6cmを図る。重複 H-33、W-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-33、W-1の順である。出土遺物 総数368点。そのうち、鉢1点、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-32号住居跡 (Fig.20・56、PL.6・16)

位置 X26・27、Y143～145グリッド 主軸方向 N-58°-E 形状等 長方形と推定される。東西(5.30)m、南北(4.53)m、壁現高73cmを測る。面積 (19.64)m² 床面 ほぼ平坦で堅密な床面。炉 中央や北より地床炉が検出され、長軸方向N-55°-W、長軸125cm、短軸87cm、深さ7cmを測る。重複 H-35・53・52、W-1と重複しており、新旧関係は本遺構→H-35・52・53、W-1の順である。出土遺物 総数897点。そのうち、櫛台1点、壺2点、壺1点、楕1点、高环1点、壺3点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物4世紀後半と考えられる。

H-33号住居跡 (Fig.22・57、PL.7)

位置 X22・23、Y143・144グリッド 主軸方向 N-63°-E 形状等 長方形。東西5.90m、南北4.09m、壁現高69cmを測る。面積 22.20m² 床面 平坦な床面で竈前は堅密。周溝有。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-65°-E、全長164cm、最大幅112cm、焚口部幅20cmを測る。構築材として、粘土、石、右袖・天井に凝灰岩を使用している。重複 H-31と重複しており、新旧関係はH-31→本遺構の順である。出土遺物 総数527点。そのうち、高台楕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-34号住居跡 (Fig.21・55、PL.16)

位置 X23・24、Y143グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 長方形。東西4.07m、南北2.90m、壁現高43cmを測る。面積 10.85m² 床面 平坦な床面で竈前は堅密。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-86°-E、全長120cm、最大幅111cm、焚口部幅38cmを測る。構築材として、粘土、右袖に石、左袖に凝灰岩を使用している。出土遺物 総数248点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第3四半期と考えられる。

H-35号住居跡 (Fig.23・56・57・69、PL.16・17)

位置 X24～26、Y143・144グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 正方形。東西4.49m、南北4.40m、壁現高72cmを測る。面積 18.28m² 床面 平坦な床面。周溝有。竈 西壁中央やや南より検出され、主軸方向N-100°-W、全長141cm、最大幅107cm、焚口部幅37cmを測る。南側袖は倒木痕により破壊されている。重複 H-32と重複しており、新旧関係はH-32→本遺構の順である。出土遺物 総数633点。そのうち、壺3点、壺1

点、白玉 1 点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から 7 世紀第 2 四半期と考えられる。

H-36号住居跡 (Fig.23・57、PL.17)

位置 X26・27、Y137・138グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 長方形。東西2.62m、南北3.74m、壁現高27cmを測る。面積 9.17m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南より検出され、主軸方向N-95°-E、全長61cm、最大幅46cm、焚口部幅24cmを測る。出土遺物 総数460点。そのうち、壺 2 点、高台椀 1 点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-37号住居跡 (Fig.24・57、PL.17)

位置 X28、Y132・133グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.03)m、南北(2.88)m、壁現高45cmを測る。面積 (5.16)m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁より検出され、主軸方向N-91°-E、全長71cm、最大幅81cm、焚口部幅48cmを測る。重複 H-41と重複しており、新旧関係は本遺構→H-41の順である。出土遺物 総数422点。そのうち、壺 1 点、高台椀 1 点、甕 1 点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第4四半期と考えられる。

H-38号住居跡 (Fig.24・57、PL.7・17)

位置 X25・26、Y136・137グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 正方形。東西3.25m、南北3.35m、壁現高37cmを測る。面積 9.59m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-74°-E、全長104cm、最大幅108cm、焚口部幅35cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 J-2、H-15・78と重複しており、新旧関係はJ-2、H-78→木遺構→H-15の順である。出土遺物 総数713点。そのうち、白磁 1 点、高台椀 4 点、羽釜 1 点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第2四半期と考えられる。

H-39号住居跡 (Fig.25・58、PL.17)

位置 X27・28、Y139・140グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.67)m、南北(3.60)m、壁現高36cmを測る。面積 (8.62)m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁南より検出され、主軸方向N-85°-E、全長108cm、最大幅108cm、焚口部幅48cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-22と重複しており、新旧関係はH-22→本遺構の順である。出土遺物 総数635点。そのうち、蓋 1 点、壺 1 点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-40号住居跡 (Fig.25・58・70、PL.7・17・21)

位置 X26・27、Y139・140グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 正方形。東西4.10m、南北4.29m、壁現高77cmを測る。面積 15.93m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-87°-E、全長108cm、最大幅129cm、焚口部幅63cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-16・22・39と重複しており、新旧関係はH-16→木遺構→H-22・39の順である。出土遺物 総数1655点。そのうち、壺 2 点、高台椀 1 点、刀装具 1 点、瓦 1 点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-41号住居跡 (Fig.24・58、PL.17)

位置 X28、Y132・133グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推測される。東西(3.04)m、南北

(1.52) m、現壁高39cmを測る。面積 (3.00) m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-37と重複しており、新旧関係はH-37→本遺構の順である。出土遺物 総数95点。そのうち、壺1点、高台椀1点、羽釜1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-42号住居跡 (Fig.26・58・59・70, PL.8・17・21)

位置 X26~28、Y135・136グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 長方形。東西4.64m、南北3.73m、現壁高39cmを測る。面積 16.16m² 床面 平坦で堅密な床面。竈 東壁南より検出され、主軸方向N-73°-E、全長84cm、最大幅97cm、焚口部幅36cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-11・45と重複しており、新旧関係はH-45→本遺構→H-11の順である。出土遺物 総数545点。そのうち、蓋1点、高台皿1点、高台椀1点、甕1点、紡錘車1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。

H-43号住居跡 (Fig.26・58・59, PL.17)

位置 X28・29、Y140・141グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 方形と推定される。東西 (4.59) m、南北 (3.58) m、現壁高42cmを測る。面積 (15.33) m² 床面 ほぼ平坦で堅密な床面。竈 東壁で粘土・焼土・瓦を検出したが、大部分が調査区外のため詳細は不明。重複 H-64・66と重複しており、新旧関係はH-66→H-64→本遺構の順である。出土遺物 総数632点。そのうち、壺2点、高台皿1点、甕1点、瓦2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。

H-44号住居跡 (Fig.27・59, PL.17)

位置 X28・29、Y137・138グリッド 主軸方向 N-115°-E 形状等 方形と推定される。東西 (2.98) m、南北 (3.55) m、現壁高54cmを測る。面積 (5.34) m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-70と重複しており、新旧関係はH-70→本遺構の順である。出土遺物 総数296点。そのうち、壺1点、高台椀1点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第3四半期と考えられる。

H-45号住居跡 (Fig.27・59, PL.8)

位置 X26~28、Y136・137グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 方形と推測される。東西 [3.91] m、南北 [3.12] m、現壁高44cmを測る。面積 [10.87] m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁より検出され、主軸方向 (N-89°-E)、全長 (97) cm、最大幅 (74) cmを測る。構築材として、粘土、右壁に瓦を使用している。重複 H-28・42・73と重複しており、新旧関係は本遺構→H-28・42・73の順である。出土遺物 総数498点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-46号住居跡 (Fig.28・59, PL.17)

位置 X24・25、Y139・140グリッド 主軸方向 N-84°-E 形状等 長方形。東西4.02m、南北5.31m、現壁高58cmを測る。面積 19.44m² 床面 平坦で堅密な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向 N-84°-E、全長124cm、最大幅103cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土、石、壁に瓦を使用している。重複 H-8・47・79・82・83・85と重複しており、新旧関係はH-8・47・79・82・83・85→本遺構の順である。出土遺物 総数2130点。そのうち、壺2点、甕1点、瓦4点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H-47号住居跡 (Fig.29・60、PL. 8・17)

位置 X24~26、Y140~141グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 長方形。東西5.18m、南北6.44m、壁現高72cmを測る。面積 29.36m² 床面 平坦な床面。周溝が確認できたが、北側に床面が続いており住居を拡張した可能性が強い。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-78°-E、全長149cm、最大幅138cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土、右袖に凝灰岩を使用している。重複 H-79・80と重複しており、新旧関係はH-79・80→本遺構の順である。出土遺物 総数2075点。そのうち、壺1点、壺8点、高台椀2点、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-48号住居跡 (Fig.28・60・61・70、PL.18・21)

位置 X23・24、Y139~140グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 長方形。東西3.56m、南北4.24m、壁現高51cmを測る。面積 14.75m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出されたが、右袖の残存状況は悪い。主軸方向N-90°-E、全長94cm、最大幅119cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-50・82と重複しており、新旧関係は本遺構→H-50・82の順である。出土遺物 総数1036点。そのうち、壺4点、高台椀1点、壺2点、鉄錠1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第4四半期と考えられる。

H-49号住居跡 (Fig.30・61、PL. 9・18)

位置 X22・23、Y139~141グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 長方形。東西3.54m、南北4.80m、壁現高59cmを測る。面積 15.81m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-82°-E、全長144cm、最大幅91cm、焚口部幅47cmを測る。構築材として、粘土を使用し、また、竈前に凝灰岩が有り両袖部に穴があることから、凝灰岩も使用していたと考えられる。重複 H-12・74と重複しており、新旧関係はH-12→本遺構→H-74の順である。出土遺物 総数762点。そのうち、壺1点、高台椀1点、壺1点、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第3四半期と考えられる。

H-50号住居跡 (Fig.30・61・69・70、PL. 9・18・21)

位置 X23・24、Y138・139グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 長方形。東西3.40m、南北4.46m、壁現高44cmを測る。面積 14.16m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-103°-E、全長127cm、最大幅107cm、焚口部幅52cmを測る。構築材として、粘土、川原石・瓦を使用している。重複 H-48・74と重複しており、新旧関係はH-48・74→本遺構の順である。出土遺物 総数1580点。そのうち、壺1点、高台椀1点、転用甌1点、壺1点、鉄錠1点、砥石1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-51号住居跡 (Fig.31・62・69、PL. 9・18)

位置 X23・24、Y136~138グリッド 主軸方向 N-101°-E 形状等 正方形。東西4.74m、南北4.90m、壁現高70cmを測る。面積 21.52m² 床面 平坦で堅緻な床面。そのすぐ下にも堅緻な部分があり、床の張り替えを行った可能性有。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-96°-E、全長119cm、最大幅110cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土・瓦・安山岩を使用している。重複 H-21・23・29・81と重複しており、新旧関係はH-21・23・29・81→本遺構の順である。出土遺物 総数2116点。そのうち、壺3点、高台椀2点、壺1点、砥石2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。出土遺物に鉄製品が多く、鉄に関わる工人の住居の可能性も考えられる。

H-52号住居跡 (Fig.32・62・70, PL.18・21)

位置 X26・27、Y142・143グリッド 主軸方向 N-81°E 形状等 方形と推定される。東西(3.44)m、南北(3.68)m、壁現高46cmを測る。面積(11.81)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-75°-E、全長86cm、最大幅109cm、焚口部幅45cmを測る。構築材として、粘土、安山岩を使用している。また、竈内に高台椀が2個伏せた状態で置かれていた。重複 H-53と重複しており、新旧関係は本遺構→H-53の順である。出土遺物 総数154点。そのうち、高台椀2点、鐵鐵1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-53号住居跡 (Fig.32・62, PL. 9・18)

位置 X26、Y143・144グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形。東西3.21m、南北2.68m、壁現高39cmを測る。面積 7.37m² 床面 平坦な床面。竈 南壁中央より検出され、主軸方向N-5°W、全長51cm、最大幅56cm、焚口部幅34cmを測る。構築材として、粘土上を使用している。支脚石有。重複 H-32・52と重複しており、新旧関係はH-32・52→本遺構の順である。出土遺物 総数690点。そのうち、高台椀1点、羽蓋1点、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-54号住居跡 (Fig.33・63・69, PL.10・19)

位置 X25・26、Y145～147グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 長方形。東西4.28m、南北4.84m、壁現高37cmを測る。面積 18.47m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-77°E、全長139cm、最大幅120cm、焚口部幅26cmを測る。構築材として、粘土上、両袖に川原石を使用している。竈内に2個体分の甕行。出土遺物 総数543点。そのうち、壺3点、甕2点、円石1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第2四半期と考えられる。

H-55号住居跡 (Fig.32, PL.19)

位置 X26、Y146・147グリッド 主軸方向 N-62°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.36)m、南北(1.48)m、壁現高33cmを測る。面積(2.25)m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 検出されず。重複 H-68と重複しており、新旧関係はH-68→本遺構の順である。出土遺物 総数52点。そのうち、瓦1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H-56号住居跡 (Fig.37・63、PL.19)

位置 X26・27、Y133・134グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.12)m、南北(5.15)m、壁現高34cmを測る。面積(14.05)m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。竈 検出されず。重複 II-72・84と重複しており、新旧関係はII-84→本遺構→II-72の順である。出土遺物 総数933点。そのうち、かわらけ5点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第4四半期と考えられる。

H-57号住居跡 (Fig. 9、PL. 2)

位置 X21・22、Y141・142グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 長方形と推定される。東西[2.72]m、南北[2.23]m、壁現高31cmを測る。面積[5.71]m² 床面 平坦な床面。竈 H-6に壊されていたが、掘り方より東壁中央より検出され、主軸方向(N-87°-E)、全長(60)cm、最大幅(46)cmを測る。重複 II-6・59と重複しており、新旧関係はII-59→本遺構→II-6の順である。出土遺物 総数65点。備考 時期は埋土や重複関係からHr-FP下からAs-B下以前と考えられる。

H-59号住居跡 (Fig.8 セクション図のみ)

位置 X19、Y140グリッド 備考 II-4 西壁セクションで確認。新旧関係はH-4→本遺構→H-5の順である。

H-59号住居跡 (Fig.34・64、PL.11・19)

位置 X21・22、Y141・142グリッド 主軸方向 N-73°-E 形状等 長方形。東西4.48m、南北3.88m、壁現高61cmを測る。面積 16.18m² 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面。炉 中央北より地床炉が検出され、長軸方向N-2°-W、長軸82cm、短軸60cm、深さ9.5cmを測る。中央部に川原石が1石有。重複 II-6・57と重複しており、新旧関係は本遺構→II-6→II-57の順である。出土遺物 総数350点。そのうち、鉢1点、甕1点、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀中葉と考えられる。

H-60号住居跡 (Fig.34・64、PL.10・19)

位置 X20・21、Y139・140グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 長方形。東西3.30m、南北4.40m、壁現高45cmを測る。面積 13.19m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。窓 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-79°-E、全長99cm、最大幅86cm、焚口部幅31cmを測る。構築材として、粘土、袖及び燃焼膨脹に瓦を使用している。重複 H-12・13と重複しており、新旧関係はH-12→H-13→本遺構の順である。出土遺物 総数1595点。そのうち、高台皿2点、壺3点、高台碗1点、瓦3点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-61号住居跡 (Fig.33・64、PL.19)

位置 X19・20、Y141グリッド 主軸方向 N-75°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.78)m、南北(2.60)m、壁現高20cmを測る。面積 (4.01)m² 床面 平坦で堅緻な床面。窓 東壁中央南より検出され、主軸方向N-78°-E、全長94cm、最大幅77cm、焚口部幅18cmを測る。構築材として、粘土、両袖に凝灰岩を使用している。凝灰岩の設置の状況から凝灰岩が大井部に渡してあった可能性が考えられる。重複 H-3と重複しており、新旧関係は本遺構→H-3の順である。出土遺物 総数125点。そのうち、羽釜1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第1四半期と考えられる。

H-62号住居跡 (Fig.12・63、PL.19)

位置 X19・20、Y137グリッド 主軸方向 N-95°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.12)m、南北(2.09)m、壁現高17cmを測る。面積 (2.38)m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。窓 検出されず。重複 II-14と重複しており、新旧関係は本遺構→H-14の順である。出土遺物 総数138点。そのうち、壺1点、高台碗1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第4四半期と考えられる。

H-63号住居跡 欠番

H-64号住居跡 (Fig.35・64、PL.19・20)

位置 X28・29、Y140・141グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 長方形。東西(3.42)m、南北(4.94)m、壁現高61cmを測る。面積 (15.73)m² 床面 平坦で部分的に堅緻な床面。窓 東壁中央やや南より検出されたが、縁道部は調査区外。主軸方向N-86°-E、全長(82)cm、最大幅106cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-43・66と重複しており、新旧関係はH-66→本遺構→II-43の順

である。 出土遺物 総数385点。そのうち、壙2点、鉢1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から8世紀第2四半期と考えられる。

H-65号住居跡 (Fig.36)

位置 X29、Y138・139グリッド 主軸方向 N-80° E 形状等 方形と推測される。東西(1.39) m、南北(4.65) m、壁現高55cmを測る。面積(5.64)m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 検出されず。出土遺物 総数252点。 備考 時期は埋土や出土遺物からHr-FP降下からAs-B降下以前と考えられる。

H-66号住居跡 (Fig.35・65、PL.20)

位置 X28・29、Y140・141グリッド 主軸方向 N-56°-E 形状等 長方形と推定される。東西(5.49) m、南北(6.32) m、壁現高78cmを測る。面積(29.99)m² 床面 平坦で堅致な床面。炉 中央北より地床炉が検出され、長軸方向N 35° W、長軸76cm、短軸72cm、深さ8cmを測る。重複 H 43・64と重複しており、新旧関係は本造構→H-64→H-43の順である。出土遺物 総数826点。そのうち、壙1点、竈1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-67号住居跡 (Fig.36・65、PL.20)

位置 X28・29、Y133～135グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.98) m、南北(4.53) m、壁現高45cmを測る。面積(11.11)m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 検出されず。重複 H 75・77と重複しており、新旧関係はH 75→H 77→本造構の順である。出土遺物 総数1409点。そのうち、高台壙1点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第3四半期と考えられる。

H-68号住居跡 (Fig.38・65、PL.20)

位置 X26・27、Y146・147グリッド 主軸方向 N-76°-E 形状等 方形と推測される。東西(3.94) m、南北(4.02) m、壁現高16cmを測る。面積(10.45)m² 床面 平坦で部分的に堅致な床面。炉 北より地床炉が検出され、長軸方向N-18°-W、長軸74cm、短軸73cm、深さ14cmを測る。重複 H-54・55と重複しており、新旧関係は本造構→H-54・55の順である。出土遺物 総数165点。そのうち、鉢1点、竈2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-69号住居跡 (Fig.37・65、PL.20)

位置 X28・29、Y142グリッド 主軸方向 N-80°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.90) m、南北(0.92) m、壁現高40cmを測る。面積(1.20)m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-71と重複しており、新旧関係は本造構→H-71の順である。出土遺物 総数3点。そのうち、壙2点を図示した。 備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

H-70号住居跡 (Fig.27)

位置 X28・29、Y136・137グリッド 主軸方向 N-99°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.32) m、南北(3.05) m、壁現高39cmを測る。面積(4.43)m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H 44・73と重複しており、新旧関係は本造構→H-44・73の順である。出土遺物 総数273点。 備考 時期は埋土や重複関係からHr-FP降下から9世紀中葉と考えられる。

H-71号住居跡 (Fig.37)

位置 X29、Y142グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 方形と推測される。東西(2.54)m、南北(1.71)m、壁現高58cmを測る。面積(2.55)m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-69と重複しており、新旧関係はH-69→本遺構の順である。出土遺物 総数15点。備考 時期は埋土や重複関係から6世紀中葉からHr-FP降下以前と考えられる。

H-72号住居跡 (Fig.37・66、PL.20)

位置 X27・28、Y133・134グリッド 主軸方向 N-91°-E 形状等 正方形。東西4.38m、南北4.19m、壁現高35cmを測る。面積 16.90m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南より検出され、主軸方向N-91°-E、全長73cm、最大幅101cm、焚口部幅47cmを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-20・56と重複しており、新旧関係はH-20・56→本遺構の順である。出土遺物 総数550点。そのうち、かわらけ1点、羽釜1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第4四半期と考えられる。

H-73号住居跡 (Fig.38・67、PL.20)

位置 X27・28、Y136・137グリッド 主軸方向 N-93°-E 形状等 長方形。東西[3.89]m、南北[3.42]m、壁現高38cmを測る。面積 [12.45]m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 東壁中央より検出され、主軸方向N-102°-E、全長88cm、最大幅88cm、焚口部幅72cmを測る。構築材として、粘土、凝灰岩を使用している。重複 H-28・45・70と重複しており、新旧関係はH-45・70→本遺構→H-28の順である。出土遺物 総数1178点。そのうち、高台皿2点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第2四半期と考えられる。

H-74号住居跡 (Fig.30・65、PL.20)

位置 X22・23、Y139・140グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.18)m、南北(3.92)m、壁現高54cmを測る。面積 (6.38)m² 床面 平坦で堅緻な床面。竈 検出されず。重複 H-49・50と重複しており、新旧関係はH-49→本遺構→H-50の順である。出土遺物 総数236点。そのうち、高台皿1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-75号住居跡 (Fig.36・65)

位置 X28・29、Y134・135グリッド 主軸方向 N-79°-E 形状等 方形と推測される。東西(1.36)m、南北(3.93)m、壁現高53cmを測る。面積 (4.53)m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-67・77重複しており、新旧関係は本遺構→H-77→H-67の順である。出土遺物 総数30点。そのうち、高台皿1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から10世紀第2四半期と考えられる。

H-76号住居跡 (Fig.39・65、PL.10・20)

位置 X26・27、Y140~142グリッド 主軸方向 N-61°-E 形状等 長方形と推定される。東西(4.54)m、南北(3.77)m、壁現高34cmを測る。面積 (15.01)m² 床面 ほぼ平坦な床面。炉 中央北より地床炉が検出され、長軸方向N-56°-E、長軸76cm、短軸56cm、深さ8cmを測る。重複 H-79と重複しており、新旧関係は本遺構→H-79の順である。出土遺物 総数473点。そのうち、壙1点、高坏1点、器台1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-77号住居跡 (Fig.36・65、PL.20)

位置 X28・29、Y134・135グリッド 主軸方向 N-52° E 形状等 方形と推測される。東西 (3.08) m、南北 (2.92) m、壁現高40cmを測る。面積 (6.26) m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-67・75と重複しており、新旧関係はII-75→本遺構→II-67の順である。出土遺物 総数95点。そのうち、かわらけ1点を図示した。備考 時期は埋土や重複関係から10世紀中葉と考えられる。

H-78号住居跡 (Fig.40・66、PL.20)

位置 X25・26、Y136・137グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 方形と推測される。東西 (2.20) m、南北 (2.49) m、壁現高35cmを測る。面積 (4.41) m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央南より検出され、主軸方向N-89°-E、全長100cm、最大幅91cm、焚口部幅51mを測る。構築材として、粘土を使用している。重複 H-15・38と重複しており、新旧関係は本遺構→H-38→H-15の順である。出土遺物 総数361点。そのうち、壺2点、甕1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第2四半期と考えられる。

H-79号住居跡 (Fig.39・66、PL.11・20)

位置 X24~26、Y140・141グリッド 主軸方向 N-70°-E 形状等 長方形。東西 [4.75] m、南北 [5.28] m、壁現高55cmを測る。面積 [21.50] m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央やや南より検出され、主軸方向N-53°-E、全長138cm、最大幅120cm、焚口部幅46cmを測る。構築材として、粘土、天井石に凝灰岩を使用している。重複 H-47・76と重複しており、新旧関係はH-76→本遺構→H-47の順である。出土遺物 総数601点。そのうち、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から6世紀第2四半期と考えられる。

H-80号住居跡 (Fig.41・66、PL.20)

位置 X23・24、Y140・141グリッド 主軸方向 N-65°-E 形状等 長方形と推定される。東西 (3.69) m、南北 (3.04) m、壁現高70cmを測る。面積 (7.91) m² 床面 平坦な床面。炉 北より地床炉が検出され、長軸方向N-10°-W、長軸60cm、短軸46cm、深さ 6 cmを測る。南側に川原石1石有。重複 H-7・47・48と重複しており、新旧関係は本遺構→H-7・47・48の順である。出土遺物 総数211点。そのうち、鉢1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-81号住居跡 (Fig.16)

位置 X23、Y136グリッド 主軸方向 N-64° E 形状等 方形と推測される。東西 (1.42) m、南北 (2.33) m、壁現高58cmを測る。面積 (2.18) m² 床面 平坦な床面。竈 検出されず。重複 H-23・51と重複しており、新旧関係は本遺構→H-23・51の順である。出土遺物 総数134点。備考 時期は埋土や出土遺物、重複関係から4世紀中葉から6世紀後半と考えられる。

H-82号住居跡 (Fig.66)

位置 X24・25、Y139・140グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 正方形と推定される。東西 [3.21] m、南北 [3.10] m、壁現高43cmを測る。面積 [9.47] m² 床面 ほぼ平坦な床面。竈 II-46に壊されていたが、掘り方より東壁中央より検出され、主軸方向 (N-83° E)、全長 (72) cm、最大幅 (92) cmを測る。重複 H-46・48と重複しており、新旧関係はH-48→本遺構→H-46の順である。出土遺物 総数475点。そのうち、甕1点、壺1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から9世紀第1四半期と考えられる。

H-83号住居跡 (Fig.40・66、PL.20)

位置 X25~27、Y139~140グリッド 主軸方向 N-53° E 形状等 方形と推測される。東西(4.10)m、南北(5.21)m、壁現高67cmを測る。面積(13.64)m² 床面 ほぼ平坦な床面。炉 中央北より地床炉が検出され、長軸方向N-37°-W、長軸69cm、短軸66cm、深さ11cmを測る。南寄りに川原石1石有。重複 H-16・22・40・85と重複しており、新旧関係は本造構→H-16・22・40・85の順である。出土遺物 総数293点。そのうち、鉢1点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-84号住居跡 (Fig.41・67、PL.20)

位置 X25~27、Y134~136グリッド 主軸方向 N-73° E 形状等 正方形。東西[4.76]m、南北[4.95]m、壁現高96cmを測る。面積[22.02]m² 床面 平坦で堅緻な床面。周溝有。炉 中央北より検出され、長軸方向N-23°-W、長軸104cm、短軸78cm、深さ12cmを測る。川原石2石有。中央部にもやや床面より落ち込む部分があるが炉とは断定できない。重複 H-11・26・56と重複しており、新旧関係は本造構→H-11・26・56の順である。出土遺物 総数490点。そのうち、鉢2点、壺2点を図示した。備考 時期は埋土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H-85号住居跡 (Fig.70、PL.21)

位置 X25、Y139~140グリッド 出土遺物 総数125点。そのうち、鉄製品の鉗1点を図示した。備考 H-83の北西に住居西壁の立ち上がりのみ確認できた。新旧関係はH-83→本造構→H-16の順である。

2 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.42、PL.11)

位置 X20~27、Y144~145グリッド 主軸方向 N-84°-E、N-89°-E 形状等 U字形。長さ25.7m、深さ36.5cm、最大上幅155cm、最大下幅117cmを測る。重複 H-31・32、W-2と重複しており、新旧関係はH-31・32→本造構→W-2の順である。備考 流水の痕跡無し。時期は埋土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig.42、PL.11)

位置 X20~27、Y145~146グリッド 主軸方向 N-77°-E、N-86°-E、N-84°-E 形状等 U字形。長さ27.1m、深さ48.5cm、最大上幅85cm、最大下幅48cmを測る。重複 H-30、W-1と重複しており、新旧関係はH-30、W-1→本造構の順である。備考 流水の可能性有。時期は埋土からAs-B降下以降と考えられる。

3 土 坑 (Fig.43・46・67・68・70、PL.1・11・12・20・21)

土坑については、Tab.4 土坑計測表(P29)を参照のこと。

縄文土坑からは、縄文時代中期の加曾利及び曾利の遺物が出土している。なお、JD-1・2・5・11の深鉢4点を図示した。

D-2からは2つの高台碗が上下重ねた状態で出土し、上の高台碗の底部には尖孔が1つある。また、赤味を帯びた石が周りに敷かれており、その1つには文字が書かれてある。詳細については「VIまとめ」で記述する。

なお、D—2 の高台橈 2 点、石 1 点を図示した。また、D—8 の鎌 2 点を図示した。

4 グリッド等出土遺物

小破片を含め総数14,564点の遺物を出土した。なお、瓦 1 点を図示した。

Tab. 2 穴穴住居跡一覧表(1)

遺構名	縦 横 (m)		面積(m ²)	主軸方向	炉・窓		周囲	主な出土 諸物		
	東西(床幅)	南北(奥行き)			位置・素材等	土器		陶器	その他	
H-1	4.63	4.57	0.66	16.57	N-70°-E	中央や西・地床炉	-		漆器・打製石斧	
H-2	(5.48)	(5.39)	0.81	(22.11)	N-90°-E	中央や南・石窓	-		漆器	
H-3	(3.07)	(2.97)	0.29	(6.29)	N-39°-E	東壁中央や南	-			
H-4	(3.68)	(3.76)	0.50	(14.52)	N-64°-E	東壁中央や北・粘土・凝灰岩	○	炉・窓		
H-5	(1.04)	(2.23)	0.18	(2.22)	N-86°-E	東壁南隅・粘土・川原石	-		瓦	
H-6	(1.49)	(4.42)	0.33	(4.76)	N-93°-E	東壁中央や南・粘土・凝灰岩・瓦	-	台付窓	蓋・环	刀子
H-7	3.92	3.53	0.66	12.70	N-74°-E	東壁中央や北・粘土・凝灰岩	○	环		
H-8	5.72	4.74	0.80	25.53	N-70°-E	東壁中央や南・粘土・凝灰岩	-	环・錘・甕		
H-9	[2.91]	2.56	0.37	[6.84]	N-89°-E	東壁中央や北・粘土	-		环	
H-10					欠	蒸				
H-11	5.09	4.47	0.32	21.38	N-83°-E	東壁中央・汚・川原石	-		かわらけ・高台輪	钉・瓦
H-12	7.51	7.58	0.49	55.36	N-65°-E	東壁中央や北・粘土	○	环・高环		
H-13	3.79	4.69	0.42	16.55	N-83°-E	東壁中央や北・粘土	○	环		粗石
H-14	(2.99)	(3.08)	0.39	(6.98)	N-76°-E	東壁・粘土・川原石・瓦	-	环・高台輪・羽茎		
H-15	3.24	3.48	0.39	9.66	N-91°-E	東壁中央南・粘土・石・凝灰岩	-	粗石・高台輪・甕・盆	瓦	
H-16	(4.34)	(5.47)	0.60	(14.93)	N-81°-E	-	-			
H-17	3.37	3.98	0.43	12.10	N-89°-E	東壁中央南・粘土・瓦・石	-	环	环	高台輪
H-18	2.45	2.99	0.48	6.51	N-100°-E	東壁中央や北・粘土・石	-		高台輪・羽茎	瓦
H-19	[3.61]	[3.15]	0.42	[10.13]	N-96°-E	東壁中央・粘土・石・凝灰岩	-	环	高台輪	
H-20	4.18	2.76	0.49	10.75	N-91°-E	東壁中央や北・粘土	-	环・甕	高台輪	
H-21	[3.10]	[3.61]	0.43	[10.68]	N-95°-E	東壁中央や北・粘土・瓦	-	环	环・高台輪	
H-22	4.94	3.85	0.50	13.89	N-80°-E	東壁中央・粘土	-	环	环・高台輪	井
H-23	[23.19]	[4.35]	0.51	[16.86]	N-89°-E	東壁中央南・粘土	-	环・錘・甕		
H-24	3.37	3.67	0.32	11.22	N-103°-E	東壁中央や北・粘土・石	-	环・甕	环・高台輪・羽茎	瓦
H-25	[5.18]	[3.89]	0.65	[17.61]	N-77°-E	東壁中央や北・粘土・石	-	环・甕	环・高台輪	净瓶
H-26	3.06	3.94	0.34	11.33	N-91°-E	東壁中央南・粘土	-	环	环・高台輪	筒形金具
H-27	4.42	5.05	0.42	26.87	N-90°-E	東壁中央や北・粘土・石・瓦・凝灰岩	-	环・甕	环・高台輪	丸網
H-28	2.30	1.98	0.41	4.31	N-90°-E	東壁中央・粘土・石・瓦	-		高台輪	丸
H-29	[3.49]	[4.04]	0.45	[12.67]	N-104°-E	東壁中央や北・粘土・瓦	-	环・甕	环・高台輪	平瓶・瓦
H-30	(6.05)	(6.05)	0.31	(23.66)	N-62°-E	-	○	甕		
H-31	(6.44)	(6.08)	0.32	(28.18)	N-99°-E	中央北・地床炉	-	环・甕		
H-32	(5.30)	(4.53)	0.73	(19.64)	N-58°-E	中央や北・地床炉	-	高台輪・甕		
H-33	5.90	4.09	0.69	22.20	N-63°-E	東壁中央・粘土・石・凝灰岩	○		高台輪	
H-34	4.07	2.90	0.43	10.85	N-87°-E	東壁中央南・粘土・石・凝灰岩	-	甕		
H-35	4.49	4.40	0.72	18.28	N-92°-E	西壁中央や南	○	环・甕		臼玉
H-36	2.62	3.74	0.27	9.17	N-95°-E	東壁南	-	环・高台輪		高台輪
H-37	(2.03)	(2.88)	0.45	(5.16)	N-88°-E	東壁	-	环・甕		
H-38	3.23	3.35	0.37	9.59	N-70°-E	東壁中央・粘土	-		高台輪・羽茎	臼玉
H-39	(2.67)	(3.66)	0.36	(8.62)	N-87°-E	東壁南・粘土	-		盖・环	
H-40	4.10	4.29	0.77	15.93	N-87°-E	東壁中央や北・粘土	-	环・高台輪	刀鋸具	
H-41	(3.94)	(1.52)	0.39	(8.00)	N-87°-E	-	-	环・羽茎		
H-42	4.64	3.73	0.39	16.16	N-76°-E	東壁南・粘土	-	甕	蓋・高台輪	砂槌等
H-43	(4.59)	(3.58)	0.42	(15.33)	N-78°-E	東壁・粘土・瓦	-	环・甕	高台輪	瓦

Tab. 2 猪穴住居跡一覧表(2)

遺構名	面積 (m)		面積 (m ²)	南北方向	鉢・壺		周辺	主な出土遺物		
	東西(奥行)	南北(幅)			位置・素材等	土師器		須恵器	その他	
H-44 (2.98)	(3.55)	0.54	(5.34)	N-115°-E	—	—	壁	壺・高台柵		
H-45 [3.91]	[3.12]	0.44	[10.87]	N-89°-E	東壁・粘土・瓦	—	—	壺		
H-46 4.02	5.31	0.58	19.44	N-84°-E	東壁中央や南・粘土・石、瓦	—	壺	壺	瓦	
H-47 5.18	6.44	0.72	29.36	N 70°-E	東壁中央南・粘土・礫灰岩	○	壺	壺・高台柵・壺		
H-48 3.56	4.24	0.51	14.75	N-91°-E	東壁中央南・路土	—	壺・壺	壺・壺	鉄錠・瓦	
H-49 3.54	4.80	0.55	15.81	N-80°-E	東壁中央南・粘土・礫灰岩	—	壺	壺・高台柵・壺		
H-50 3.40	4.45	0.44	14.16	N-93°-E	東壁中央南・粘土・川原石・瓦	—	壺・壺	高台柵	軋用板	
H-51 4.74	4.90	0.70	21.52	N-101°-E	東壁中央・粘土・瓦、安山岩	—	壺・壺	壺・高台柵	砾石	
H-52 [3.44]	(3.68)	0.46	(11.81)	N 81°-E	東壁中央南・粘土・安山岩	—	—	高台柵	鉄錠	
H-53 3.21	2.68	0.35	7.37	N-85°-E	南型中央・粘土・石	—	—	高台柵・羽茎	瓦	
H-54 4.28	4.84	0.37	18.47	N-78°-E	東壁中央南・粘土・川原石	—	壺・壺	—	凹石	
H-55 [2.36]	(1.48)	0.33	(2.25)	N-62°-E	—	—	—	—	瓦	
H-56 [4.12]	(5.15)	0.34	[14.05]	N-85°-E	—	—	—	—	かわらけ	
H-57 [2.72]	[2.23]	0.31	[5.71]	N 95°-E	東壁中央	—	—	—	—	
H-58	セクションのみ									
H-59 4.48	3.88	0.61	16.18	N-73°-E	中央北・球珠炉・川原石	—	鉢・壺・壺	—		
H-60 3.30	4.40	0.45	13.19	N-78°-E	東壁中央やや南・粘土・H.	—	壺	高台柵	瓦	
H-61 [1.78]	[2.60]	0.20	(4.01)	N 75°-E	東壁中央南・粘土・礫灰岩	—	—	羽茎		
H-62 [2.12]	(2.09)	0.17	(2.38)	N 95°-E	—	—	—	壺・高台柵		
H-63	穴 壁									
H-64 (3.42)	(4.94)	0.51	(15.73)	N-86°-E	東壁中央やや南・粘土	—	鉢	壺		
H-65 (1.39)	(4.65)	0.35	(5.64)	N 80°-E	—	—	—	—		
H-66 (5.49)	(6.32)	0.78	(29.99)	N-56°-E	中央北・地床炉	—	鉢・壺	—		
H-67 [2.98]	(4.53)	0.45	(11.11)	N-91°-E	—	—	—	高台柵		
H-68 (3.94)	(4.02)	0.16	(10.45)	N-76°-E	北・地床炉	—	鉢・壺	—		
H-69 (1.93)	(0.92)	0.46	(1.20)	N-89°-E	—	—	—	—	—	
H-70 [2.32]	(3.05)	0.39	(4.43)	N 99°-E	—	—	—	—		
H-71 (2.54)	(1.71)	0.58	(2.55)	N-91°-E	—	—	—	—		
H-72 4.38	4.19	0.35	16.90	N-91°-E	東壁南・粘土	—	—	かわらけ・羽茎		
H-73 [3.89]	[3.42]	0.38	[12.45]	N-93°-E	東壁中央・粘土・礫灰岩	—	—	高台柵・壺	高台柵	
H-74 [3.18]	(3.92)	0.54	(6.38)	N 99°-E	—	—	—	高台柵		
H-75 (1.36)	(3.93)	0.53	(4.53)	N 79°-E	—	—	—	—	高台柵	
H-76 (4.54)	(3.77)	0.34	(15.01)	N-61°-E	中央北・地床炉	—	鉢・器台	—	—	
H-77 (3.08)	(2.92)	0.46	(6.26)	N-52°-E	—	—	—	—	かわらけ	
H-78 (2.20)	(2.49)	0.35	(4.41)	N-82°-E	東壁中央南・粘土	—	壺	壺		
H-79 [4.75]	[5.28]	0.55	[21.50]	N 70°-E	東壁中央やや南・粘土・礫灰岩	—	壺	—		
H-80 (3.69)	(3.64)	0.70	(7.91)	N 65°-E	北・地床炉・川原石	—	鉢	—		
H-81 (1.42)	(2.33)	0.58	(2.18)	N-64°-E	—	—	—	—		
H-82 [3.21]	[3.10]	0.43	[9.47]	N-86°-E	東壁中央	—	壺	壺		
H-83 (4.10)	(5.21)	0.67	(13.64)	N-53°-E	中央北・地床炉・川原石	—	鉢	—		
H-84 [4.76]	(4.95)	0.96	[22.02]	N 73°-E	中央北・地床炉・川原石	○	鉢・壺	—		
H-85	西壁立ち上がりのみ確認									

Tab. 3 溝跡計測表

遺構名	位 置	長さ (m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		方 位	形状	備 考 覆土・遺物
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W-1	X20~27 Y144,145	25.7	36.5	2.5	155	76	117	51	西側よりN-84°-Eの方向に19.3m進み、そこからN-89°-Eの方向に6.4m進んで東壁にぶつかる	U字形	古代
W-2	X20~27 Y145,146	27.1	48.5	23.5	85	65	48	41	西壁よりN-77°-Eの方向に7.4m進み、そこからN-86°-Eの方向に10m進み、さらN-84°-Eの方向に9.7m進んで東壁にぶつかる	U字形	中世

Tab. 4 土坑計測表

遺構名	位 置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形 状	備 考
JD-1	X21、Y137	117	116	38	円 形	
JD-2	X22、Y139	120	115	79	円 形	
JD-3	X21、Y140	114	104	22.5	円 形	
JD-4	X23、Y139	148	110	44.5	椭 圆 形	
JD-5	X21、Y145	66	35	23.5	椭 圆 形	
JD-6	X21、Y145	63	50	37.5	椭 圆 形	
JD-7	X21、Y145	78	65	19.5	椭 圆 形	
JD-8	X23,24、Y139	196	120	96.5	椭 圆 形	
JD-9	X20、Y143	12	11	9.5	円 形	
JD-10	X20,21、Y144	32	30	18	円 形	
JD-11	X23、Y137	27	25	31	円 形	
D-1	X26、Y139,140	126	116	26.5	円 形	
D-2	X27、Y133	57	44	21	椭 圆 形	
D-3	X24、Y139	86	67	99	椭 圆 形	
D-4	X22、Y138	120	51	9.5	椭 圆 形	
D-5	X22、Y146,147	(113)	(68)	(85)	不 整 形	
D-6	X25,26、Y144	80	60	31	椭 圆 形	
D-7	X25、Y139	75	70	46.5	正 方 形	
D-8	X25、Y140	70	62	67.5	椭 圆 形	
D-9	X26、Y135,136	174	120	108	椭 圆 形	

Tab. 5 調査時代出土土器観察表

番号	通巻番号/層位	器種	①U字/②高さ	③出土状況/底面調査	器種の特徴・整形・調査技術	備考
1	J-1-1 埋土	深鉢	① [16.5] ② [24.1]	①中粒②良好③暗褐色 ④口縁破片	平口縁。全面L斜綫文。口縁部4ヶ所に長さ3.5cm、幅1.4cmの耳たぶ状の突起。底部径8.0cmの平底。	追跡C
2	J-1-2 埋土	深鉢	① [26.1] ② [13.3]	①粗粒②良好③暗褐色 ④口縁・脚部破片	平口縁。口縁部に深い押捺の爪形文、口縁部は集合条線を横方向に巡らせ、脚部は集合条線を縦・斜に施す。	追跡C
3	J-1-3 埋土	深鉢	① [20.0] ② [9.1]	①中粒②良好③暗褐色 ④口縁破片	平口縁。口縁部に深い押捺の爪形文、2つ1組の径2cmの円形状の突起。口縁部は上位に集合条線を横方向に巡らせ、下位に斜め状の集合条線を巡らせる。脚部は縦・横・斜方向に弧を描いた集合条線。	追跡C
4	J-1-4 埋土	深鉢	① [24.0] ② [12.0]	①中粒②良好③よい 褐色④口縁破片	平口縁。口縁部は集合条線を横方向に巡らせ、頭部にボタン状貼付文・棒状貼付文。脚部は縦・横・斜方向に弧を描いた集合条線。	追跡C
5	J-1-5 埋土	深鉢	① [20.9] ② [14.4]	①中粒②良好③暗褐色 ④口縁破片	平口縁。全面擦糸文R。	追跡C
6	J-1-6 埋土	深鉢	① [3.6] ② [—]	①中粒②良好③暗褐色 ④口縁破片	平口縁。全面に刻文文を施す。	興味
7	J-1-7 埋土	深鉢	① [—] ② [—]	①中粒②良好③浅黄褐色 ④口縁破片	大波状口縁。口縁部に突葉を有し、その上・下面は横方向の集合条線。縫合部の下は横・縦・斜め状の集合条線。	追跡C
8	J-1-8 埋土	深鉢	① [—] ② [—]	①中粒②良好③浅黄褐色 ④口縁破片	上位は船帆状の集合条線の中にボタン状貼付文。下位は横方向の集合条線。	追跡C
9	J-1-9 埋土	深鉢	① [—] ② [—]	①中粒②良好③浅黄褐色 ④口縁破片	大波状口縁の突起部。三角錐状で、外側集合条線にボタン状貼付文。	追跡C
10	J-1-10 埋土	深鉢	① [—] ② [—]	①粗粒②良好③浅黄褐色 ④口縁破片	三角形状の透かし孔有。外側集合条線。	追跡C
11	J-2-1 埋土	深鉢	① [30.0] ② [31.1]	①中粒②良好③よい 褐色④1/2	口縁部や外側斜する4枚目の波状口縁。波状部下に隆帯溝文、その左側に波状による区画、区画内は網目状擦糸文。肩部網目状擦糸文、頸部より幅2.5~3.5cmの無文帶が5部位有。	加曾利E 3
12	J-2-2 埋土	深鉢	① [34.0] ② [14.3]	①中粒②良好③よい 褐色④口縁破片	4枚目の波状口縁。波状部の内面には向かい合う2個ずつの円形の窓み有。波状部下に隆帯溝文、その両側に波状による区画、区画内はR L斜綫文。2つの窓みによる区画の両端に幅1cmの円孔有。	加曾利E 2
13	J-2-3 床面	深鉢	① [26.8] ② [10.0]	①中粒②良好③黒褐色 ④口縁破片	平口縁。口縁部より逆U字状に区画、区画内はR L斜綫文、区画の間に糠子状の沈線。	加曾利E 3
14	J-2-4 床面	深鉢	① [26.1] ② [17.2]	①中粒②良好③よい 褐色④口縁破片	平口縁。口縁部に隆帯による区画、隆帯溝文。区画内はR L斜綫文。隆帯による区画の下はR L斜綫文。隆帯下に幅1.4~1.8cmの無文帶有。	加曾利E 2
15	J-2-5 埋土	深鉢	① [27.8] ② [17.0]	①中粒②良好③よい 褐色④口縁破片	平口縁。口縁部無文帶、その下に1条の沈線を巡らせ、脚部傾方向の柔軟性。	加曾利E 4
16	J-2-6 埋土	浅鉢	① [—] ② [—]	①中粒②良好③よい 褐色④口縁破片	波状口縁か。口縁部肥厚し、肥厚部内面に沈線。	加曾利B
17	JD-1 床面	深鉢	① [44.0] ② [24.6]	①中粒②良好③灰褐色 ④口縁破片	平口縁。口縁部に隆帯による区画、隆帯溝文。区画内は条線。脚部にR L斜綫文。隆帯による区画の下はR L斜綫文。	加曾利E 3
18	JD-2-1 床面	深鉢	① [16.4] ② [16.5]	①中粒②良好③よい 褐色④は完形	平口縁。全面傾方向の条線。	加曾利E 3
19	JD-5-1 床面	深鉢	① [42.0] ② [28.5]	①中粒②良好③よい 褐色④1/3	平口縁。口縁部に隆帯による4つの区画、区画内はR L斜綫文。脚部R L斜綫文に幅3cmの無文帶を垂下。	加曾利E 3
20	JD-11 床面	深鉢	① [25.5] ② [34.1]	①中粒②良好③褐色④1/2	平口縁。キャリバーパ形。口縁部無文帶。全体がU字状・逆U字状の沈線で区画され、区画内はR L斜綫文。底部: 幅7.1cm平底。	加曾利E 4

(注) ①層位は、「床面」: 床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」: 床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。案内の検出については「電内」と記載した。

②U字、高さの単位はcmであり、量の単位はgである。現存値を()、復元値を[]で示した。

③地質は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な地質が入る場合に地質名等を記載した。

④地質は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は上部外観で観察し、色名は新版標準土色板(小山・竹原1976)によった。

Tab. 6 古墳・奈良・平安時代出土土器觀察表

番号	遺物番号/器種	基準	①口縁直面	②底上地成形直面	③底上地成形直面	器種の特徴・整形・調整技術		備考
						④内面直面	⑤外縁直面	
1	H-2-1 床直	环 土師器	① [11.4] ② (4.0)	①細粒②良好③褐色 ④1/4	口縁部：短く直立、内・外縁横擴で。交換点に後有。底部：浅い丸底、内面直面で、外縁削り。			
2	H-2-2 床直	麦 土師器	① [19.0] ② (18.3)	①中粒②良好③にい ②褐色④1/6	口縁部：器最大径、直立から端部外反、内・外縁横擴で。颈部にくびれ無。副部：内面直面で、外縁削り。底部：欠損。			
3	H-4-1 埋土	麦 土師器	① [18.2] ② (3.4)	①細粒②良好③灰色 ②5.0 ④1/5	輪縁整形。天井部：水平から外傾、外縁回転窪削り、端部内・外面直面で、夷み：小さい环状彫み。			
4	H-4-2 床直	环 土師器	① [12.1] ② 5.0	①細粒②良好③灰色 ②4.0 ④ほぼ完形	輪縁整形。口縁・体部：小さく外傾、内・外縁削り。底部：径7.2mmの平底、内面直面で、外縁回転糸切り。			
5	H-4-3 床直	台白麥 土師器	① [12.5] ② (13.0)	①細粒②良好③にい ②褐色④1/3	口縁部：直立気味から端部や外反、内・外縁横擴で。副部：中位に器最大径を持ち、内面直面で、外縁斜め糸切り。台部：大きく外傾、輪縁欠損。			
6	H-5-1 床直	环 須恵器	① [12.9] ② 3.6	①細粒②良好③褐色 ②4.0 ④1/4	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁直面。底部：径7.5mmの平底、内面直面で、外縁回転糸切り。		外縁に自然 軋	
7	H-7-1 床直	环 土師器	① [11.8] ② 4.9	①細粒②良好③褐色 ②4.0 ④完形	口縁部：直立から端部や外反、内・外縁横擴で。交換点に弱い棱有。底部：浅い丸底、内面直面で、外縁削り。			
8	H-7-2 床直	麦 土師器	① [14.0] ② (12.0)	①細粒②良好③褐色 ②4.0 ④2/3	口縁部：器最大径、外傾、内・外縁横擴で。颈部にくびれ無。副部：内面直面で、外縁回転糸切り。底部：欠損。			
9	H-7-3 床直	麦 須恵器	① [26.4] ② (7.9)	①細粒②良好③褐色 ②4.0 ④口縁	輪縁整形。口縁部：外縁から外反、内・外縁横擴で、口縁端部鉛直溝による2本の沈棒有。外面に波状文が2道有る。胴部・底部：欠損。			
10	H-8-1 床直	环 土師器	① [12.7] ② 5.0	①細粒②良好③にい ②褐色③ほぼ完形	口縁部：短く直立、端部や外反、内・外縁横擴で。交換点に弱い棱有。底部：丸底、内面直面で、外縁糸切り。			
11	H-8-2 冰直	钵 土師器	① [18.6] ② 7.1	①細粒②良好③にい ②褐色④1/2 ④2/3	口縁部：短く直立、端部や外反、内・外縁横擴で。交換点に弱い棱有。底部：丸底、内面直面で、外縁糸切り。			
12	H-8-3 床直	麦 土師器	① [13.4] ② (12.0)	①細粒②良好③にい ②褐色④1/6	口縁部：外縁、内・外縁横擴で、口縁端部鉛直溝による2本の沈棒有。副部：内面直面で、外縁削り。底部：欠損。			
13	H-9-1 床直	环 須恵器	① [12.4] ② 3.6	①細粒②良好③灰色 ②3.6 ④2/3	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁横擴で、口縁端部鉛直溝による2本の沈棒有。底部：径7.9mmの平底、内面直面で、外縁糸切り。			
14	H-11-1 床直	かわらけ 土師器	① [10.8] ② 3.2	①細粒②良好③にい ②褐色④1/2 ④2/3	輪縁整形。口縁・体部：大きく外傾、内・外縁直面。底部：径4.5mmの平底、内面直面で、外縁糸切り。			
15	H-11-2 床直	かわらけ 土師器	① [10.0] ② 3.2	①細粒②良好③灰白色 ②4.0 ④1/2	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁直面。底部：径4.5mmの平底、内面直面で、外縁糸切り。			
16	H-11-3 床直	かわらけ 須恵器	① [11.0] ② 3.4	①細粒②良好③褐色 ②3.4 ④3/4	輪縁整形。口縁・体部：大きなく外傾、内・外縁直面。底部：径5.0mmの平底、内面直面で、外縁糸切り。			
17	H-11-4 床直	高台輪 須恵器	① [10.8] ② 4.4	①細粒②良好③褐色 ②4.4 ④完形	輪縁整形。口縁・体部：外傾、口縁端部や外反、調厚、内・外縁横擴で。底部：内面直面で、外縁糸切り後付け高台。		酸化焰	
18	H-11-5 床直	高台輪 須恵器	① [13.0] ② 4.8	①細粒②良好③褐色 ②4.8 ④ほぼ完形	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁横擴で。底部：内面直面で、外縁糸切り後付け高台。		酸化焰	
19	H-11-6 床直	高台輪 須恵器	① [12.0] ② 5.1	①細粒②良好③にい ②褐色④1/3	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁横擴で。底部：内面直面で、外縁糸切り後付け高台。		酸化焰	
20	H-11-7 床直	小 灰 釉	① — ② (8.1)	①細粒②良好③灰 ②リーピー色④1/3	輪縁整形。口縁・底部：欠損。体部：内・外縁直面。底部：回転糸切り後付け高台。			
21	H-11-8 床直	土 蓋 土師器	① [25.4] ② (23.0)	①中粒②良好③にい ②赤褐色④1/2	輪縁整形。口縁・底部：大きく外傾、内・外縁横擴で。副部：内面直面で、外縁削り。底部：径11.4mmの平底、既削り。			
22	H-12-1 床直	环 土師器	① [12.8] ② 4.5	①細粒②良好③褐色 ②4.5 ④ほぼ完形	輪縁整形。口縁・体部：直立、内・外縁横擴で。交換点に棱有。底部：浅い丸底、内面直面で、外縁削り。			
23	H-12-2 床直	高 环 土師器	① [17.4] ② (11.5)	①細粒②良好③明赤褐色 ②4.0 ④2/3	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁横擴で。交換点に棱有。底部：浅い丸底、内面直面で、外縁削り。脚部：外縁被削り削り。輪縁は欠損。			
24	H-12-3 床直	台付碗 土師器	① [10.7] ② (17.9)	①細粒②良好③褐色 ②5.0 ④2/3	輪縁整形。口縁・体部：外・内・外縁横擴で、体部：内面直面で、外縁削り。副部：内面端部で大きく開く、外縁上位削り、下位削り。			
25	H-13-1 電内	环 土師器	① [12.7] ② 3.1	①細粒②良好③にい ②褐色④1/4	輪縁整形。口縁・体部：短く直立気味、内・外縁横擴で。底部：平底気味、内面直面で、外縁削り。			
26	H-13-2 床直	环 土師器	① [12.0] ② 3.7	①細粒②良好③褐色 ②3.7 ④1/4	輪縁整形。口縁・体部：外傾、端部内・外縁横擴で。内面直面で、外縁削り。底部：平底、内面直面で、外縁削り。			
27	H-14-1 埋土	环 須恵器	① [10.4] ② 3.2	①細粒②良好③にい ②褐色④1/2	輪縁整形。口縁・体部：大きなく外傾、内・外縁直面。底部：径4.4mmの平底、内面直面で、外縁糸切り。		漆付着	
28	H-14-2 埋土	环 須恵器	① [12.2] ② 4.0	①細粒②良好③暗褐色 ②4.0 ④3/4	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁直面。底部：径6.3mmの平底、内面直面で、外縁糸切り。		いぶし焼成 か	
29	H-14-3 高台輪 須恵器	环 須恵器	① [12.7] ② (17.9)	①細粒②良好③にい ②褐色④ほぼ完形	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁直面。底部：内面直面で、外縁糸切り後付け高台。		酸化焰	
30	H-14-4 埋土	高台輪 須恵器	① [12.6] ② 5.4	①細粒②良好③浅黄色 ②5.4 ④3/4	輪縁整形。口縁・体部：外傾、内・外縁直面。底部：内面直面で、外縁糸切り後付け高台。		体部内面墨 書き	

番号	遺傳子番号/遺伝子	頭部	①口部②消化	③嚙む機能④毛皮保護能	器管の特徴・整形・調整技術	備考
31	H-14-5 床直 羽垂 頭部	羽 垂 頭部	① [21.9] ② [19.6]	①細胞②良好③によい 黄褐色④/6	機械整形。口縫合部：内側、内・外側横撫で。脇部：丸みを帯び、やや上 向きに付く。脇部：内・外側撫で。底部：欠損。	散化焰
32	H-15-1 耳 直 埋土 頭部	耳 直 頭部	① 8.0 ② 2.2	①細胞②良好③灰白色 ④ほぼ完形	機械整形。かわらけを使用。折り曲げ部の径3.4mm。	
33	H-15-2 高台輪 埋土 頭部	高台輪 頭部	① [13.4] ② 3.0	①細胞②良好③灰白色 ④1/2片	機械整形。口縫合部：内側、体部：大きめ外輪、口縫合部欠損さえ。底部：回転糸 切り後付け高台、荒頭部。油墨はつけかけ。	
34	H-15-3 高台輪 床直 頭部	高台輪 頭部	① 13.1 ② 4.6	①中粒②良好③灰白色 ④リーブ⑤完形	機械整形。口縫合部：外輪、口縫合部やや外反、肥厚、内・外側撫で。	体部側面患 害
35	H-15-4 高台輪 埋土 頭部	高台輪 頭部	① [12.9] ② 4.5	①中粒②良好③灰白色 ④1/3	機械整形。口縫合部：外輪、体部：外輪、口縫合部やや外反、肥厚、内・外側撫で。底部： 回転糸切り後付け高台。	体部側面患 害
36	H-15-5 高台輪 床直 頭部	高台輪 頭部	① — ② (6.5) ③ 4/3	①粗粒②良好③明赤 色④1/3	機械整形。口縫合部：外輪、体部：外輪、内・外側撫で。口縫合部欠損。底部：回 転糸切り後付け高台。高台部は足底。	散化焰
37	H-15-6 羽 直 埋土 頭部	羽 直 頭部	① [18.5] ② 32.6	①中粒②良好③によい 黄褐色④1/5	機械整形。口縫合部：内側、内・外側撫で。脇部：三角形、ほぼ水平に付 く。脚部上部：内・外側撫で。底部：欠損。	散化焰
38	H-15-7 表 直 床直 頭部	表 直 頭部	① [14.9] ② 32.6	①中粒②良好③灰白色 ④1/2	機械整形。口縫合部：外毒気味、内・外側撫で。口縫合部欠損さえ。房型： 中粒や上に影響を及ぼす所を持ち、内・外側撫で、外縫合下位対所。底部： 直径14.0mmの平面、内・外側撫で、外縫合剪り。	
39	H-15-8 床直 頭部	床直 頭部	① — ② (25.2)	①細胞②良好③帶色 ④1/4	機械整形。口縫合部：欠損。脇部：内・外側撫で。底部：水平方向に大き く開く。底から約8cmの所に円形状の瘤み4つ有。	散化焰
40	H-17-1 坏 直 床直 頭部	坏 直 頭部	① [13.0] ② 3.9	①細胞②良好③によい 黒褐色④1/2	機械整形。口縫合部：外輪、口縫合部やや外反、肥厚、内・外側撫で。	散化焰
41	H-17-2 高台輪 床直 頭部	高台輪 頭部	① [14.2] ② 4.2	①細胞②良好③オリー グ灰色④1/2	機械整形。口縫合部：大きめ外輪、内・外側撫で。底部：回転糸切り 後付け高台、油墨。油墨はつけかけ。	
42	H-17-3 埋土 頭部	埋土 頭部	① [17.5] ② (8.5)	①中粒②良好③オリー グ灰色④1/2	口縫合部：やや内側から外輪、内・外側撫で。脇部上位：内側撫で、外 側撫剪り。底部：欠損。	
43	H-18-1 高台輪 床直 頭部	高台輪 頭部	① [14.4] ② 5.4	①中粒②良好③オリー グ灰色④1/4	機械整形。口縫合部：外輪、口縫合部やや肥厚、内・外側撫で。底部： 回転糸切り後付け高台。	
44	H-18-2 高台輪 床直 頭部	高台輪 頭部	① [14.4] ② 6.8	①中粒②良好③灰白色 ③/5	機械整形。口縫合部：外輪、口縫合部やや外反、内・外側撫で。底部： 回転糸切り後付け高台。	
45	H-18-3 高台輪 床直 頭部	高台輪 頭部	① 15.8 ② 5.9	①細胞②良好③によい 黒褐色④ほぼ完形	機械整形。口縫合部：外輪、口縫合部やや肥厚、内・外側撫で。底部： 回転糸切り後付け高台。	散化焰
46	H-18-4 羽 直 床直 頭部	羽 直 頭部	① [17.8] ② (10.1)	①中粒②良好③灰白色 ④破片	機械整形。口縫合部：粗く内輪から直立、内・外側撫で。脇部：三角形、 ほぼ水平に付く。脚部上位：内・外側撫で。底部：欠損。	
47	H-19-1 坏 直 土筋部	坏 直 土筋部	① [11.6] ② 3.7	①細胞②良好③によい 青褐色④1/2	口縫合部：外輪、口縫合部内・外側撫で。体部内面暗文有、外側 剪り。底部：径5.9mmの平底。	
48	H-19-2 高台輪 埋土 頭部	高台輪 頭部	① [14.9] ② 5.4	①中粒②良好③オリー グ黑色④1/4	機械整形。口縫合部：外輪、内・外側撫で、口縫合部やや肥厚。底部： 回転糸切り後付け高台。	外而いおし 焼成
49	H-20-1 坏 直 土筋部	坏 直 土筋部	① [12.6] ② 3.7	①中粒②良好③によい 桔梗色④1/4	口縫合部：外輪、口縫合部内・外側撫で、体部内面暗文有、外側 剪り。底部：平底。	
50	H-20-2 高台輪 埋土 頭部	高台輪 頭部	① [15.0] ② 5.3	①細胞②良好③灰白色 ④1/3	機械整形。口縫合部：外輪、内・外側撫で。底部：回転糸切り後付け 高台。	外而自然輪
51	H-20-3 床直 土筋部	床直 土筋部	① [13.0] ② (6.5)	①中粒②良好③によい 桔梗色④破片	口縫合部：直立から外反、内・外側横撫で。脇部上位：内側撫で、外側 剪り。	
52	H-21-1 高台輪 床直 頭部	高台輪 頭部	① [14.7] ② 3.7	①細胞②良好③オリー グ灰色④ほぼ完形	機械整形。口縫合部：大きめ外輪、口縫合部欠損さえ。底部：高台を 付けた後側で調整。高台に縫い接着。油墨は削り落とす。	
53	H-21-2 坏 直 土筋部	坏 直 土筋部	① [12.6] ② 4.6	①中粒②良好③桔梗色 ④ほぼ完形	口縫合部：外輪、口縫合部内・外側撫で。底部：径8.6mmの平底、寬 肩剪り。	
54	H-21-3 埋土 頭部	坏 直 土筋部	① 11.9 ② 3.7	①中粒②良好③明赤褐 色④ほぼ完形	機械整形。口縫合部：外輪、内・外側撫で。底部：径6.3mmの平底、内 側撫剪り、外側回転糸剪り。	散化焰
55	H-21-4 埋土 頭部	坏 直 頭部	① 12.5 ② 3.3	①細胞②良好③灰白色 ④完形	機械整形。口縫合部：外輪、内・外側撫で。底部：径7.0mmの平底、内 側撫剪り、外側回転糸剪り。	
56	H-21-5 埋土 頭部	高台輪 頭部	① [15.3] ② (5.0)	①中粒②良好③灰白色 ④1/4	機械整形。口縫合部：外輪、口縫合部やや外反、内・外側撫で。底部： 回転糸切り後付け高台が高台部欠損。内面に隙間有。	底部内面線 用
57	H-21-6 高台輪 埋土 頭部	高台輪 頭部	① [15.0] ② 4.6	①中粒②良好③暗灰白色 ④1/3	機械整形。口縫合部：外輪、口縫合部肥厚、内・外側撫で。底部：回 転糸切り後付け高台。	いよし焼成
58	H-21-7 高台輪 埋土 頭部	高台輪 頭部	① [12.5] ② 4.7	①中粒②良好③灰白色 ④2/3	機械整形。口縫合部：外輪、内・外側撫で。底部：平底、内面暗で、外側 完形。	
59	H-22-1 埋土 頭部	坏 直 土筋部	① [13.0] ② (3.0)	①中粒②良好③桔梗色 ④1/3	口縫合部：やや外輪、内・外側横撫で。底部：平底、内面暗で、外側 完形。	
60	H-22-2 埋土 頭部	坏 直 頭部	① [13.4] ② 3.6	①中粒②良好③灰白色 ④3/4	機械整形。口縫合部：外輪、内・外側撫で。底部：径6.9mmの平底、内 側撫剪り。	

番号	遺傳子/形態	特徴	①口唇2葉高 ②頭部	③脚部	④脚尖	器種の特徴・整形・調整技術		備考
						①脚部②良好③灰色 —	④脚尖	
61	H-22-3 床直 頭部	坏	① [13.4] —	①脚部②良好③灰色 —	④脚尖	被触整形。口縫・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で。欠損。		
62	H-22-4 床直 頭部	坏	① [16.4] —	①脚部②良好③灰白色 —	④脚尖	被触整形。口縫・体部：外傾、内・外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台。		
63	H-23-1 床直 土筋器	坏	① [12.0] —	①脚部②良好③黒褐色 —	④脚尖	口縫部：短く直立、内・外面撫で。交換点に棱有。底部：丸底でやや突出気味、内面撫で、外面荒削り。		
64	H-23-2 床直 土筋器	坏	① [12.2] —	①脚部②良好③淡黄色 —	④脚部④完形	口縫部：直立気味、内・外面撫で。交換点に棱有。底部：丸底でやや突出気味、内面撫で、外面荒削り。		
65	H-23-3 床直 土筋器	坏	① [23.0] —	①脚部②良好③褐灰色 —	④脚部④完形	口縫部：やや外傾、内・外面撫で。交換点に棱有。底部：丸底、内面撫で、外面荒削り。		
66	H-23-4 床直 土筋器	変	① [12.6] 3.1	①中段②良好③橙色 —	④脚部④完形	口縫部：直立から短く外傾、内・外面撫で。脚部：内面撫で後巻き、外面荒削り後廢止。底部：欠損。		
67	H-24-1 埋土	坏	① [11.8] 3.3	①中段②良好③橙色 —	④脚部④完形	口縫・体部：外傾、口縫端部内・外面撫で。底部：径7.5mmの平底、内面撫で、外面荒削り。		
68	H-24-2 埋土	坏	① [12.6] 5.5	①脚部②良好③橙色 —	④脚部④完形	口縫・体部：外傾、口縫端部内・外面撫で。底部：径6.9mmの平底、内面撫で、外面荒削り。		
69	H-24-3 床直 頭部	坏	① [12.2] 3.6	①中段②良好③にいじ —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：外傾から端部や外反、内・外面撫で。底部：被触部4.5mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
70	H-24-4 床直 頭部	高台	① [13.6] 4.6	①脚部②良好③にいじ —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：外傾、内・外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台。		
71	H-24-5 床直 頭部	高台	① [23.1] 7.5	①脚部②良好③にいじ —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：直大きく外傾、内・外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台が当たる部欠損。		
72	H-24-6 床直 土筋器	台付裏	① [13.0] 16.2	①脚部②良好③橙色 —	④脚部④完形	口縫部：短く直立から外傾、内・外面撫で。脚部：中位や上に器最大、内面撫で、外面荒削り。台部：大きめ外傾、内・外面撫で。		
73	H-24-7 床直 土筋器	達	① [19.5] 13.0	①脚部②良好③明赤 —	④脚部④完形	口縫部：短く内傾から外傾、内・外面撫で。脚部：内面撫で、外面荒削り。底部：欠損。		
74	H-24-8 床直 頭部	第	① [17.8] 23.3	①中段②良好③灰白色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫部：内傾、内・外面撫で。脚部：三角形、ほぼ水平に付く。脚部：内・外面撫で。底部：欠損。		
75	H-24-9 床直	頭	① [20.1] 20.0	①脚部②良好③淡黄色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫部：直立、内・外面撫で。脚部：三角形、ほぼ水平に付く。脚部：内・外面撫で。内面に爪状の溝み2つ有。底部：欠損。		
76	H-25-1 床直 土筋器	坏	① [11.7] 3.6	①中段②良好③橙色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：直立、内・外面撫で。底部：平底氣味、内面撫で、外面荒削り。		
77	H-25-2 埋土	坏	① [12.5] 3.8	①脚部②良好③灰白色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：小さく外傾、内・外面撫で。底部：径7.7mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
78	H-25-3 埋土	高台	① [11.8] 3.7	①脚部②良好③灰白色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：小さく外傾、内・外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台が当たる部欠損。		
79	H-25-4 埋土	達	—	①脚部②良好③4リー —	④脚部④頭部	被触整形。頭部のみ。袖葉は刷毛張り。		
80	H-25-5 床直	要	① [20.9] 19.5	①脚部②良好③にいじ —	④脚部④破片	口縫部：外傾、内・外面撫で。頭部にくびれ有。脚部：器最大径、内面撫で、外面荒削り。底部：欠損。		
81	H-26-1 床直	達	① [14.3] 3.0	①脚部②良好③灰白色 —	④脚部④完形	被触整形。天井部：縫合から外傾、外面回転糸切り、縫合部内・外面撫で、返り無。縫合部：環状構造。		
82	H-26-2 床直	坏	① [12.2] 3.0	①脚部②良好③橙色 —	④脚部④完形	口縫部：直立気味、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面荒削り。		
83	H-26-3 床直	坏	① [11.9] 3.4	①脚部②良好③褐色 —	④脚部④完形	口縫部：直立気味、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面荒削り。		
84	H-26-4 床直	坏	① [12.0] 3.5	①脚部②良好③橙色 —	④脚部④完形	口縫部：直立気味、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面荒削り。		
85	H-26-5 床直	坏	① [12.7] 4.0	①中段②良好③灰白色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：大きく外傾、口縫端部や外反、内・外面撫で。底部：径6.2mmの平底、内面撫で、外面回転糸切り。		
86	H-26-6 床直	高台	① [16.7] 8.5	①脚部②良好③黄灰色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：外傾、内・外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台。		
87	H-27-1 床直	坏	① [12.0] 2.7	①中段②良好③橙色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：直立気味、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面荒削り。		
88	H-27-2 埋土	坏	① [13.6] 3.8	①脚部②良好③灰黃 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：大きく外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面荒削り。		
89	H-27-3 床直	高台	① [14.3] 6.0	①中段②良好③にいじ —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：直立気味、内・外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台。		
90	H-27-4 床直	高台	① [15.0] 5.0	①脚部②良好③橙色 —	④脚部④完形	被触整形。口縫・体部：大きく外傾、内・外面撫で、外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台。		内面 荒削り

番号	通称名/置位	器種	①②③	④	紫種の特徴・整形・調整技術	備考	
91	H-27-5 床直	高台輪 頭部器	① 15.5 5.1	②良好③始灰色 ④ほぼ完形	輪轂整形。口縫・体部：外傾、内・外面無地。底部：回転糸切り後付け高台。	いぶし焼成か	
92	H-27-6 床直	高台輪 頭部器	① 15.0 5.6	②良好③によい 黄色色④/3	輪轂整形。口縫・体部：外傾、内・外面無地。底部：回転糸切り後付け高台。		
93	H-27-7 床直	壺 土師器	① [20.1] [17.2]	②良好③によい 青色④/2	中口粒②良好③によい 青色④/2	輪轂整形。口縫・体部：直立から外傾、端部旋削さえ、内・外面横撫で。底部：器最大径、内面撫で、外側削り削削り。底部：欠損。	
94	H-28-1 床直	高台輪 頭部器	① 14.2 5.3	②良好③灰青色 ④ほぼ元形	輪轂整形。口縫・体部：外傾、口縫端部や外反、内・外面無地。底部：酸化焰回転糸切り後付け高台。	酸化焰	
95	H-29-1 床直	壺 土師器	① 12.4 3.5	②良好③佳色 ④完形	中口粒②良好③佳色 ④完形	口縫部：外傾、内・外面横撫で。底部：径8.8mmの平底、内面撫で、外側削り削削り。	
96	H-29-2 床直	壺 頭部器	① [12.0] 4.0	②良好③オーリー 黑色④ほぼ完形	中口粒②良好③オーリー 黑色④ほぼ完形	輪轂整形。口縫・体部：外傾、口縫端部や外反、内・外面無地。底部：径5.5mmの平底、内面撫で、外側削り削削り。	
97	H-29-3 床直	壺 頭部器	① 12.3 4.2	②良好③灰白色 ④ほぼ完形	中口粒②良好③灰白色 ④ほぼ完形	輪轂整形。口縫・体部：直立から外傾、端部旋削さえ、内・外面横撫で。底部：径6.1mmの平底、内面撫で、外側削り削削り。	
98	H-29-4 壺 土	壺 頭部器	① [1.3]	②良好③灰白色 ④武部 輪轂整形	中口粒②良好③灰白色 ④武部	輪轂整形。口縫・体部：欠損。武部：径6.4mmの平底、外側回転糸切り。内面無地者。	漆付器
99	H-29-5 床直	高台輪 頭部器	① [14.3] 6.2 6.4/5	②良好③灰白色 ④	中口粒②良好③灰白色 ④	輪轂整形。口縫・体部：外傾、内・外面無地。底部：回転糸切り後付け高台。	
100	H-29-6 床直	高台輪 頭部器	① [15.2] 5.4 4/2/3	②良好③灰白色 ④	中口粒②良好③灰白色 ④	輪轂整形。口縫・体部：外傾、内・外面無地。底部：回転糸切り後付け高台。	
101	H-29-7 壺 内	高台輪 頭部器	① [16.1] 6.5	②良好③灰白色 ④	中口粒②良好③灰白色 ④	輪轂整形。口縫・体部：外傾、内・外面無地。底部：回転糸切り後付け高台。	
102	H-29-8 壺 埋上	高台輪 頭部器	① — 2.6	②良好③灰白色 ④	中口粒②良好③灰白色 ④	輪轂整形。口縫・体部：欠損。底部：回転糸切り後付け高台。内面墨青有。	底部西面墨青
103	H-29-9 平 床直 灰	壺 頭部器	① 5.0 9.5	②良好③オーリー ④灰黑色④/2	中口粒②良好③オーリー ④灰黑色④/2	輪轂整形。口縫部：やや外傾、端部水平に開く。体部：把手を有し、体部上面の盛り上がりは弱く、上位から大きくなる。底部：付け合式。	
104	H-29-10 床直	壺 土師器	① [21.6] 27.6	②良好③によい 橙色④/2	中口粒②良好③によい 橙色④/2	口縫部：直立から外傾、内・外面横撫で。肩部：器最大径、中位から大きくなる。内面撫で、外側削り削削り。底部：径2.8mmの平底。	
105	H-30-1 床直	盆 土師器	① [13.4] 5.3	②良好③佳色 ④赤褐色④/2	中口粒②良好③佳色 ④赤褐色④/2	口縫部：短く外傾、内・外面横撫で。底部：深い丸底、内面磨き、外側削り削削り。	
106	H-31-1 P5	盆 土師器	① 10.6 5.2	②良好③佳色 ④ほぼ完形	中口粒②良好③佳色 ④	口縫部：わずかに外傾、内・外面横撫で。底部：深い丸底、内面放射錐状の磨き、外側磨き。	
107	H-31-1 P5	壺 土師器	① [9.8] 6.3	②良好③によい 黄色色④/2	中口粒②良好③によい 黄色色④/2	口縫部：外傾、内・外面磨き。体部：中位やや上に膨らみを持ち、外側磨き。底部：径2.6mmの平底。	
108	H-31-1 床声	壺 土師器	① 8.7 8.2	②良好③によい 橙色④	中口粒②良好③によい 橙色④	壺部：端部外反から大きく肩削して肩部に至る。底部に穿孔有。台脚：上位摺身から八の字状に大きく開き、中位にやや膨らみ有。穿孔3つ有。	
109	H-32-2 床直	壺 土師器	① 9.6 6.7	②良好③によい 橙色④	中口粒②良好③によい 橙色④	口縫部：外傾、内・外面磨き。体部：中位やや上に膨らみを持ち、外側磨き。底部：径2.6mmの平底。	
110	H-32-3 床直	壺 土師器	① 23.8 9.1/3	②良好③佳色 ④	中口粒②良好③佳色 ④	口縫部：外傾、内・外面磨き。体部上位：やや膨らむ。底部：欠損。大型	
111	H-32-4 埋上	壺 土師器	① 8.2 8.5	②良好③によい 橙色④	中口粒②良好③によい 橙色④	中口粒②良好③によい 橙色④	上方向に削れた球形を呈す。内・外面磨きで。底部：径3.6mmの突出部。
112	H-32-5 埋土	壺 土師器	① 13.5 7.1	②良好③佳色 ④	中口粒②良好③佳色 ④	口縫部：外傾、口縫端部内・外面横撫で、体部内面撫で、外側磨き。底部：突出意味、中央に穿孔1つ有。	
113	H-32-6 床直	壺 土師器	① — 6.4	②良好③佳色 ④	中口粒②良好③佳色 ④	口縫部：欠損。肩部：後合部から八の字状に大きく開く。内面磨削調整後磨で、外側磨き。	
114	H-32-7 床直	壺 土師器	① 14.4 (12.1)	②良好③佳色④	中口粒②良好③佳色 ④	口縫部：小さく外傾、内側磨削で、外面粘土帯4段有。体部上位：内・外面磨き。底部：欠損。赤井戸系	
115	H-32-8 床直	台付壺 土師器	① 13.8 27.5	②良好③によい 黄色色④	中口粒②良好③によい 黄色色④/5	口縫部：S字状でやや外傾、内・外面横撫で。体部：上位に器最大径を持ち、そこから大きくなりして底部に至る。台部：端部内側に削り返し有。	
116	H-32-9 埋土	台付壺 土師器	① 13.4 (24.2)	②良好③によい 黄色色④	中口粒②良好③によい 黄色色④	口縫部：S字状でやや外傾、内・外面横撫で。体部：中位やや上に器最大径を持ち、そこから緩やかに内側しながら底部に至る。台部：端部欠損。	
117	H-33-1 埋土	高台輪 頭部器	① [17.0] 7.0	②良好③灰白色 ④/3	中口粒②良好③灰白色 ④	輪轂整形。口縫・体部：外傾から口縫端部外反、内・外面磨きで。底部：回転糸切り後付け高台。	
118	H-34-1 床直	壺 土師器	① [12.6] 14.9	②良好③によい 褐色④/2	中口粒②良好③によい 褐色④/2	口縫部：外傾、内・外面横撫で。肩部：中位に器最大径を持ち、内面磨きで、外側削り削削り。底部：平底。	
119	H-35-1 床直	壺 土師器	① [11.0] 3.7	②良好③佳色 ④/3	中口粒②良好③佳色 ④	口縫部：やや外傾、内・外面横撫で。交換点に斜い棱有り。底部：浅い丸底、内面磨き、外側磨削。	
120	H-35-2 床直	壺 土師器	① 11.4 3.9	②良好③佳色 ④	中口粒②良好③佳色 ④	口縫部：やや外傾、内・外面横撫で。交換点に斜い棱有り。底部：浅い丸底、内面磨き、外側磨削。	

番号	造園物名/種別	器皿	①口端部有り	②歯状構成/色彩調節有り	器種の特徴・整形・調整技術	備考
121	H-35-3 埋土	环土拂器	① 11.6 ② 3.6	③中歯④良好⑤黒色 ⑥ほぼ完形	口端部：外傾、内・外両側面で。交換点に弱い後有り。底部：浅い丸底、内面削り。	
122	H-35-4 埋土	丸底拂	① [13.8] ② [14.6]	③中歯④良好⑤暗赤褐色 ⑥ほぼ完形	口端部：直立。端部粗く外反、内・外両側面で。脚部：中位や上に器皿大径を持ち、内面削で、外側め削り。底部：丸底。	
123	H-36-1 床直	环	① [11.2] ② (3.7)	③中歯④良好⑤によい ⑥黒色⑦0/4	口端・体部：外傾。口端端部内・外両側面で。底部：径5.6mmの平底。内面削で、外側削り。	
124	H-36-2 埋土	环	① [12.0] ② 3.8	③中歯④良好⑤灰白色 ⑥0/3	①歯端②良好③灰白色 ④0/3	口端・体部：外傾からU彎端部やや外反、内・外両側面で。底部：径5.6mmの平底。内面削で、外側削り。
125	H-36-3 埋土	高台拂	① [17.6] ② 7.1	③歯端④良好⑤灰褐色 ⑥0/2	歯端部形。口端・体部：外傾から口端端部やや肥厚、内・外両側面で。底部：回転糸切り後付け高台。	
126	H-37-1 床直	环	① [11.8] ② 3.3	③中歯④良好⑤によい ⑥灰色⑦0/2	口端・体部：外傾、内・外両側面で。底部：平底、内面削で、外側削り。	
127	H-37-2 埋土	环	① [17.8] ② 6.4	③中歯④良好⑤オリーブ色⑥0/2	歯端部形。口端・体部：外傾、口端端部やや肥厚、内・外両側面で。底部：付け高台。強度はつけがけ。	
128	H-37-3 床直	麦	① [19.6] ② [5.8]	③中歯④良好⑤赤褐色 ⑥0/3	口端部：直立から外反、内・外両側面で。体部上位：内面削で、外側削り。底部：欠損。	
129	H-38-1 埋土	环 自 種	① — ② —	③歯端④良好⑤灰白色 ④破片	歯端部形。	
130	H-38-2 床直	高台拂	① [—] ② (2.0)	③歯端④良好⑤オリーブ色⑥0/3	歯端部形。口端・体部：欠損。底部：内面中央部が円形に窪み、周囲に花文有。高台部：U字形で内面に弱い縫有。	
131	H-38-3 床直	高台拂	① [—] ② (2.7)	③歯端④良好⑤オリーブ色⑥0/3	歯端部形。口端・体部：欠損。底部：内面中央部に円形の沈継有。高台部：U字形。	
132	H-38-4 床直	高台拂	① [14.5] ② (4.2)	③歯端④良好⑤灰白色⑥0/3	歯端部形。口端・体部：大きく外傾、口端端部外反、内・外両側面で。底部：U字形の付け高台。	
133	H-38-5 床直	高台拂	① [12.9] ② 5.5	③中歯④良好⑤オリーブ色⑥0/3	歯端部形。口端・体部：外傾、口端端部や外反、内・外両側面で。底部：いぶし造成回転糸切り後付け高台。	
134	H-38-6 床直	引 箸	① [16.9] ② (10.1)	③歯端④良好⑤灰白色 ④破片	歯端部形。口端部：内傾、内・外両側面で。背部：三角形、やや上向きに付く。底部：内・外両側面で。底部：欠損。	
135	H-39-1 床直	麦	① [16.0] ② (3.8)	③歯端④良好⑤灰白色 ④0/2	歯端部形。天井部：短く水平から外傾、外山回転削り、端部内・外側で、返り無。悩み：葉状削み。	
136	H-39-2 床直	环	① [12.0] ② (3.4)	③中歯④良好⑤黄灰色 ④0/2	歯端部形。口端・体部：外傾、内・外両側面で。底部：径7.6mmの平底、内面削で、外側回転糸切り後削り。	
137	H-40-1 埋土	环	① [12.6] ② 3.5	③中歯④良好⑤青灰色 ④元形	歯端部形。口端・体部：外傾、口端端部や外反、内・外両側面で。底部：径7.3mmの平底、内・外両側面で、外側子持ち翼削り調整。	
138	H-40-2 埋土	环	① [13.1] ② 3.7	③中歯④良好⑤灰白色 ④ほぼ完形	歯端部形。口端・体部：外傾、内・外両側面で。底部：径8.1mmの平底、内面削で、外側回転削り調整。	
139	H-40-3 埋土	高台拂	① [16.0] ② (5.9)	③歯端④良好⑤黄灰色 ④0/4	歯端部形。口端・体部：外傾、内・外両側面で。底部：回転糸切り後付け高台。	
140	H-41-1 床直	环	① [13.4] ② 4.1	③歯端④良好⑤によい ⑤褐色⑥0/4	歯端部形。口端・体部：大きく外傾、口端端部やや肥厚、内・外両側面で。底部：径5.8mmの平底、内面削で、外側回転糸切り。	
141	H-41-2 床直	高台拂	① 13.1 ② 4.8	③中歯④良好⑤によい ④褐色⑤ほぼ完形	歯端部形。口端・体部：やや内凹しながら外傾、口端端部や肥厚、内・外両側面で。底部：回転糸切り後付け高台。	
142	H-41-3 床直	羽 箸	① [20.0] ② (9.6)	③中歯④良好⑤によい ④褐色⑤破片	歯端部形。口端部：内傾、口端端部形状さく、内・外両側面で。背部：三角形、水平に付く。底部上位：内・外両側面で。底部：欠損。	變化版
143	H-42-1 埋土	麦	① [15.7] ② 2.6	③中歯④良好⑤灰白色 ④0/2	歯端部形。天井部：水平から外傾、端部外反、外側回転削り、端部内・外側で、返り無。悩み：葉状削み。	
144	H-42-2 床直	高台拂	① 12.8 ② 2.6	③中歯④良好⑤灰白色 ④0/4	歯端部形。口端・体部：大きく外傾、内・外両側面で。底部：回転糸切り後付け高台。	
145	H-42-3 床直	高台拂	① — ② (3.9)	③中歯④良好⑤灰白色 ④0/5	歯端部形。口端部：欠損。体部：外傾、内・外両側面で。底部：回転糸切り後付け高台。	
146	H-42-4 埋土	麦	① [21.8] ② (5.7)	③中歯④良好⑤によい ⑤褐色⑥破片	口端部：直立から大きく外傾、内・外両側面で。底部上位：内面削で、外側削り。底部：欠損。	
147	H-43-1 床直	环	① [13.4] ② (3.0)	③中歯④良好⑤によい ⑤褐色⑥0/2	口端・体部：外傾、内・外両側面で。底部：平底、内面削で、外側削り。	
148	H-43-2 埋土	环	① [12.6] ② (3.5)	③中歯④良好⑤灰白色 ④0/4	歯端部形。口端・体部：外傾、内・外両側面で。底部：径6.4mmの平底、内面削で、外側回転糸切り。	
149	H-43-3 床直	高台拂	① [13.4] ② 2.6	③中歯④良好⑤灰白色 ④0/2	歯端部形。口端・体部：大きく外傾、内・外両側面で。底部：回転糸切り後付け高台。	
150	H-43-5 床直	麦	① [21.0] ② (17.0)	③中歯④良好⑤によい ④褐色⑤0/2	口端部：直立から大きく外傾、内・外両側面で。副部：上位に器皿最大径を持ち、内面削で、外側削り。底部：欠損。	

番号	通路番号/品目	指標	①印加割合	②印加割合	特徴	器種の特徴・整形・調整技術	備考
151	H-44-1 埋土 頭患器	坏 土	① [13.5] ② [3.7]	①中粒②良好③灰白色 ②[0.2/3]	被織整形。口縫・体部：大きめ外傾。口縫端部鋸歯さま、内・外面削で。底部：深5.6mmの平底、内面側で、外周回転系切り。		
152	H-44-2 埋土 頭患器	坏 土	① [14.4] ② [5.5]	①中粒②良好③浅黄色 ②[0.3/4]	被織整形。口縫・体部：外傾、口縫端部やや肥厚、内・外面削で。内外曲輪付。底部：回転系切り後付け高台。		
153	H-44-4 埋土 頭患器	坏 土	① [20.0] ② [8.0]	①中粒②良好③によい ②[0.3/4]	口縫部：直立から大きめ外傾、内・外面横削で。肩部上位：内面削で、外周削り。底部：欠損。		
154	H-45-1 埋土 頭患器	坏 土	① [12.6] ② [5.0]	①中粒②良好③灰白色 ②[0.1/2]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深6.5mmの平底、内面削で、外周回転系切り。		いぶし焼成か
155	H-46-1 埋土 頭患器	坏 土	① [15.5] ② [3.9]	①中粒②良好③灰白色 ②[0.2/3]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深6.1mmの平底、内面削で、外周回転系切り。		
156	H-46-2 埋土 床直 頭患器	坏 土	① [13.4] ② [5.2]	①中粒②良好③灰黄色 ②[0.3/4]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深7.6mmの平底、内面削で、外周回転系切り。		
157	H-46-3 埋土 頭患器	坏 土	① [20.3] ② [8.0]	①中粒②良好③によい ②[0.3/4]	口縫部：直立から外傾、内・外面横削で。肩部上位：内面削で、外周削り。底部：欠損。		
158	H-47-1 埋土 頭患器	坏 土	① [11.9] ② [2.2]	①粗粒②良好③灰色 ②[0.4/2]	被織整形。大井部：水平から外傾、外周回転窪削り、端部内・外面削で、通り無。掏み：宝珠彫み。		
159	H-47-2 埋土 土師器	坏 土	① [13.0] ② [3.7]	①中粒②良好③橙色 ②[0.1/4]	口縫部：短く直立、内・外面横削で。底部：丸底、内面削で、外周窪削り。		
160	H-47-3 埋土 土師器	坏 土	① [13.6] ② [3.3]	①中粒②良好③橙色 ②[0.1/4]	口縫部：短く直立、端部押さえ、内・外面横削で。底部：丸底、内面削で、外周窪削り。		
161	H-47-4 埋土 床直 土師器	坏 土	① [12.3] ② [3.3]	①中粒②良好③橙色 ②[0.1/2]	口縫・体部：外傾、口縫端部内・外面横削で。体部内面放射線状の磨き。底部：平底、内面削で、外周窪削り。		
162	H-47-5 埋土 頭患器	坏 土	① [13.0] ② [3.7]	①中粒②良好③褐色 ②[0.1/2]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深7.6mmの平底、内・外面削で。		
163	H-47-6 埋土 頭患器	坏 土	① [13.1] ② [4.0]	①中粒②良好③灰色 ②[0.2/3]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深7.1mmの平底、内面削で、回転窓切り後削。		
164	H-47-7 埋土 頭患器	坏 土	① [13.3] ② [4.0]	①粗粒②良好③灰色 ②[0.4/2]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深7.8mmの平底、内面削で、外周回転窓切り後削。		
165	H-47-8 埋土 床直 頭患器	坏 土	① [13.0] ② [3.8]	①中粒②良好③灰色 ②[0.1/2]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深6.9mmの平底、内面削で、外周窪削。		
166	H-47-9 埋土 頭患器	坏 土	① [13.0] ② [3.3]	①中粒②良好③灰色 ②[0.1/3]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：深7.8mmの平底、内面削で、外周回転系切り後削。		
167	H-47-10 埋土 頭患器	高台機 土師器	① [17.6] ② [7.0]	①中粒②良好③灰色 ②[0.2/3]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で、口縫端部から1cmの所に工具痕の沈縫が残る。底部：高台付け後回転窓調整。		
168	H-47-11 埋土 頭患器	高台機 土師器	① [21.1] ② [5.2]	①中粒②良好③灰色 ②[0.3/4]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で後外面のみ工具による叩き目痕、外周回転窓調整。		
169	H-47-12 大P5 床直 頭患器	大	—	①中粒②良好③青灰色 ②[0.3/4]	被織整形。口縫部：欠損；肩部：上位に器最大径を持ち、そこから大きめ内傾して底部に至る。内面小型の工具による叩き目痕、外周叩き後削で調整。底部：小さい丸底。		
170	H-48-1 埋土 土師器	坏 土	① [14.0] ② [3.3]	①中粒②良好③によい ②[0.1/4]	口縫部：短く外傾、内・外面削で。底部：丸底、内面削で、外周窪削り。荷物：④/4		
171	H-48-2 埋土 床直	坏 土	① [12.3] ② [3.9]	①中粒②良好③によい ②[0.1/4]	口縫部：やや外傾、内・外面削で。底部：平底気味、内面削で、外周窪削。		
172	H-48-3 埋土 床直 頭患器	坏 土	① [11.2] ② [4.0]	①中粒②良好③灰色 ②[0.3/4]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で、外周回転窓調整。		
173	H-48-4 埋土 床直 頭患器	坏 土	① [12.5] ② [4.1]	①中粒②良好③灰色 ②[0.4/4]	被織整形。口縫・体部：外傾、口縫端部やや外反、内・外面削で。底部：外周自然輪削5.6mmの平底、内面削で、外周回転系切り。		
174	H-48-5 埋土 床直 頭患器	高台機 土師器	① [10.9] ② [4.6]	①粗粒②良好③灰色 ②[0.2/3]	被織整形。やや外傾、内・外面削で。底部：回転系切り後付け高台。		
175	H-48-6 埋土 床直 土師器	坏 土	① [18.2] ② [7.4]	①中粒②良好③によい ②[0.4/4]	口縫部：外傾、内・外面横削で。肩部上位：内面叩き目痕、外周叩き後削で調整。底部：欠損。		
176	H-48-7 大P5 床直 頭患器	大	① [23.2] ② [13.0]	①中粒②良好③灰色 ②[0.1/4]	被織整形。口縫部：外傾、端部や外反、内・外面削で。端部窪削え。肩部上位：内面叩き目痕、外周叩き後削で調整。		
177	H-49-1 埋土 土師器	坏 土	① [12.6] ② [3.9]	①中粒②良好③褐色 ②[0.1/3]	被織整形。口縫部：短く直立、内・外面削で。底部：深8.2mmの平底、内面削で、外周回転窓切り。		
178	H-49-2 高台機 埋土 頭患器	高台機	① [17.0] ② [8.0]	①粗粒②良好③灰白色 ②[0.4/4]	被織整形。口縫・体部：外傾、内・外面削で。底部：回転窓切り後付け高台。		
179	H-49-3 埋土 床直 土師器	坏 土	① [19.6] ② [29.1]	①中粒②良好③によい ②[0.6/4]	被織整形。口縫部：短く直立、内・外面削で。体部：中位に器最大径を持ち、上位内・外面削で、下位外周窪削。底部：平底気味、内面削で、外周窪削。		小型
180	H-49-4 P5 上部器	坏 土	① [19.6] ② [29.1]	①中粒②良好③によい ②[0.6/4]	口縫部：外傾、内・外面横削で。肩部：やや上に器最大径を持ち、内面削で、外周斜削前削。底部：小さい平底。		

番号	品目名	種類	①回数	②時間	③施工部	④施工法	施工の特徴・変形・調整技術	備考
181	H-50-1 床直 土壌器	坪	① 12.0 ② 3.2	①相撲②良好③緑色 ④光形	口縁部：外傾、内・外両側面で。端部内・外面に塗付着。底部：平底、内面黒面で。外表面剝離。			
182	H-50-2 高台樹 床直 須磨器	坪	① [15.2] ② 6.3	①相撲②良好③緑色 ④ほぼ完形	被覆整形。口縁・体部：外傾。口縁端部や肥厚・内・外両側面で。底部：四回軸余切り後付け高台。			
183	H-50-3 高台樹 床直 灰 土壌器	坪	① — ② (1.8)	①中粒②良好③次白色 ④—	高台部径9.2mm。体部内側より高台部に沿って鋼かく削剂。使用部は非常に滑らか。潤滑液中にわずかに墨が認められる。	転用範		
184	H-50-4 臺 床直 土壌器	坪	① [19.2] ② (7.6)	①相撲②良好③次黃褐色 ④(或)J	口縁部：直立からやや外傾、内・外両側面で。頭部上位：内面黒面で、外表面剝離。底部：欠損。			
185	H-51-1 坪 土壌器	坪	① 13.6 ② 4.7	①中粒②良好③によい 緑色④ほぼ完形	口縁部：外傾、内・外両側面で。体部：大きく外傾、内面黒面で、外表面剝離。底部：径3.4mmの平底。高台を有し、取れた可塑性あり。			
186	H-51-2 坪 土壌器	坪	① [13.4] ② 3.8	①相撲②良好③次白色 ④ほぼJ	被覆整形。口縁・体部：外傾。口縁端部肥厚して外反、内・外両側面で。底部：径6.0mmの平底。内面黒面で、外表面剝離。			
187	H-51-3 臺 土壌器	坪	① 13.8 ② 3.9	①中粒②良好③黄緑色 ④ほぼJ	被覆整形。口縁・体部：大きく外傾、内・外両側面で。底部：径6.3mmの平底。内面黒面で、外表面剝離。			
188	H-51-4 高台樹 床直 須磨器	坪	① 14.6 ② 6.2	①中粒②良好③灰色 ④ほぼJ	被覆整形。口縁・体部：外傾、内・外両側面で。底部：四回軸余切り後付け高台。			
189	H-51-5 高台樹 床直 須磨器	坪	① — ② (4.6)	①相撲②良好③次白色 ④底部	被覆整形。口縁部：欠損。体部：外傾、内・外両側面で。内面漆付着。底部：四回軸余切り後付け高台。	漆付着		
190	H-51-6 臺 土壌器	坪	① 19.7 ② (14.6)	①中粒②良好③によい 緑色④1/3	山脚部：直立気味から外傾、内・外両側面で、外表面直立部の上位に工具痕。頭部上位：内面黒面で、外表面剝離。底部：欠損。			
191	H-52-1 高台樹 電円 須磨器	坪	① 14.6 ② 5.3	①中粒②良好③灰色 ④光形	被覆整形。山脚・体部：外傾、口縁端部や肥厚・内・外両側面で。底部：四回軸余切り後付け高台。			
192	H-52-2 高台樹 電円 須磨器	坪	① 14.5 ② 5.8	①中粒②良好③によい 緑色④光形	被覆整形。山脚・体部：外傾、山脚端部や肥厚・内・外両側面で。底部：四回軸余切り後付け高台。	酸化焰		
193	H-53-1 高台樹 床直 須磨器	坪	① [14.0] ② 5.5	①中粒②良好③灰色 ④ほぼ完形	被覆整形。山脚・体部：外傾、山脚端部や肥厚・内・外両側面で。底部：四回軸余切り後付け高台。	酸化焰		
194	H-53-2 羽 益 床直 須磨器	坪	① 19.1 ② (24.4)	①相撲②良好③によい 緑色④ほぼJ	被覆整形。口縁部：内傾、端部齊齊ええ、内・外両側面で。鋸部：三角形、酸化焰や光形に向くに付く。鋸部：内・外両側面で、底形：欠損。			
195	H-54-1 坪 上端器	坪	① [11.6] ② 3.4	①中粒②良好③橙色 ④ほぼJ	口縁部：短く直立、内・外両側面で。底部：浅い丸底、内面黒面で、外表面剝離。			
196	H-54-2 坪 上端器	坪	① 12.1 ② 3.9	①中粒②良好③橙色 ④ほぼ完形	口縁部：短く直立気味、内・外両側面で。底部：浅い丸底、内面黒面で、外表面剝離。			
197	H-54-3 坪 土壌器	坪	① [10.8] ② 3.2	①中粒②良好③灰色 ④ほぼJ	被覆整形。口縁・体部：やや外傾、内・外両側面で。底部：径8.2mmの平底、内面黒面で、外表面剝離。			
198	H-54-4 臺 内上端器	坪	① 23.3 ② 31.3	①中粒②良好③緑色 ④ほぼ完形	口縁部：器最大限、大きく外反、内・外両側面で、鋸部にくびれ有。鋸部：内面黒面で、外表面剝離有り。底部：径4.2mmの平底。			
199	H-54-5 臺 上端器	坪	① 21.8 ② (31.0)	①中粒②良好③によい 緑色④部欠損	口縁部：大きく述べ、内・外両側面で、鋸部にくびれ無。鋸部：内面黒面で、外表面剝離。底部：欠損。			
200	H-56-1 かわらじ 床直	坪	① 10.0 ② 2.2	①中粒②良好③によい 緑色④ほぼJ	被覆整形。口縁部：大きく述べ、内・外両側面で。底部：径4.4mmの平底、内面黒面で、外表面剝離。			
201	H-56-2 かわらじ 床直	坪	① 11.2 ② 3.4	①相撲②良好③ 緑色④部欠損	被覆整形。口縁・体部：外傾、内・外両側面で。底部：径5.5mmの平底、内面黒面で、外表面剝離。			
202	H-56-3 かわらじ 埋土	坪	① 10.5 ② 3.4	①相撲②良好③浅青色 ④ほぼJ	被覆整形。口縁・体部：外傾、内・外両側面で。底部：径5.2mmの平底、内面黒面で、外表面剝離。			
203	H-56-4 かわらじ 床直	坪	① 11.6 ② 3.6	①中粒②良好③浅青色 ④ほぼ完形	被覆整形。口縁・体部：外傾、内・外両側面で。底部：径5.1mmの平底、内面黒面で、外表面剝離。			
204	H-56-5 かわらじ 床直	坪	① 11.4 ② 3.4	①中粒②良好③浅青色 ④ほぼJ	被覆整形。口縁・体部：外傾、内・外両側面で。底部：径5.4mmの平底、内面黒面で、外表面剝離。			
205	H-59-1 鉢 土壌器	坪	① [13.3] ② 4.8	①中粒②良好③緑色 ④ほぼJ	山脚・体部：短く直立と鎌やかに底部にまる。口縁端部内・外両側面で、体部内側に放射状線の巻き、体部外側横刃向磨き。底部：小さい平底、突出鉄筋。			
206	H-59-2 臺 土壌器	坪	① 10.6 ② 12.5	①相撲②良好③緑色 ④ほぼ光形	口縁部：器最大限、外傾、内・外両側面で。鋸部：中位にやや膨らみを持ち、内・外両側面で、底部：平底、突出気味。	小底		
207	H-59-3 臺 上端器	坪	① 12.7 ② 17.1	①中粒②良好③緑色 ④ほぼ光形	口縁部：しまった部分から大きく外反、端部外面に折り返し、内・外両側面で。鋸部：中位に器最大限を持つ球形、内・外両側面。底部：小さい平底、突出気味。	小底		
208	H-60-1 高台皿 須磨器	坪	① 13.0 ② 3.1	①中粒②良好③灰白色 ④光形	被覆整形。口縁・体部：大きく外傾、内・外両側面で。口縁部附近に3mmの孔有。内面付着有。底部：四回軸余切り後付け高台。			
209	H-60-2 高台皿 須磨器	坪	① 13.5 ② 2.8	①中粒②良好③灰白色 ④ほぼ光形	被覆整形。口縁・体部：大きく外傾、口縁端部やや肥厚、内・外両側面で。底部：四回軸余切り後付け。			
210	H-60-3 坪 上端器	坪	① — ② —	①中粒②良好③緑色 ④破片	底部外側墨書き。	底部外側墨書き		

番号	基盤形状/樹脂	容積	①口縫合部	②底面	器皿の特徴・製作・調製技術	備考
211	H-60-4 埋土.	杯 十脚器	① — ② —	①中粒②良好③橙色 ④吸光	底部内側墨書き。 底部内側墨書き。	底部内側墨書き
212	H-60-5 埋土.	杯 頭蓋器	① 12.5 ② 3.8	①中粒②良好③灰白色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、口縫端部覚書きえ、内・外面端で。底部：径6.2mmの平底、内面端で、外面回転系切り。	
213	H-60-6 埋土.	高台輪 頭蓋器	① [17.4] ② [23.0]	①中粒②良好③灰白色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、内・外面端で。底部：回転系切り後付け高台。	
214	H-61-1 埋土.	羽 箸	① [18.2] ② [23.0]	①中粒②良好③にぼい 灰白色④1/3	輪縫形。口縫部：大きくなじみ、端部端押さえ、内・外面端で。脚部：酸化焰三角形、やや上向きに付く。脚部：内・外面端で。底部：欠損。	酸化焰
215	H-62-1 床直	杯 頭蓋器	① [11.4] ② 4.3	①中粒②良好③暗灰色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、内・外面端で。底部：径5.6mmの平底、内面端で、外面回転系切り。	
216	H-62-2 床直	高台輪 頭蓋器	① [12.2] ② 4.7	①中粒②良好③灰色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、口縫端部肥厚、内・外面端で。体部側面に墨書き。底部：回転系切り後付け高台。	体部側面墨書き
217	H-64-1 埋土.	杯 頭蓋器	① 11.8 ② 3.9	①中粒②良好③灰白色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、内・外面端で。底部：径7.1mmの平底、内面端で、外面回転系切り後付け調整。	
218	H-64-2 床直	杯 頭蓋器	① 13.1 ② 3.8	①中粒②良好③灰白色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、内・外面端で。底部：径8.0mmの平底、内面端で、外面回転系切り後付け調整。	
219	H-64-3 床直	杯 十脚器	① [26.0] ② 15.4	①中粒②良好③橙色 ④吸光	口縫部：大きくなじみ、内・外面横端で。体部：頭部から腰やかに底部に至る、内・外面端で。底部：平底気泡、外周削り。	
220	H-66-1 床直	杯 土脚器	① [12.5] ② [5.8]	①中粒②良好③にぼい 灰白色④1/3	口縫部：外傾、内・外面端削き。体部：頭部から腰やかに底部に至る、内・外面削き。底部：径3.5mmの平底。	
221	H-66-2 床直	毫 土脚器	① — ② [21.9]	①中粒②良好③にぼい 灰白色④1/4	口縫部：欠損。脚部：頭部から腰やかに膨らむ、内・外面削き。底部：欠損。	
222	H-67-1 床直	高台輪 頭蓋器	① [12.0] ② [6.4]	①中粒②良好③灰白色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、内・外面端で。底部：回転系切り後付け高台。	
223	H-68-1 床直	杯 土脚器	① [14.5] ② [4.7]	①中粒②良好③リーブ 灰白色④1/3	口縫・体部：口縫端部や外反して腰やかに底部に至る、口縫端部内・外面横端で、体部内・外面削き。底部：小さい凹底、突出気泡。	
224	H-68-2 床直	毫 土脚器	① 10.5 ② [9.4]	①中粒②良好③明赤 色④1/3	口縫部：頭部大径、外傾、内・外面端で。脚部：腰やかに膨らみ、内・外周削り。	小型
225	H-68-3 埋土.	台付毫 土脚器	① [15.0] ② 23.1	①中粒②良好③ ④にぼい 黄褐色④1/2	口縫部：中位、外傾、内・外面端で。体部：中位に頭部大径を持つ球形、内面削で、外周削毛口調整。台部：内・外面端毛口調整。	
226	H-69-1 埋土.	杯 土脚器	① 11.7 ② 4.5	①中粒②良好③灰褐色 ④吸光	口縫部：わずかに外傾、脚部端押さえ、内・外面横端で。交換点に複数有。底部：浅い丸底、内面端で、外周削り。	
227	H-69-2 床直	杯 土脚器	① 13.4 ② 4.8	①中粒②良好③にぼい 褐色④吸光	口縫部：わずかに外傾、内・外面横端で、外周中央に段有。交換点に複数有。底部：浅い丸底、内面端で、外周削り。	
228	H-72-1 まわらせ 床直	① 10.5 ② 3.3	①中粒②良好③褐色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、内・外面端で。底部：径5.8mmの平底、内面端で、外面回転系切り。		
229	H-72-2 羽 箸	① [21.8] ② [22.6]	①中粒②良好③褐色 ④吸光	輪縫形。口縫部：内傾、端部端押さえ、内・外面端で。脚部：三角形、やや上向きに付く。脚部：内・外面端で。底部：欠損。	酸化焰	
230	H-73-1 床直 車 動	高台輪 頭蓋器	① [14.4] ② 2.8	①中粒②良好③オリー ブ灰白色④2/3	輪縫形。口縫・体部：大きくなじみ、口縫端部覚書きえ、内・外面端で。底部：付け高台。腰部はつかけがけ。	
231	H-73-2 埋土.	高台輪 頭蓋器	① [12.5] ② [2.9]	①中粒②良好③にぼい 褐色④2/3	輪縫形。口縫・体部：大きくなじみ、口縫端部やや肥厚、内・外面端で。底部：回転系切り後付け高台。	
232	H-73-3 埋土.	毫 頭蓋器	① [29.0] ② [15.7]	①中粒②良好③灰白色 ④吸光	輪縫形。口縫部：幅く水方法にて密さ、端部端押さえ、内・外面端で。脚部上部：内・外面端で。底部：欠損。	
233	H-74-1 高台輪 頭蓋器	① 13.4 ② 2.7	①中粒②良好③暗灰色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：大きくなじみ、内・外面端で。底部：付け高台。		
234	H-75-1 高台輪 床直	① [11.5] ② [2.2]	①中粒②良好③灰白色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：大きくなじみ、内・外面端で。底部：付け高台。		
235	H-76-1 床直	培 土脚器	① [8.6] ② [4.4]	①中粒②良好③にぼい 褐色④1/3	口縫部：瘦く外傾、内・外面端で。体部：頭部から腰やかに底部に至る、外周削り。底部：径3.0mmの平底。	
236	H-76-2 床直	毫 杯 十脚器	① [18.4] ② [9.4]	①中粒②良好③にぼい 黄褐色④脚部	脚部：脚部より大きく外に向く。口縫部内・外面横端で、体部内面削き、外周削毛口調整。脚部：欠損。	
237	H-76-3 床直	毫 台 十脚器	① — ② [5.3]	①中粒②良好③明赤 色④台部	受取部：底は欠損。底部に穿孔有。台部：接合部から八の字状に大きく開く。下2つの穿孔3ヶ所有。	
238	H-77-1 床直	かわらせ	① 10.2 ② 3.1	①粗粒②良好③暗灰色 ④吸光	輪縫形。口縫・体部：外傾、口縫端部肥厚、内・外面端で。底部：径6.0mmの平底、内面端で、外周回転系切り。	いしし焼成
239	H-78-1 床直	杯 頭蓋器	① [10.7] ② [4.7]	①粗粒②良好③にぼい 褐色④1/3	輪縫形。口縫・体部：外傾、口縫端部外反、内・外面端で。底部：径6.0mmの平底、内面端で、外周回転系切り。	酸化焰

番号	遺跡番号/測定	器種	①口縁②器高	③中柱④地底⑤色調⑥造形	器種の特徴・夢形・調整技術	備考
240	H-78-2 床直	环 圓筒齒	① [14.8] ② (6.3)	③粗粒④良好⑤灰白色 ④⑤1/2	被縫整形。口縁・体部：外縁、口縁端部や外反、内・外縫隙で。底部：径6.3mmの平底。内面磨きで、外面回転系切り。	
241	II-78-3 床直	繩 土器器	① 18.5 ② (16.6)	③粗粒④良好⑤橙色 ④⑤1/2	口縁部：直ぐ立直から外縁、内・外縫隙で。脚部上位：内面磨きで、外縫隙で窓開けり。底部：欠損。	
242	H-79-1 埋土	环 土器器	① [18.0] ② 4.9	③中粒④良好⑤よい ④⑤2/3	口縁部：直立、端部やや外傾、内・外縫隙で。交換点に棱有。底部：深い丸底、内面磨きで、外縫隙開けり。	
243	II-80-1 埋土	鉢 土器器	① [13.1] ② 4.9	③中粒④良好⑤橙色 ④⑤2/3	口縁・体部：口縁端部直立から緩やかに底部に至る、体部内・外縫隙。底部：小さい平底。	
244	H-82-1 床直	蓋 圓筒齒	① [17.5] ② 4.5	③中粒④良好⑤灰白色 ④⑤1/3	被縫整形。天井部：緩やかに外縁、外面回転系削り、端部内・外縫隙で、返り無。縫み：縦状模み。	
245	II-82-2 床直	环 土器器	① [11.6] ② (3.4)	③中粒④良好⑤橙色 ④⑤1/5	口縁・体部：外縁、口縁端部内・外縫隙で、体部内面磨きで、体部外縫隙開けり。底部：径8.8mmの平底、内面磨きで、外縫隙開けり。	
246	H-83-1 床直	鉢 土器器	① [13.8] ② 5.4	③中粒④良好⑤橙色 ④⑤2/4	口縁・体部：口縁部短く外縁、内・外縫隙で。体部緩やかに底部に至る、内・外縫隙。底部：平底気味。	
247	H-84-1 埋土	鉢 土器器	① [13.4] ② (4.4)	③中粒④良好⑤よい ④⑤1/3	口縁部：外縁、内・外縫隙磨き。体部：緩やかに底部に至る、内・外縫隙。底部：欠損。	
248	H-84-2 埋土	鉢 土器器	① [13.5] ② 6.8	③中粒④良好⑤よい ④⑤1/2	口縁部：外縁、内・外縫隙磨き。体部：緩やかに底部に至る、内・外縫隙。底部：丸底氣味。	
249	H-84-3 埋土	透 土器器	① [13.8] ② (6.9)	③中粒④良好⑤浅黃橙 ④⑤1/6	口縫部：外反気味、透部選擇され、内・外縫隙磨きで。脚部上位：内面磨きで、外縫隙開けり。底部：欠損。	
250	II-84-4 埋土	甕 土器器	① [14.3] ② (4.6)	③中粒④良好⑤橙色 ④⑤1/6	口縁部：外縁、端部折り返し、内面磨きで、外面刷毛目彌整。肩部・底部：欠損。	
251	D-2-1 床直	高台輪 圓筒齒	① 12.5 ② 4.8	③粗粒④良好⑤よい ④⑤1/8	被縫整形。口縁・体部：外縁、口縁端部肥厚、内・外縫隙で。底部：圓軸系切り後付け高台、径1cmの穿孔有。	
252	D-2-2 床直	高台輪 圓筒齒	① 12.5 ② 4.8	③粗粒④良好⑤よい ④⑤1/8	被縫整形。口縁・体部：外縁、口縁端部肥厚、内・外縫隙で。体部側面磨き。底部：圓軸系切り後付け高台。	体部側面磨 汽か

(注) ①層位4m、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの後出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。

②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はkgである。現存値を〔 〕、復元値を〔 〕で示した。

③出土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な粘物が入る場合に粘物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外西で観察し、色名は新潟県東土色紙(小山・竹原1976)によった。

Tab. 7 石器観察表

番号	造様・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	保存度	備考
1	J-1・埋土	打製石斧	13.5	5.4	1.4	105.0	黒色頁岩	ほぼ完形	短頭形
2	J-1・埋土	打製石斧	8.1	5.8	2.0	103.0	黒色頁岩	不明	短頭形
3	J-1・床直	多孔石	0.0	0.0	0.0	21000.0	安山岩	完形	床面に設置されている。

注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 8 石製品・土製品観察表

番号	造様・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	保存度	備考
1	H-13・埋土	砥石	4.7	3.5	2.7	31.6	凝灰岩	完形	上部中央に径0.4cmの穿孔有。5面使用。
2	H-27・床直	丸研	2.7	3.3	0.8	12.2	瑪瑙	完形	0.2cmの孔2つ1組で、裏面3ヶ所に有。
3	H-28・埋土	砥石	4.0	3.8	2.3	46.2	瓦	不明	砥石に軽用か。6面使用。
4	H-35・床直	白玉	2.3	2.2	1.0	7.3	滑石	不明	中央部に径0.3cmの穿孔有。
5	H-50・床直	砥石	15.9	9.1	8.6	1140.0	凝灰岩	不明	3面使用。
6	H-51・埋土	砥石	3.9	3.7	2.7	61.0	凝灰岩	不明	上部中央に径0.7cmの穿孔有。上部にU字形の窪み有。4面使用。
7	H-51・床直	砥石	5.8	3.8	1.5	50.0	凝灰岩	不明	4面使用。
8	H-54・床直	凹石	15.4	11.0	7.3	1190.0	安山岩	完形	径7.3cm、深さ4.5cmの窪み有。
9	D-2・床直	石	10.2	6.4	6.3	620.0	安山岩	完形	下部に墨呂有。

注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 9 鉄器・鉄製品観察表

番号	造構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	保存度	備考
1	H-4・床直	刀子	(8.5)	(1.4)	(0.3)	8.6	破片	柄部に木質付着
2	H-11・埋土	釘	7.8	0.6	0.5	11.9	完形	端部平らに折れる
3	H-21・床直	鐵鏃	(8.0)	(3.2)	(0.4)	18.1	破片	
4	H-22・埋土	斧	8.2	4.1	1.8	148.0	完形	先端部厚0.1cmでV字状。接合部を袋状に折り曲げる
5	H-26・埋土	飾り金具	10.8	2.5	0.2	25.4	ほぼ完形	両端部に径0.5cmの穿孔有。
6	H-27・埋土	刀子	(15.4)	(1.5)	(0.4)	22.9	破片	刃部先端はよく研磨されているが、幅が狭い。
7	H-40・床直	刀装具	5.2	1.9	0.2	10.4	ほぼ完形	上部に径0.6cmの孔有
8	H-42・床直	筋鎌車	(29.0)	(5.3)	(0.2)	71.5	破片	
9	H-48・埋土	鐵鏃	7.8	2.9	0.3	13.6	完形	
10	H-50・床直	鐵鏃	(15.1)	(1.0)	(0.4)	18.0	破片	
11	H-52・床直	炊飯器	(10.8)	(1.8)	(0.4)	19.0	破片	
12	H-55・埋土	盤	(11.0)	(3.2)	(1.2)	99.7	破片	
13	D-8・床直	鍔	23.0	3.5	1.1	91.5	ほぼ完形	刃部に編縫付着。接合部を三角形に0.8cm折り曲げる。
14	D-8・床直	鍔	20.9	3.4	1.3	75.0	ほぼ完形	接合部を1.0cm折り曲げる。

注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」:床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab.10 瓦類実表

番号	通巻号/型番	表面	①長さ②幅さ	③上塗④色	⑤被覆	器體の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-3-1 床直	平瓦	① (12.8) ② (1.8)	③中粒④良好⑤オリー ブ無色⑥破片	—一枚作り。凹面：布目有。によい橙色粘土付着。凸面：撫で、端書き文字有。側面：面取り1回。	端書き文字 丸切文字	
2	H-11-1 床直	平瓦	① (6.5) ② (2.5)	③相模④良好⑤によい 緑色⑥破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で、端書き文字有。	端書き文字 酸化焰	
3	H-11-2 埋土	平瓦	① (9.8) ② (2.0)	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で、端書き文字有。	端書き文字	
4	H-15-1 窓内	平瓦	① (14.1) ② (2.2)	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目有。によい橙色粘土付着。凸面：平行叩き目痕。押印文字有。側面：面取り3回。	押印文字 端書き文字	
5	H-18-1 窓内	軒丸瓦	① (2.8)	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	単弁8文。井笠径10.0cm、中房は無い腰縫であらわされ押3.8cm、周縁は継ぎ、4~1.7cmで削り無し。瓦当裏面は無目。	上野国分寺 E109か	
6	H-21-1 窓内	丸瓦	① 39.3 ② 3.0	③中粒④良好⑤灰色 ⑥はる光沢	玉絶式。横書き作り。下笠幅20.7cm。凹面：布目有、撫で。凸面：端叩 き後削。側面：面取り2回。	端書き文字 丸切文字	
7	H-21-2 窓内	平瓦	① (19.3) ② (2.1)	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	横書き作り。凹面：布目有。によい橙色粘土付着。凸面：撫で、端書き文字有。側面：面取り1回。	端書き文字 丸切文字	
8	H-24-1 埋土	平瓦	① 41.6 ② 3.2	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目有。紙状工具による横方向の沈線と下に2ヶ所有。横書き文字 ②押印文字有。凸面：撫で、側面：面取り3回。	横書き文字 押印文字	
9	H-26-1 窓内	軒丸瓦	—	③中粒④良好⑤灰海色 ⑥破片	単弁4文茎。子葉の無い2重進弁。太くはっきりした腰縫で文様をあらわす。瓦当裏面は有目りの布目。	上野国分寺 A106か	
10	H-27-1 埋土	平瓦	① (15.3) ② (1.9)	③相模④良好⑤橙色 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目有。によい橙色粘土付着。凸面：撫で、端書き文字有。側面：面取り2回。	端書き文字 酸化焰	
11	H-29-1 窓内	軒丸瓦	① 35.8 ② 2.1	③相模④良好⑤灰色 ⑥はる光沢	横書き作り。下笠幅14.5cm。凹面：布目有。によい橙色粘土付着。凸面：撫で、端書き文字 ②後削。側面：面取り3回。	端書き文字 丸切文字	
12	H-29-2 窓内	軒平瓦	① (26.7) ② (3.5)	③相模④良好⑤灰色 ⑥はる光沢	横書き作り。三重腰弁。山腰切。下笠幅27.4cm。凹面：布目有、撫で。横書き文字 有。凸面：端叩き後削。側面：面取り2回。	横書き文字 丸切文字	
13	H-29-3 窓内	軒平瓦	① (36.1) ② (1.9)	③相模④良好⑤によい 黄色⑥瓦当破片	一枚作り。瓦当部無文。山腰切、腹縫下に3条のU字形の沈線有。凹面：布目有、撫で。凸面：端をき付けた紙3.5cm・幅3.2cmの工具の印 き目X、撫で。	端書き文字 丸切文字	
14	H-29-4 埋土	平瓦	① (13.8) ② (2.7)	③中粒④良好⑤によい 黄橙色⑥破片	凹面：布目有。凸面：撫で。横書き文字有。	横書き文字 酸化焰	
15	H-40-1 床直	軒平瓦	① (18.4) ② (2.2)	③相模④良好⑤灰色 ⑥はる光沢	一枚作り。偏向草文。2本の界線で囲まれ、無文の周縁は削り目。段 縫。下笠幅26.8cm。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	横書き文字 丸切文字	
16	H-43-1 窓内	丸瓦	① 42.9 ② 2.2	③中粒④良好⑤灰色 ⑥はる光沢	円筒式。一枚作り。下笠幅23.2cm。凹面：布目有、撫で。横書き文字有。凹面：撫で。側面：面取り3回。	横書き文字 丸切文字	
17	H-43-2 埋土	平瓦	① (20.3) ② (2.2)	③中粒④良好⑤灰色 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目有、撫で。横書き文字有。凸面：撫で。側面：面取り3回。	横書き文字 丸切文字	
18	H-46-1 窓内	平瓦	① (39.0) ② (2.1)	③相模④良好⑤によい 黄色⑥瓦当破片	一枚作り。下笠幅23.3cm。凹面：布目有、撫で。横書き文字有。凸面：撫で。側面：面 取り2回。	横書き文字 酸化焰	
19	H-46-2 窓内	平瓦	① (39.2) ② (2.5)	③中粒④良好⑤によい 緑色⑥破片	一枚作り。凹面：布目有、撫で。凸面：撫で。横書き文字有。側面：面 取り3回。	横書き文字 酸化焰	
20	H-46-3 窓内	平瓦	① (30.7) ② (1.8)	③中粒④良好⑤灰色 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。横書き文字有。側面：面取り2回。	横書き文字	
21	H-46-4 埋土	平瓦	① (9.7) ② (2.5)	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	凹面：布目有。横書き文字有。凸面：撫で。側面：面取り2回。	横書き文字	
22	H-49-1 床直	軒丸瓦	—	③中粒④良好⑤灰色 ⑥はる光沢	単弁5箇文。子葉のある二重進弁、中房は1本の腰縫、透子は1~4、周縁は継ぎ、1.2~1.7cmで削り無し。瓦当裏面は無目り布目。	上野国分寺 B101か	
23	H-53-1 埋土	平瓦	① (10.8) ② (2.1)	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	凹面：布目有。凸面：撫で。横書き文字有。側面：面取り2回。	横書き文字	
24	H-55-1 埋土	平瓦	① (20.0) ② (2.1)	③相模④良好⑤灰色 ⑥破片	一枚作り。凹面：布目有。横書き文字有。凸面：端叩き後削。側面：横書き文字 有。側面：面取り2回。	横書き文字	
25	H-60-1 床直	丸瓦	① 37.0 ② 2.1	③中粒④良好⑤灰色 ⑥はる光沢	行基式。一枚作り。下笠幅19.4cm。凹面：布目有。凸面：撫で。横書き 文字有。側面：面取り2回。	横書き文字	
26	H-60-2 窓内	平瓦	① (33.7) ② (2.0)	③中粒④良好⑤灰色 ⑥破片	横書き作り。下笠幅28.5cm。凹面：布目有、撫で。横書き有。凸面：撫 で。側面：面取り2回。	横書き文字	
27	H-60-3 床直	平瓦	① (5.7) ② (1.3)	③中粒④良好⑤灰色 ⑥破片	凹面：布目有。凸面：撫で。横書き文字有。側面：面取り1回。	横書き文字	
28	グリッド	平瓦	① (11.4) ② (2.6)	③中粒④良好⑤灰色 ⑥破片	凹面：布目有。凸面：平行叩き目、撫で。端書き文字有。側面：面取 り3回。	横書き文字	

注) 層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。

(2)長さ、厚さの単位はcmである。現用単位を()、復元単位を()で示した。

(3)断面は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な筋が入る場合に筋名等を記載した。

(4)焼成は、直火、良好、不良の三段階とした。

(5)色調は瓦外側を表記し、色名は新規標準土色帳(小山・竹原1976)によった。

VI まとめ

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、100m程南西には染谷川が北西から南東へ流下し、遺跡内の微地形も北西から南東に向かって約30cmほど低くなる。調査区の地層は、①20~30cmの現耕作土層、②10~20cmのAs-B混土層、③20~30cmのAs-C・IRR-FP混土層、④10cmのAs-C混土層、⑤黄褐色砂質土層（總社砂層）で、④層は南側でははつきりと確認でき、⑤層は北・東側では粘性の高い黒褐色土層になる。遺構は⑤層まで掘り込んで構築されている。

本遺跡は推定国府域の西側に位置し、また、調査区の北西には国分僧寺、北には国分尼寺が存在する。本遺跡からは縄文時代前期から古墳時代、奈良・平安時代、中世の各時代にわたる多くの資料が得られた。

ここでは、元總社蒼海遺跡群の從来の分類に従い、I期（～7世紀前半：律令期以前）、II期（7世紀～10世紀初頭：律令期）、III期（10世紀前半～：律令期以後）の3期に大別して集落跡を概観する。

I期（～7世紀前半）

縄文時代

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡が2軒、土坑が11基検出された。竪穴住居跡は調査区北側で検出され、1軒は諸磯C式土器を伴う前期のもので、1軒は加曾利E3式土器を伴う中期のものである。土坑は調査区北・西側で検出され、加曾利および曾利式土器を伴う中期のものである。本遺跡すぐ北の「元總社小見II遺跡」では中期の竪穴住居跡が2軒検出されており、本調査区南側で遺構が検出されていないことから、縄文時代前期及び中期の集落は北側に広がっていくと考えられる。

また、調査区北・東側には、粘性の高い黒褐色土層があり、縄文土器・石器を多く検出した。当時この辺りが谷地であったことが窺える。

4世紀

古墳時代前期の遺構は、竪穴住居跡が10軒検出された。形状は方形であるが、東西辺を基本とした主軸方向はN-53°-EからN-99°-E、東西辺の長さは3.69mから6.44mとばらつく。炉は9軒で地床炉が検出され、そのうち4軒では川原石を1～2個使用している。遺物は、突出部の鉢・S字状口縁の台付甕・折り返し口縁の甕などが出土した。また、H-32号住居跡からは赤井戸系の甕も出土した。「元總社小見II遺跡」の西側でもこの時期の住居跡が7軒検出されており、集落は染谷川に沿って北西に拡がっていくと考えられる。

6世紀

古墳時代後期の遺構は、竪穴住居跡が7軒検出された。主軸方向はN-64°-EからN-87°-E、東西辺の長さは3.92mから7.51mとなる。竈は6軒の住居跡で検出され、構築材は粘土で、凝灰岩を使用しているものもある。

II期（7世紀～10世紀初頭）

7世紀

この時期の竪穴住居跡は2軒検出され、ともに前半のものと想定される。主軸方向はN-70°-EとN-92°-

E、東西辺の長さは5.72mと4.49m、竈は東竈と西竈である。遺物は、外縁の弱くなった壺、短胴化しやや膨らむ壺などが出土した。

8世紀

この時期の堅穴住居跡は10軒検出され、前半のものが3軒、中葉のものが1軒、後半のものが6軒である。主軸方向はN-70°-EからN-93°-E、東西辺の長さは2.67mから5.18mとなる。竈は9軒が東竈で1軒が北竈、構築材は粘土・石・凝灰岩で、後半のH-4号住居跡だけ瓦を使用している。

9世紀

この時期の堅穴住居跡は24軒検出された。主軸方向はN-62°-EからN-115°-E、東西辺の長さは2.03mから5.90mとなる。19軒で竈が検出され、構築材は粘土・石・凝灰岩・瓦である。その中のH-29号住居跡は、竈の両袖・煙道の天井部・支脚に瓦を使用している。遺物は、H-29号住居跡から灰釉の平瓶、H-50号住居跡から灰釉の高台椀底部を欠いた転用碗、H-21・50号住居跡から鉄鏃、H-22号住居跡から鉄斧などが出土した。

III期（10世紀前半～）

10世紀

この時期の堅穴住居跡は20軒検出された。主軸方向はN-52°-EからN-103°-E、東西辺の長さは2.30mから5.09mとなる。15軒で竈が検出され、構築材は粘土・石・凝灰岩・瓦である。遺物は、崩れた高台の付く高台椀が多くなり、羽釜が共伴する。また、II-15号住居跡から耳皿や壺、II-24号住居跡から鉄の付く懶、H-38号住居跡から白磁の破片などが出土した。

本遺跡地では、I期の繩文時代より人々の生活が営まれ、4世紀になると住居跡はやや増え、6世紀も同様な傾向で続く。II期の7世紀になると住居跡は極端に減り、8世紀になるとまた住居跡は少し増えてくる。そして、9世紀になると大幅に住居跡が増え、III期の10世紀へとつながっていく。しかし、11世紀以降の住居跡は検出されておらず、今後、近隣の調査成果と比較検討を行っていく必要がある。

今後も継続していく元總社蒼海遺跡群の発掘調査により、国府・国分僧寺・国分尼寺・さらには蒼海域と周辺集落の関わりがより明らかになっていくことを期待したい。

D-2号土坑について

この土坑は調査区北部に位置し、石31点と高台椀2点を出土した。石と高台椀の出土状態は、まず、深さ30cm程の穴を掘り、底に土を入れ、土の上に石を敷き、その中央に高台椀を重ねて置き、更にその上に石を敷いて蓋をするような状態であった。

石はすべて川原石で、含有鉱物から供給源は利根川と思われる。形状に関しては、大きさ等はまちまちで、最大長は4.0cm～13.5cm、重さは40g～950gとなる。しかし、色に関しては均一で、すべて赤味を帯びている。また、その中の1点には『庄』あるいは『生』と判読できる墨書きがある。(平面図上でどの石に墨書きがあったかは不明。)

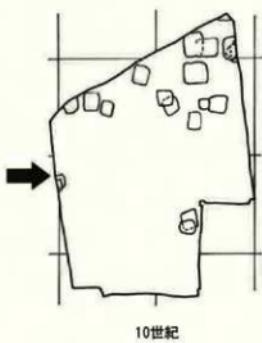
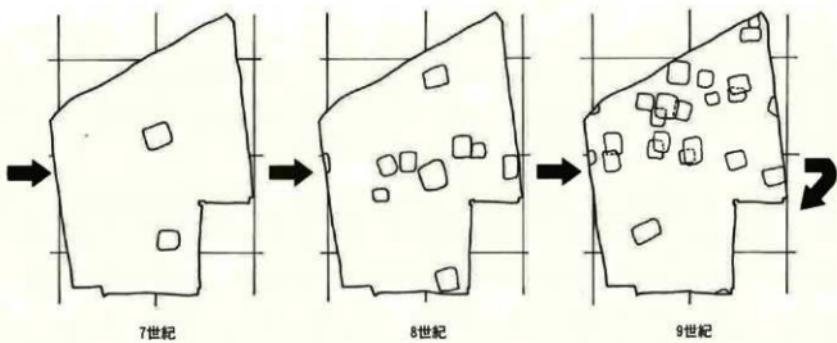
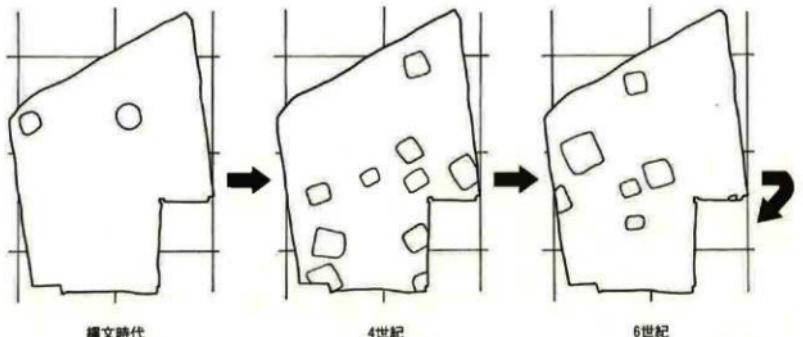
2点の高台椀は、口縁同士を重ねて、下の高台椀を上の高台椀で蓋をするような状況で出土した。上の高台椀の底部には径1cmの穿孔があり、下の高台椀の側面には、判読はできないが墨書きがある。

高台橈の形状から、この土坑は10世紀後半のものと考えられる。本遺跡の北側部には、同時期の住居跡が多くあり、この土坑は集落の南側に位置していたのであろうか。穿孔のある高台橈を中央に据え、その周りに赤味を帯びた石を並べるなどやや祭的なものを感じる。また、高台橈の墨書を「生」と読むとすると、H-15号住居跡からも「生」の墨書のある高台橈が出土しており関連が考えられる。しかし、「生」の字体がやや異なり、直接関連づけるには無理があろう。

不明な点が多くあり、今後、近隣の調査成果やこれから調査成果と合わせて更に検討していきたい。

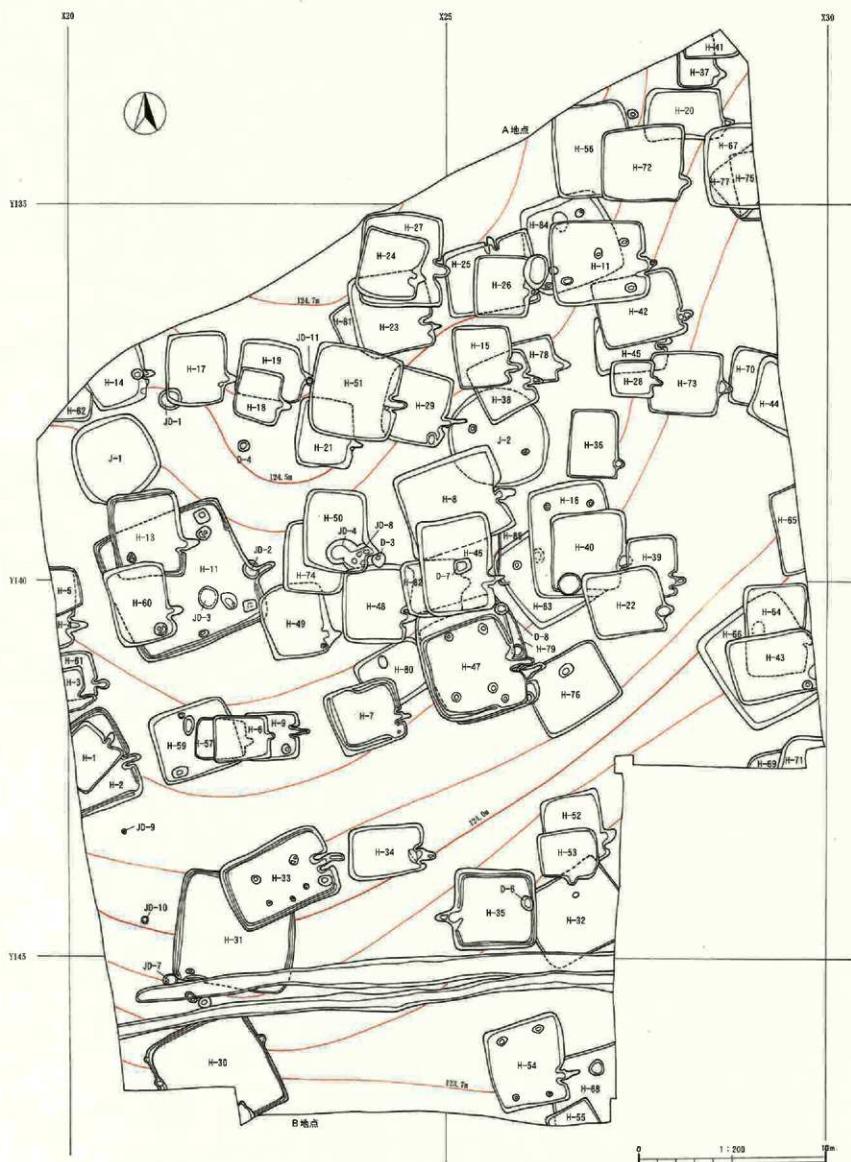
〈引用参考文献〉

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「糸井宮前遺跡II」 勅群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986年
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分僧寺・尼寺中間地域 1~8」 勅群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986年~
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団編 「上野国分寺」 勅群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988年
- 東京都埋蔵文化財センター 「資料目録6」 勅東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター 1991年
- 真塙明男・飯田祐二編 「上野国分尼寺寺域確認調査」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 鉢木雅浩・高橋一彦編 「元總社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 山武考古学研究所編 元總社舊海遺跡群「元總社小見遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000年
- 齊木一敏・高坂麻子編 元總社舊海遺跡群「元總社小見内IV遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編 元總社舊海遺跡群「元總社小見II遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 山武考古学研究所編 元總社舊海遺跡群「元總社小見III遺跡・元總社草作V遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002年
- 高橋一彦・高坂麻子編 元總社舊海遺跡群「元總社小見V遺跡・元總社小見内VI遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
- 高橋一彦・高坂麻子編 元總社舊海遺跡群「元總社小見IV遺跡」 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年



時期別整穴住跡の推移

FIG. 5 元谷村小字点VII地籍全休图



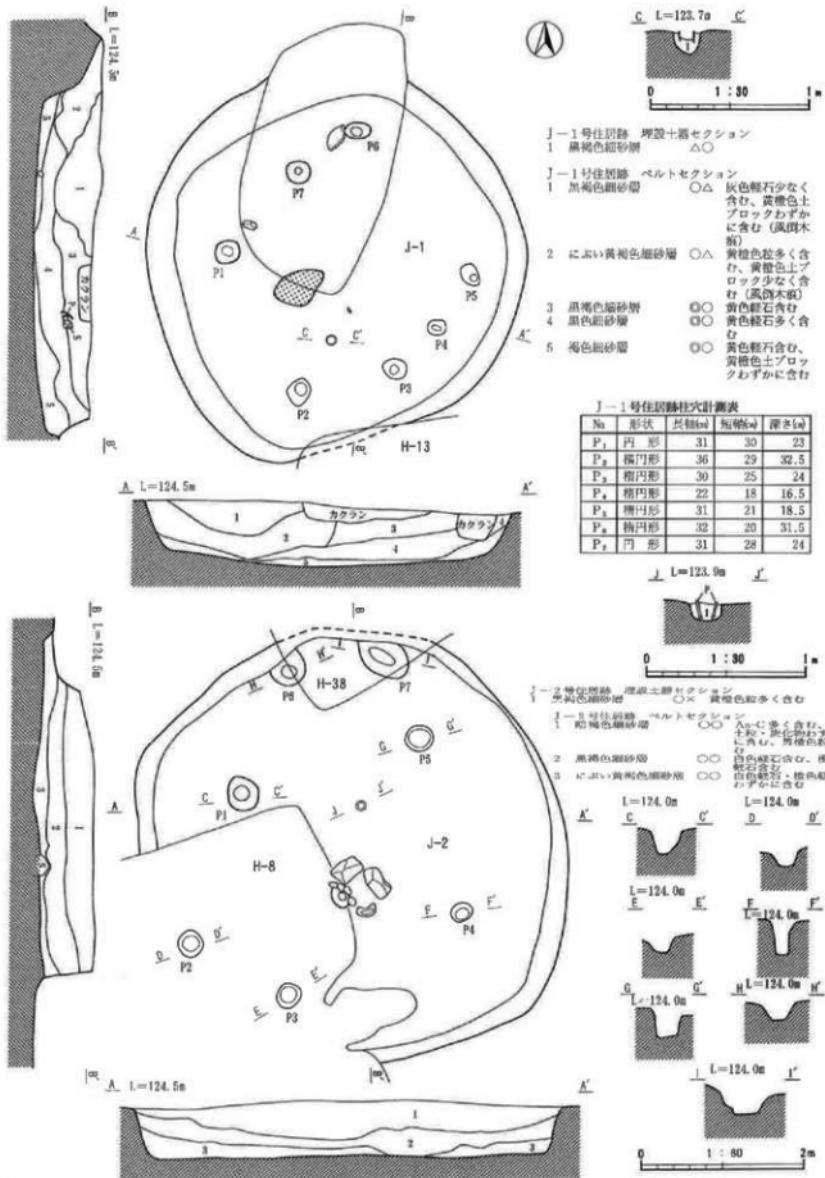


Fig. 6 J-1・2号住居跡

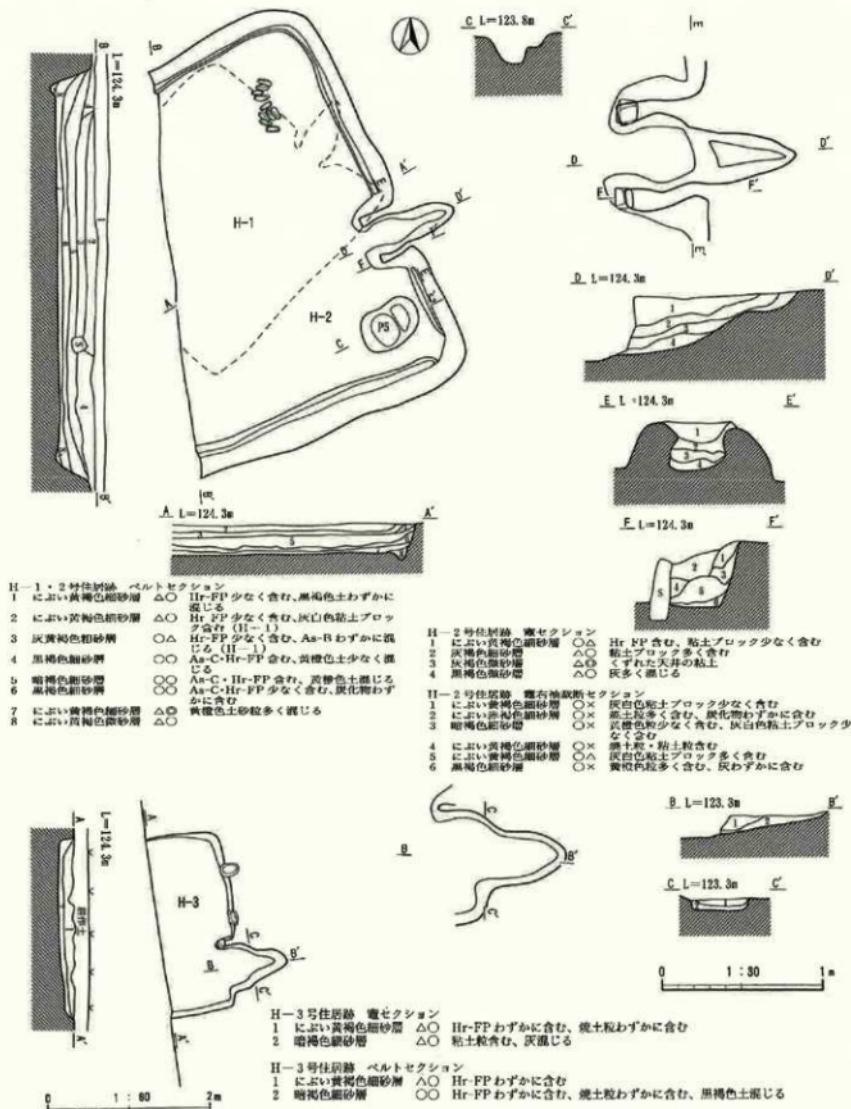


Fig. 7 H-1～3号住居跡

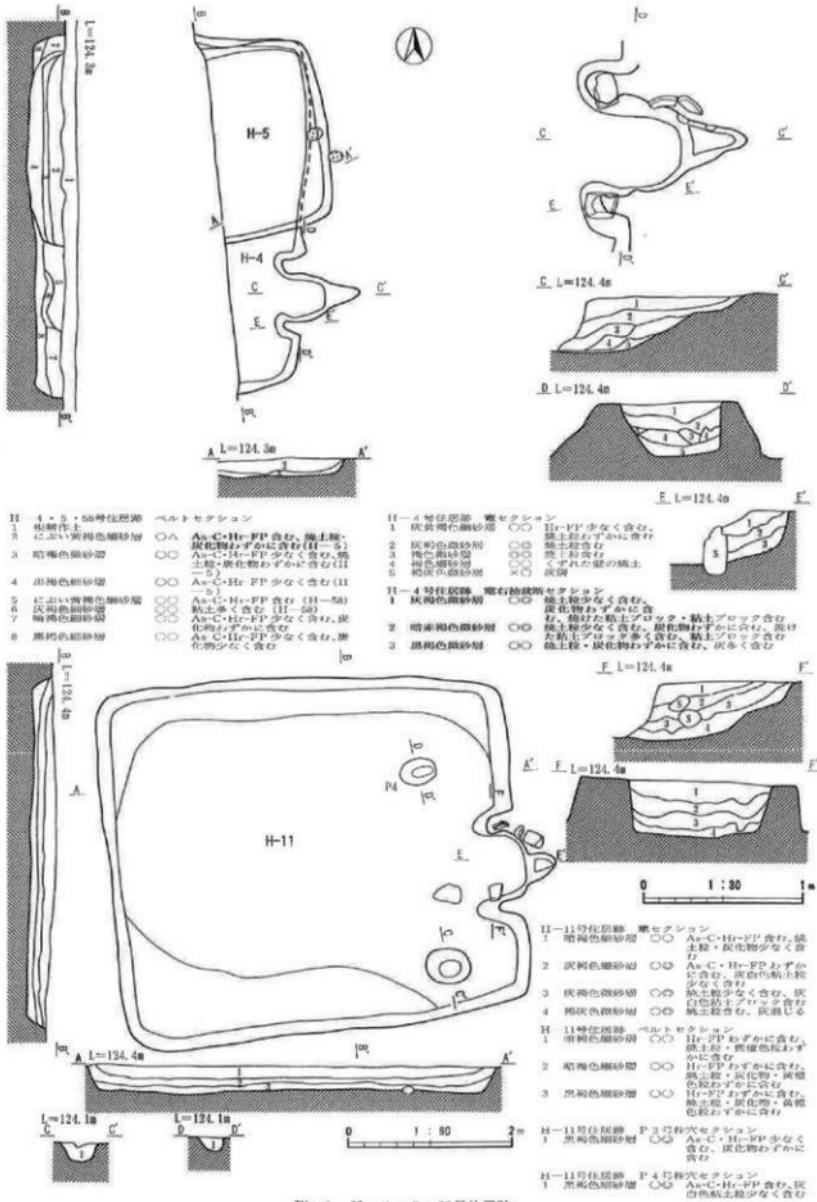


Fig. 8 H—4·5·11号住居跡

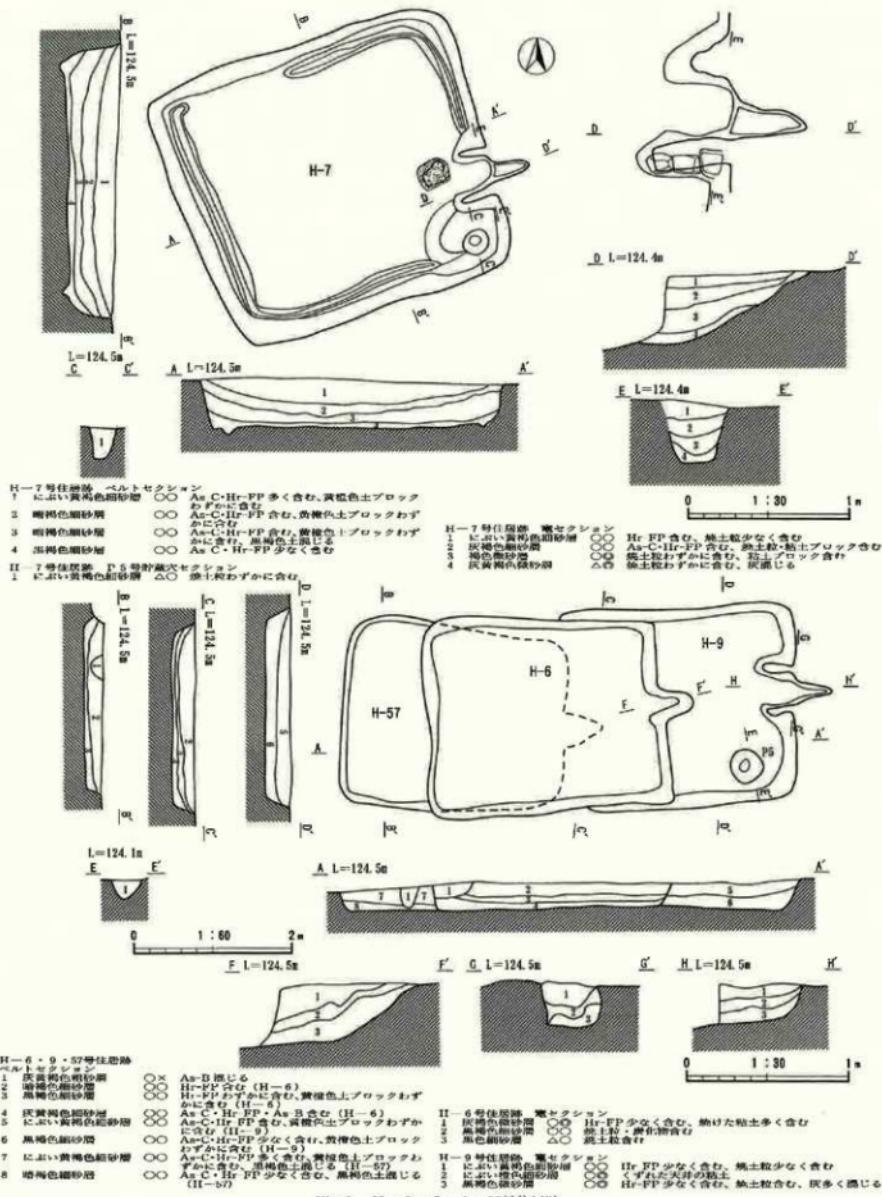


Fig. 9 H-6・7・9号柱状圖

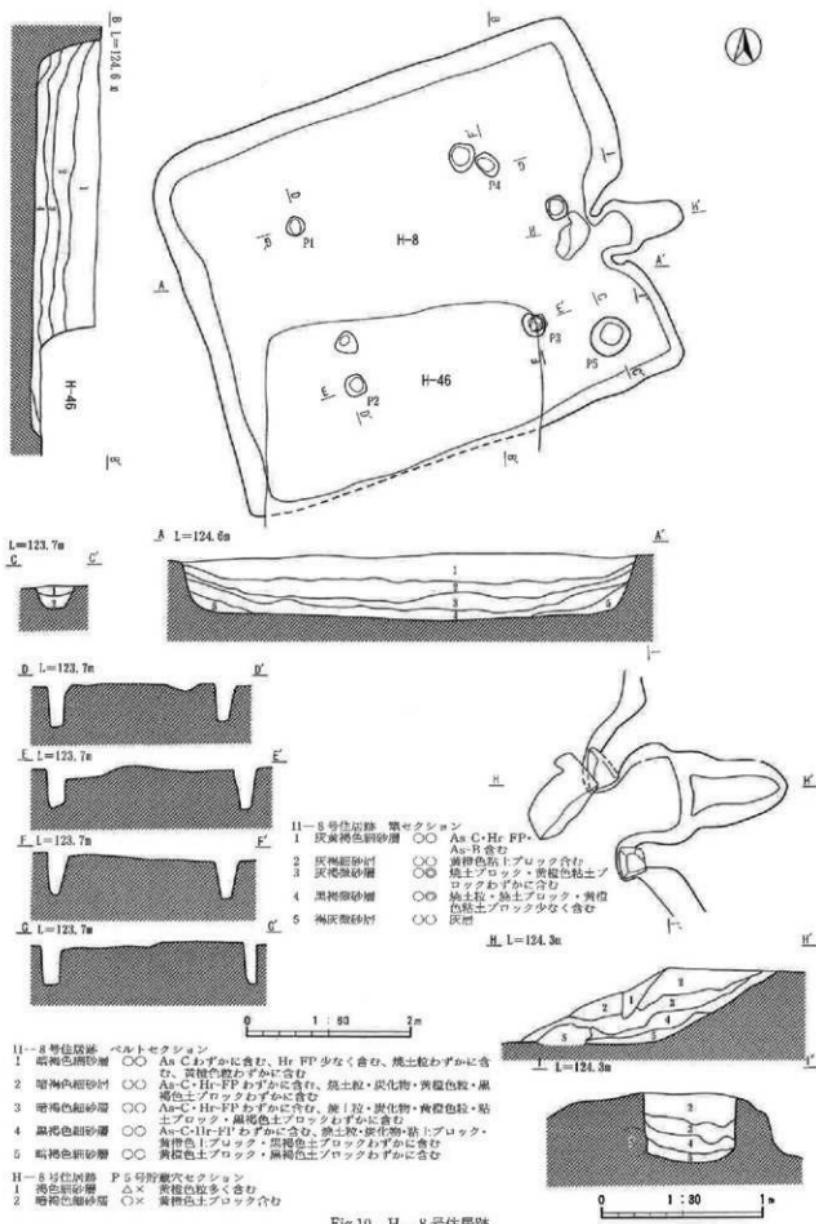


Fig.10 H 8号住居跡

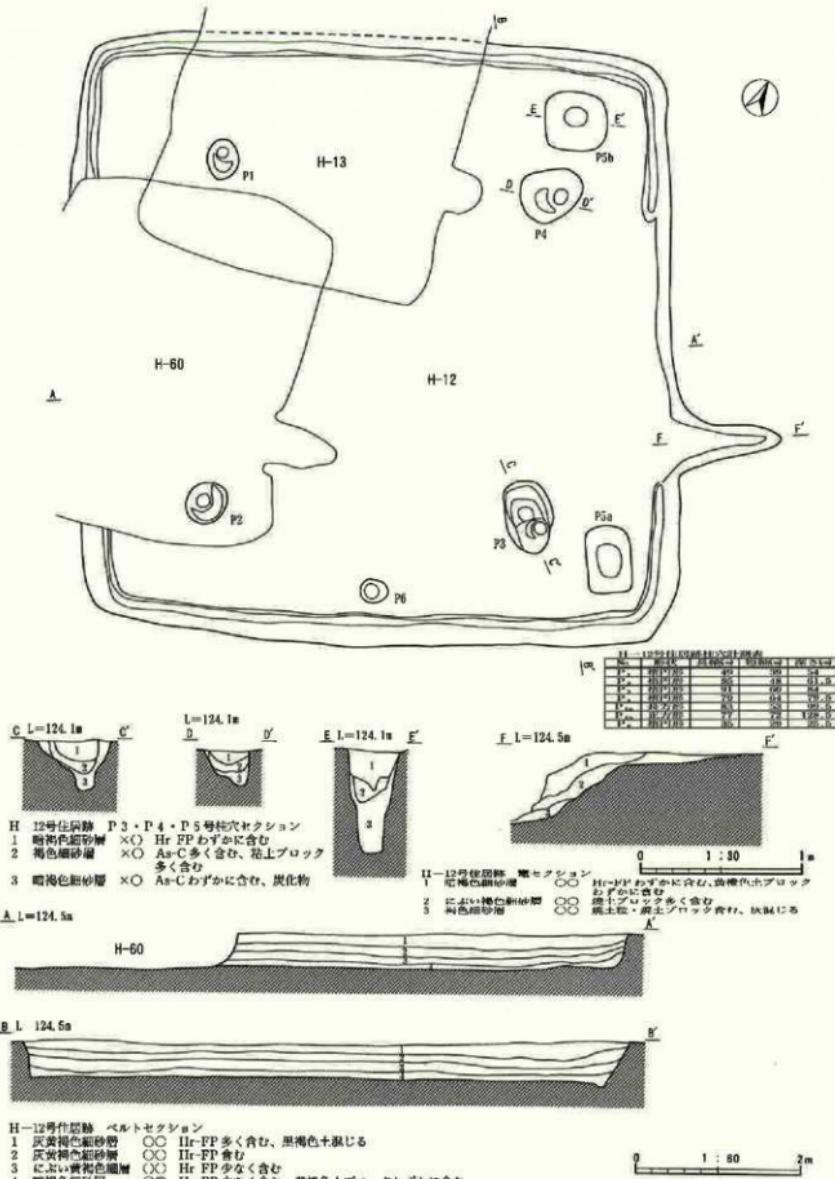
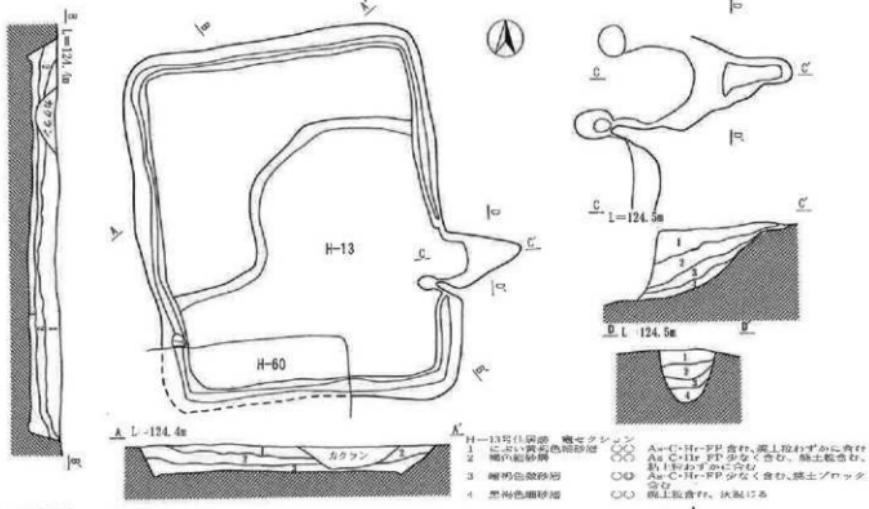


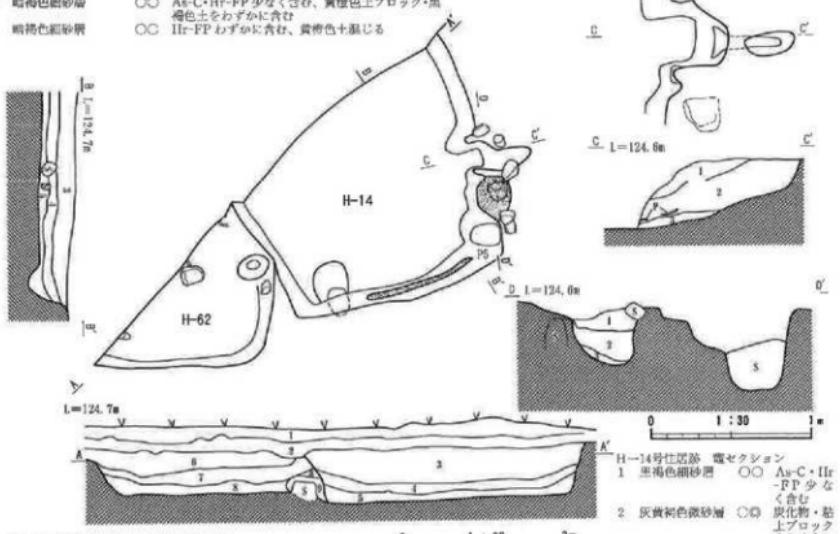
Fig.11 H-12号住居跡



H-13号住居跡 ベルトセクション
1 に於ける褐色細砂層 ◇ As-C-Hr FP 含む、黄褐色土ブロックわずかに含む
2 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む、黄褐色土ブロック・黒褐色土をわずかに含む
3 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む、黒褐色土混じる

H-13号住居跡 露セクション
1 黄褐色細砂層
2 黄褐色細砂層
3 黄褐色細砂層
4 黑褐色細砂層

As-C-Hr FP 含む、黒土塊わずかに含む
As-C-Hr FP 少なく含む、黒土塊含む
As-C-Hr FP 少なく含む、黒土ブロック含む
As-C-Hr FP 少なく含む、黒土塊含む



H-14号住居跡 ベルトセクション
1 黑褐色細砂層 ◇ As-C-Hr 含む
2 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 含む (H-14)
3 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む (H-14)
4 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む、炭化物わずかに含む (H-14)
5 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む、炭化物含む (H-14)
6 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 含む
7 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む
8 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む、炭化物わずかに含む
9 黄褐色細砂層 ○ As-C-Hr FP 少なく含む、炭化物わずかに含む

Fig.12 H-13・14・62号住居跡

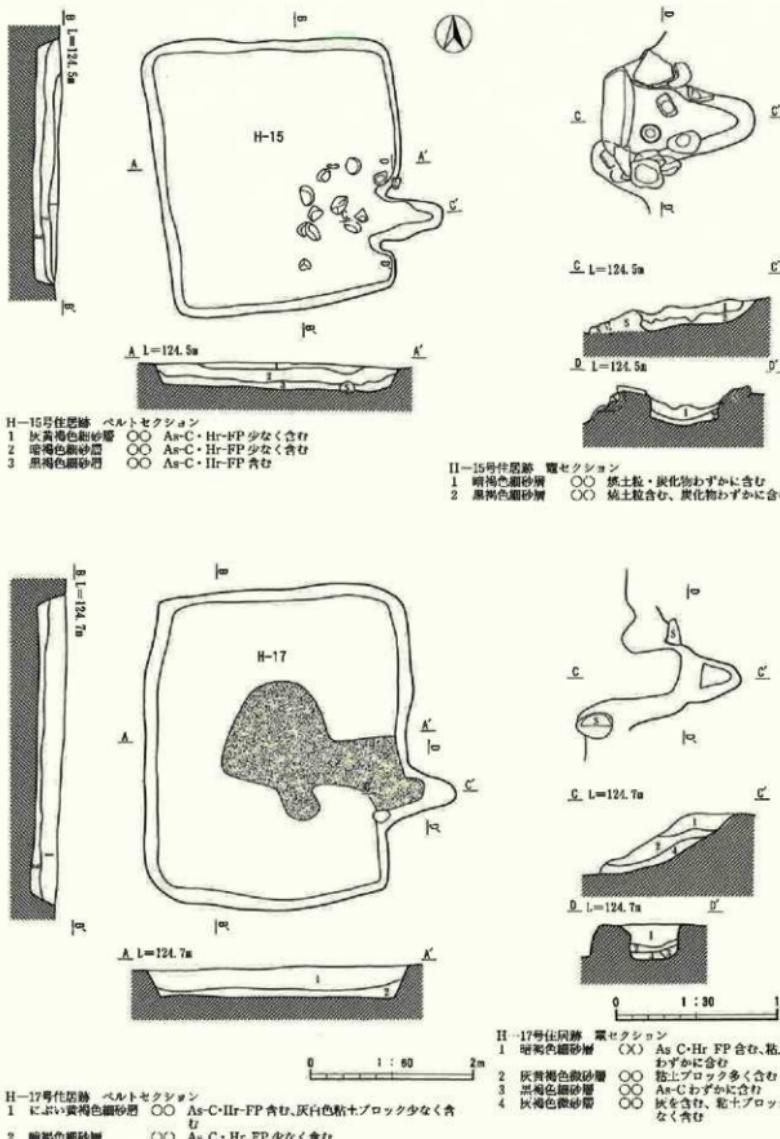


Fig.13 H-15・17号住居跡

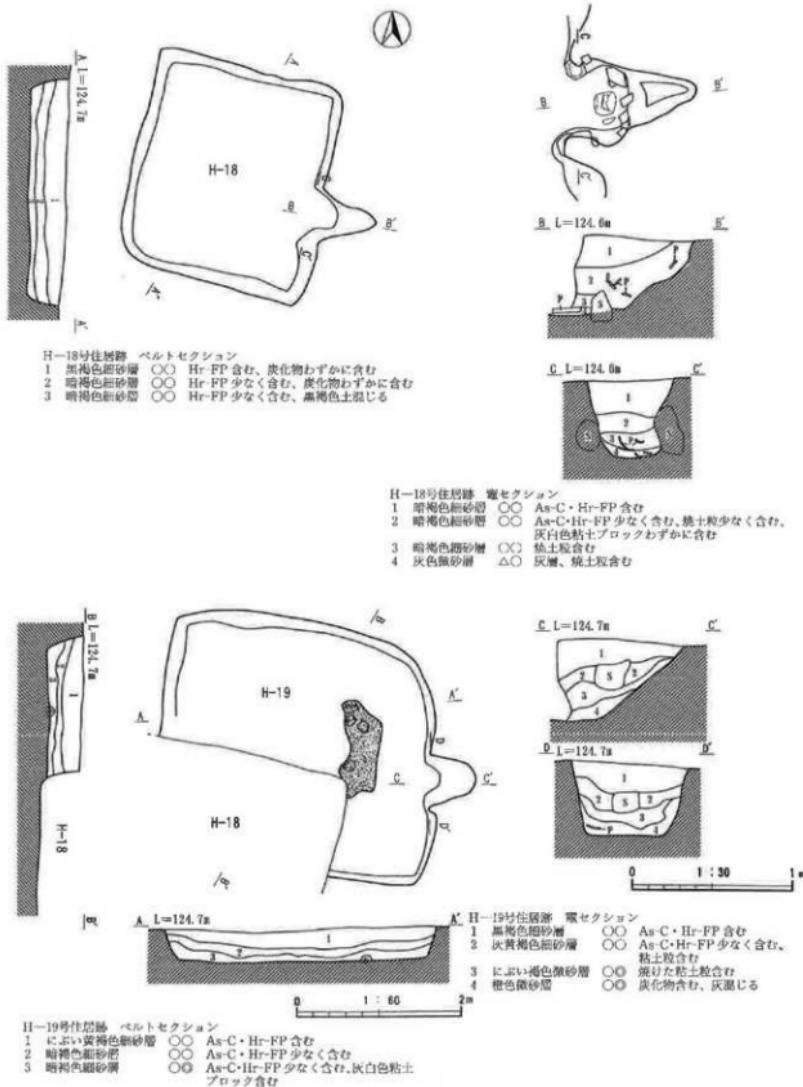


Fig.14 H-18・19号住居跡

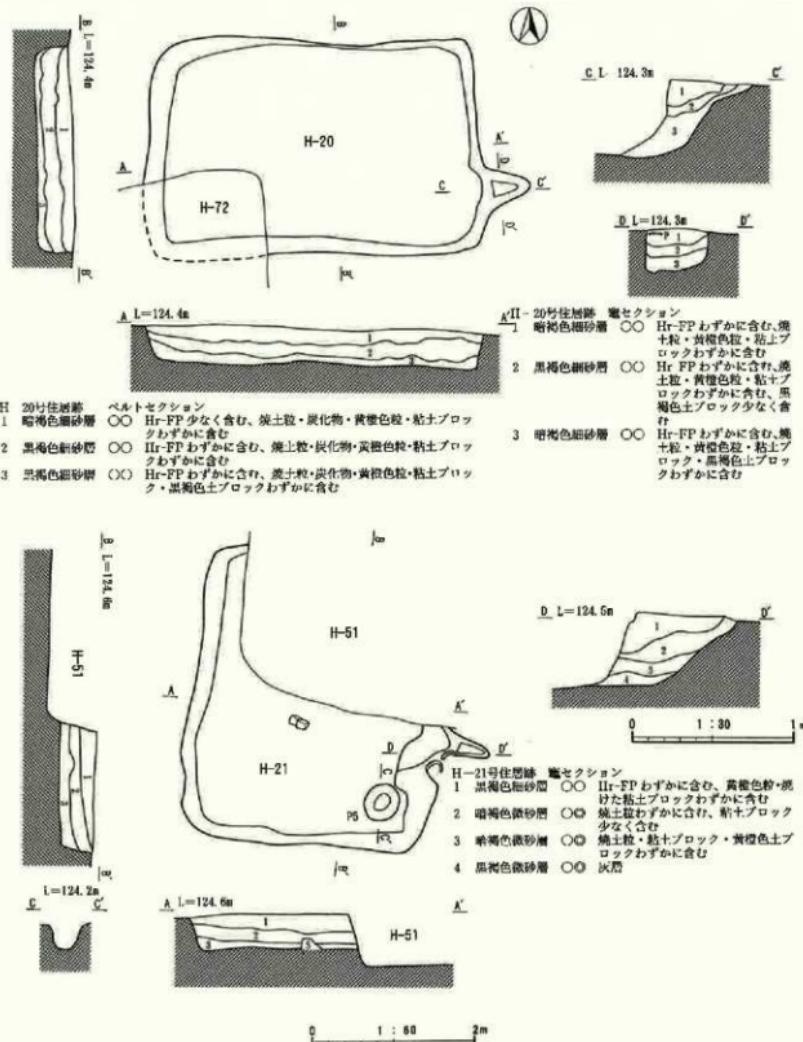
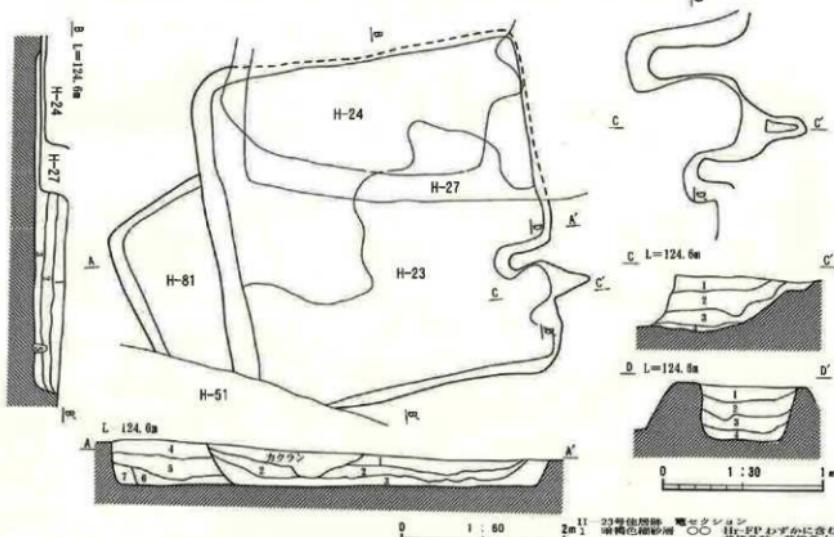
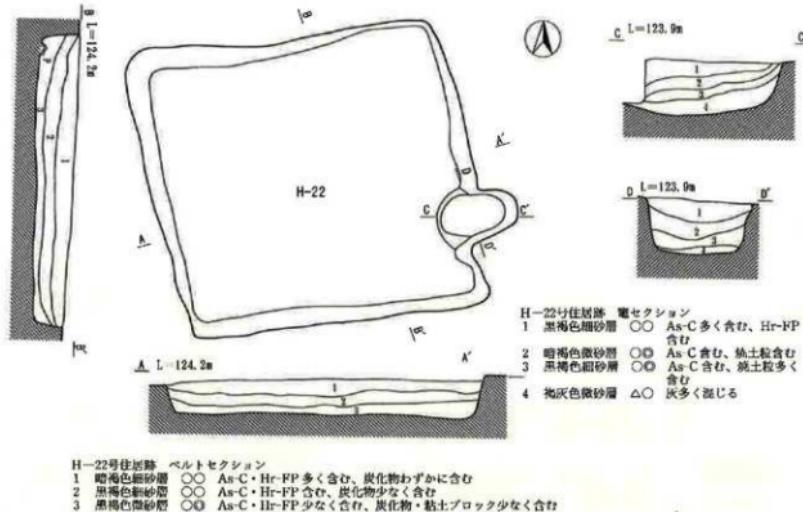


Fig.15 II 20・21号住居跡



- H-23・81号住居跡 ベルトセクション
- 1 暗褐色細砂層 ○○ Hr-FP 少なく含む、地上部・炭化物・粘土ブロック・黄褐色色絞り、粘土ブロック内に含む (H-23)
 - 2 暗褐色細砂層 ○○ Hr-FP 少なく含む、地下部・炭化物・粘土色・黄褐色色絞り、粘土ブロック・黄褐色色絞り内に含む (H-23)
 - 3 黑褐色細砂層 ○○ Hr-FP 少なく含む、地下部・炭化物・黄褐色色絞り内に含む (H-23)
 - 4 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 多く含む、地上部・炭化物わずかに含む、黄褐色色絞り内に含む
 - 5 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 少なく含む、地下部・炭化物・黄褐色色絞り内に含む
 - 6 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 少なく含む、地下部・炭化物・黄褐色色絞り内に含む
 - 7 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 含む

Fig.16 H-22・23・81号住居跡

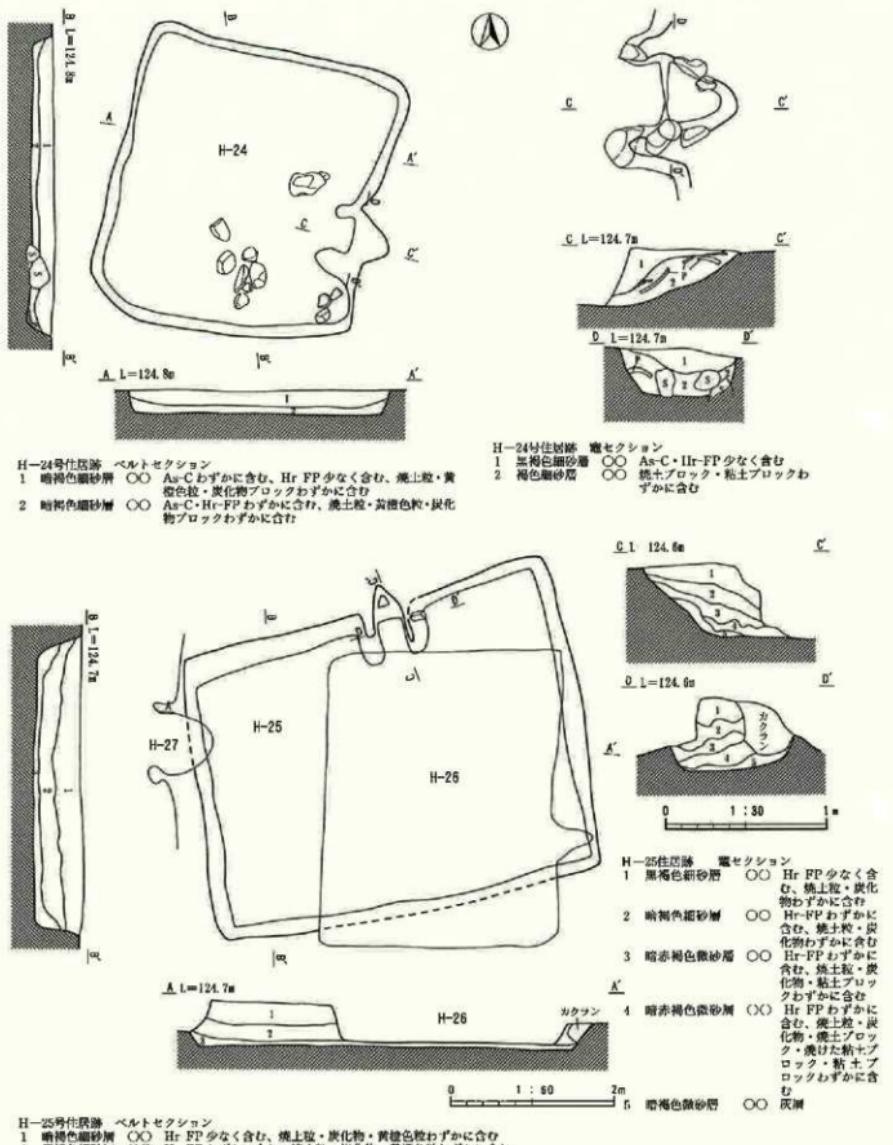


Fig.17 H-24・25号住居跡

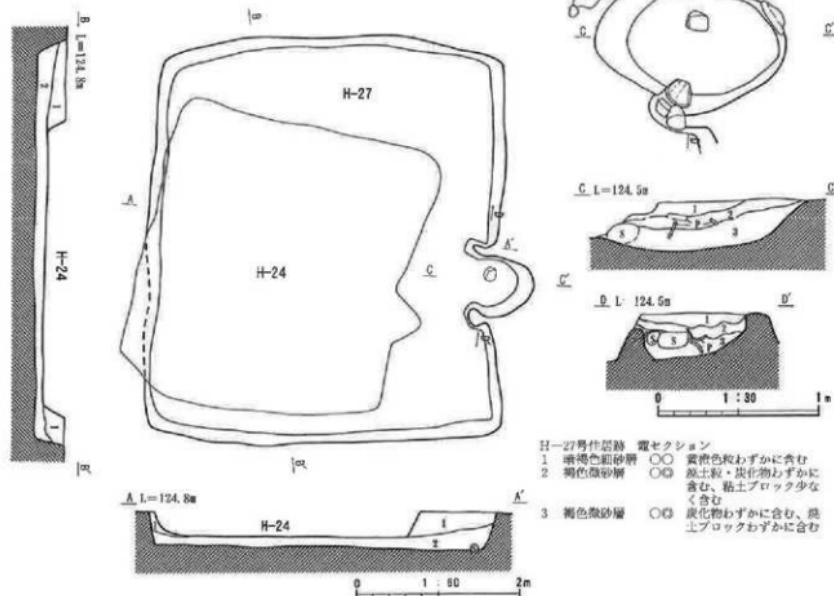
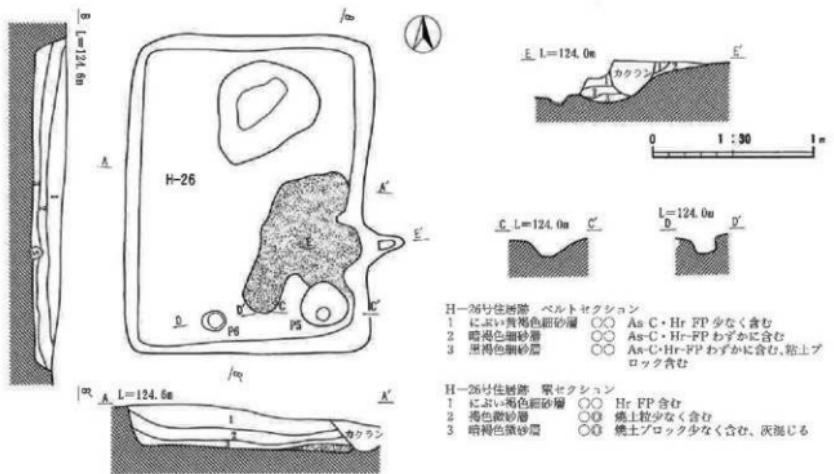
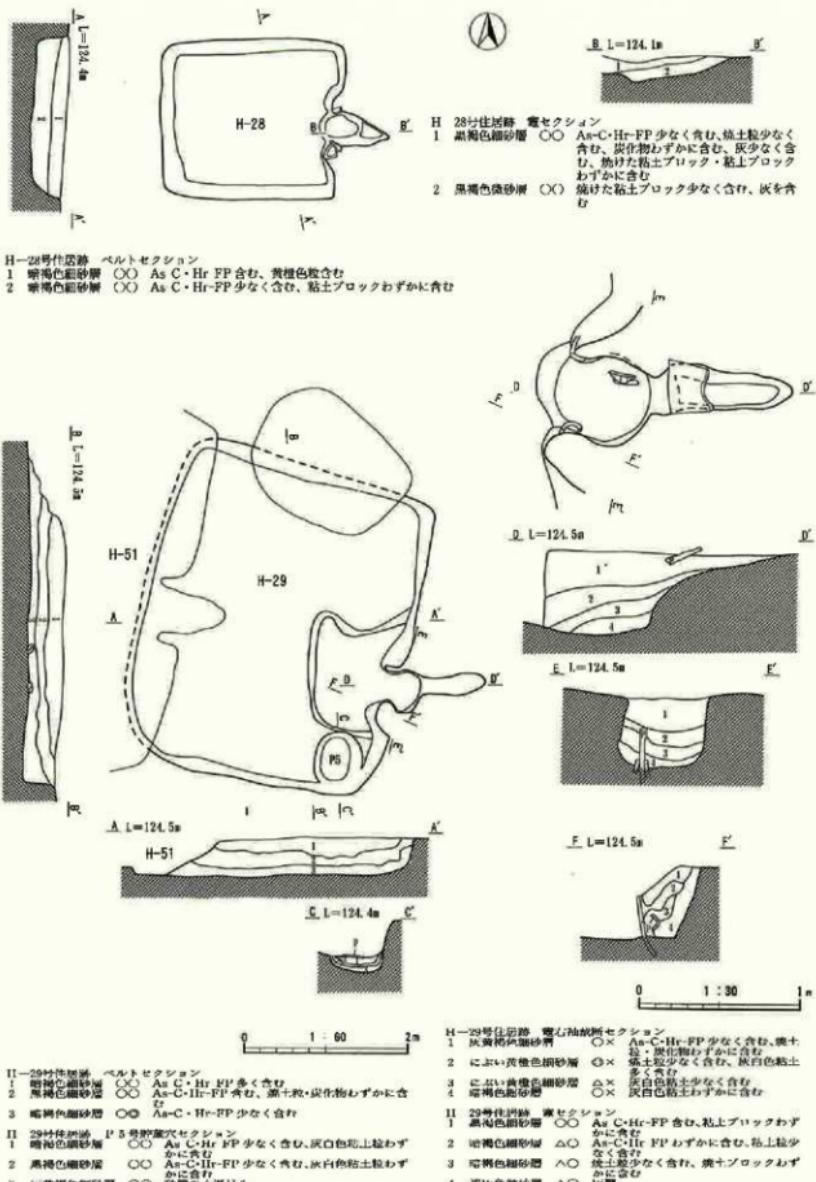


Fig.18 H-26・27号住居跡



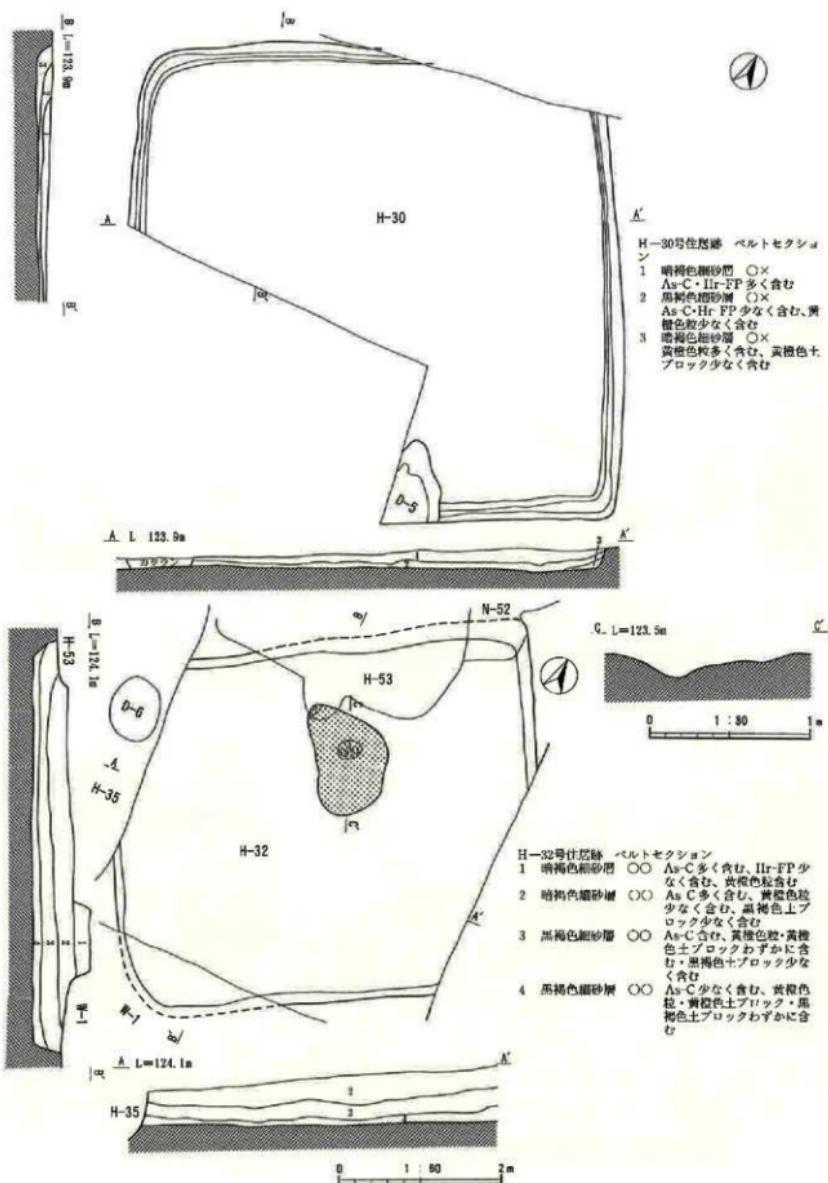


Fig.20 H-30・32号住居跡

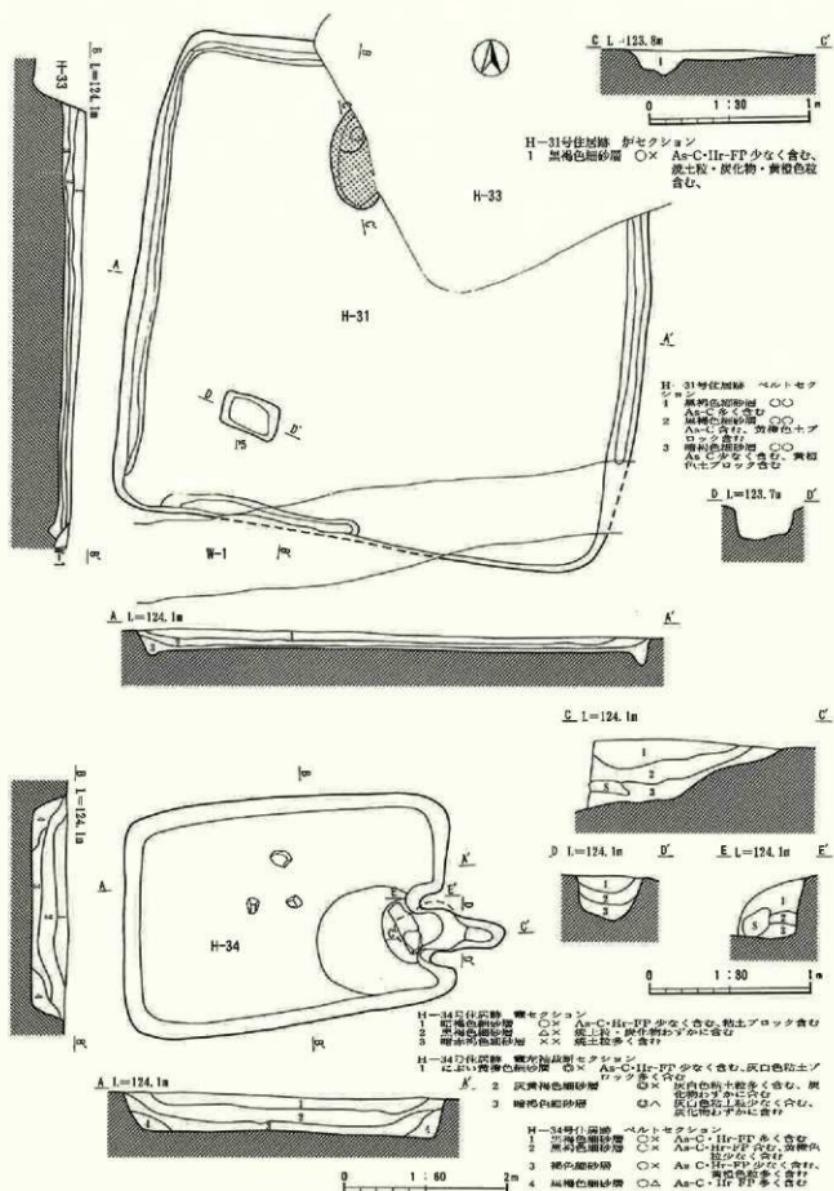


Fig.21 H 31·34号住居跡

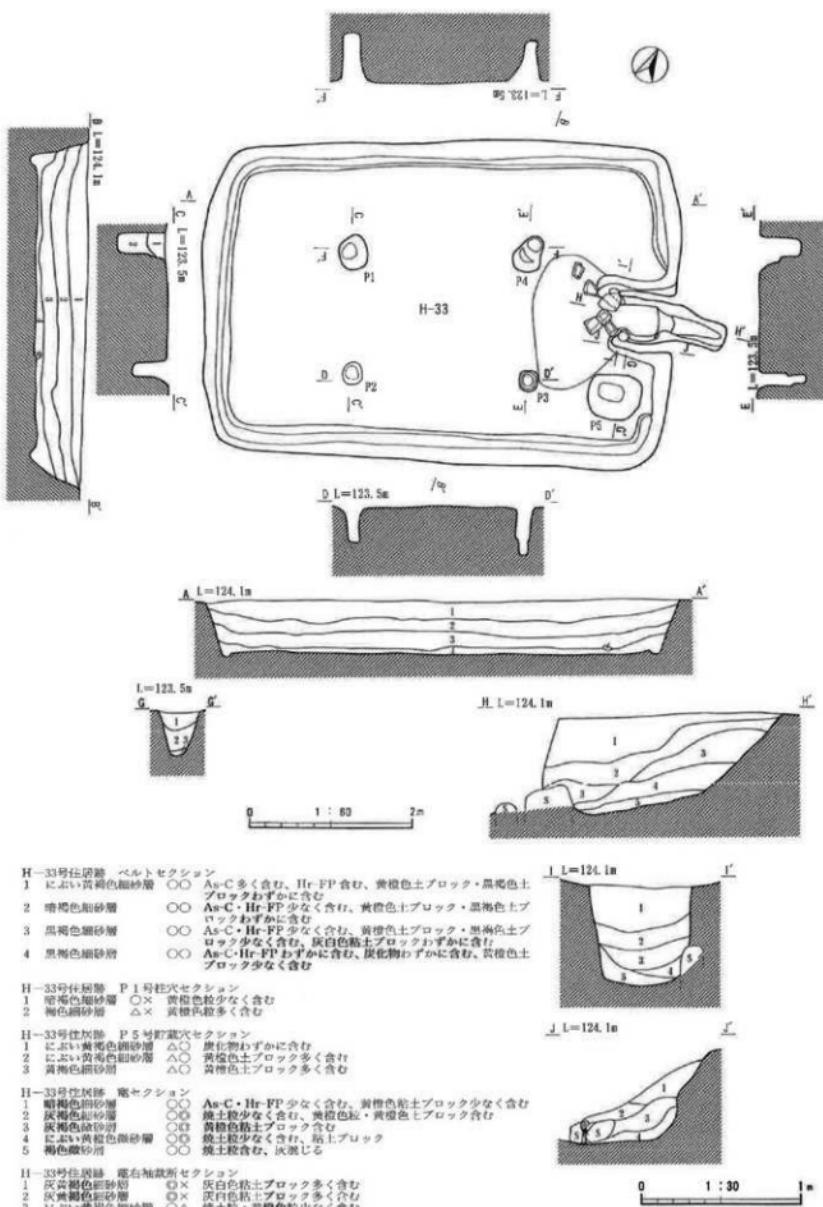


Fig.22 H-33号住居跡

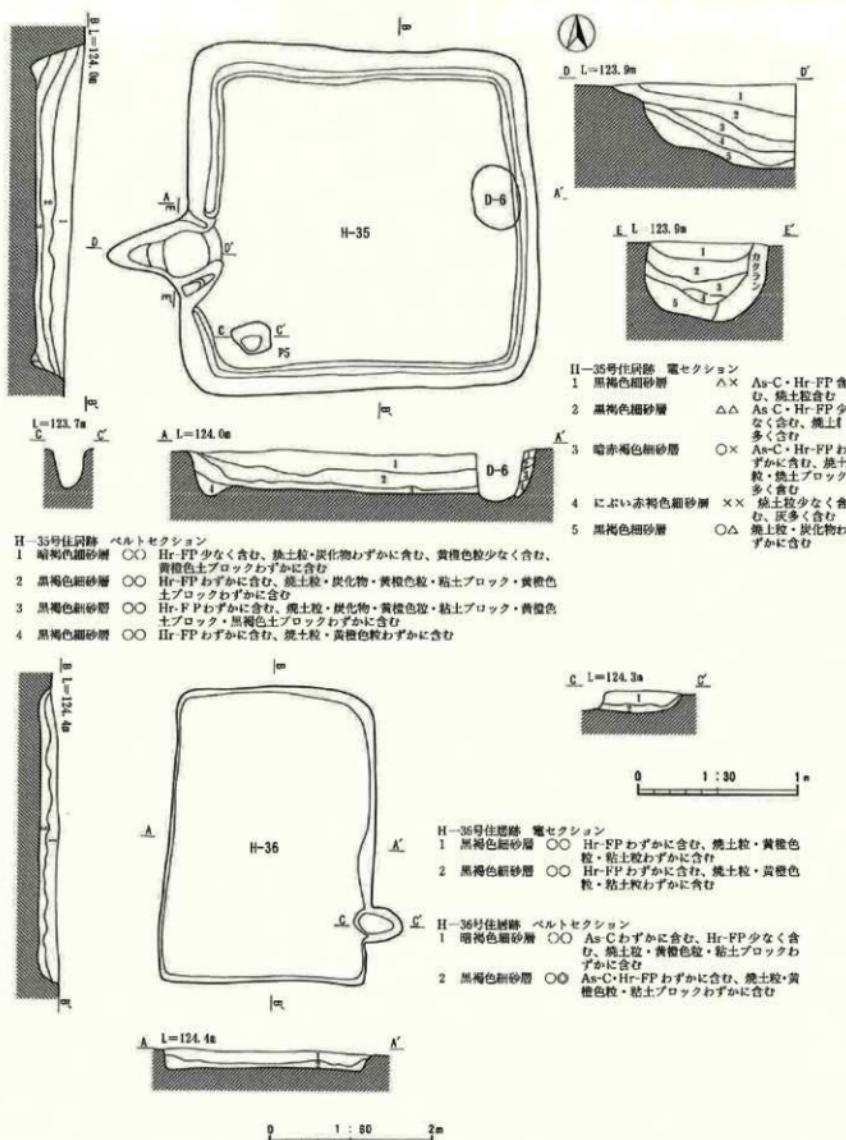


Fig.23 H-35・36号住居跡

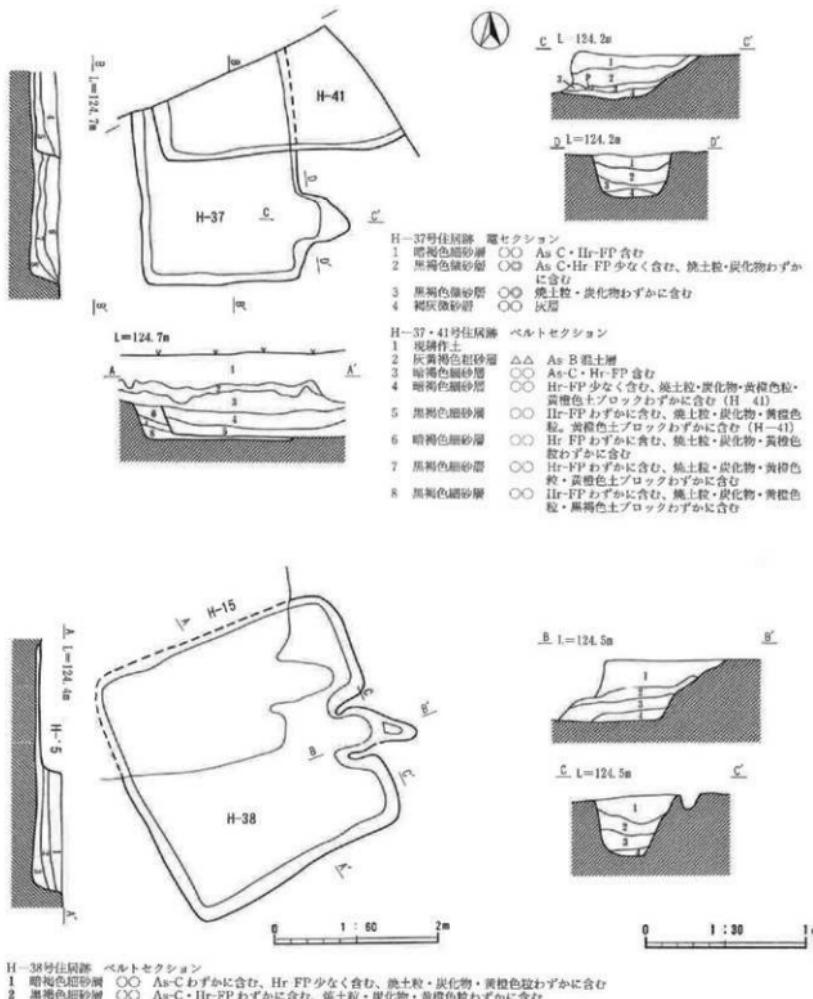


Fig.24 H-37・38・41号住居跡

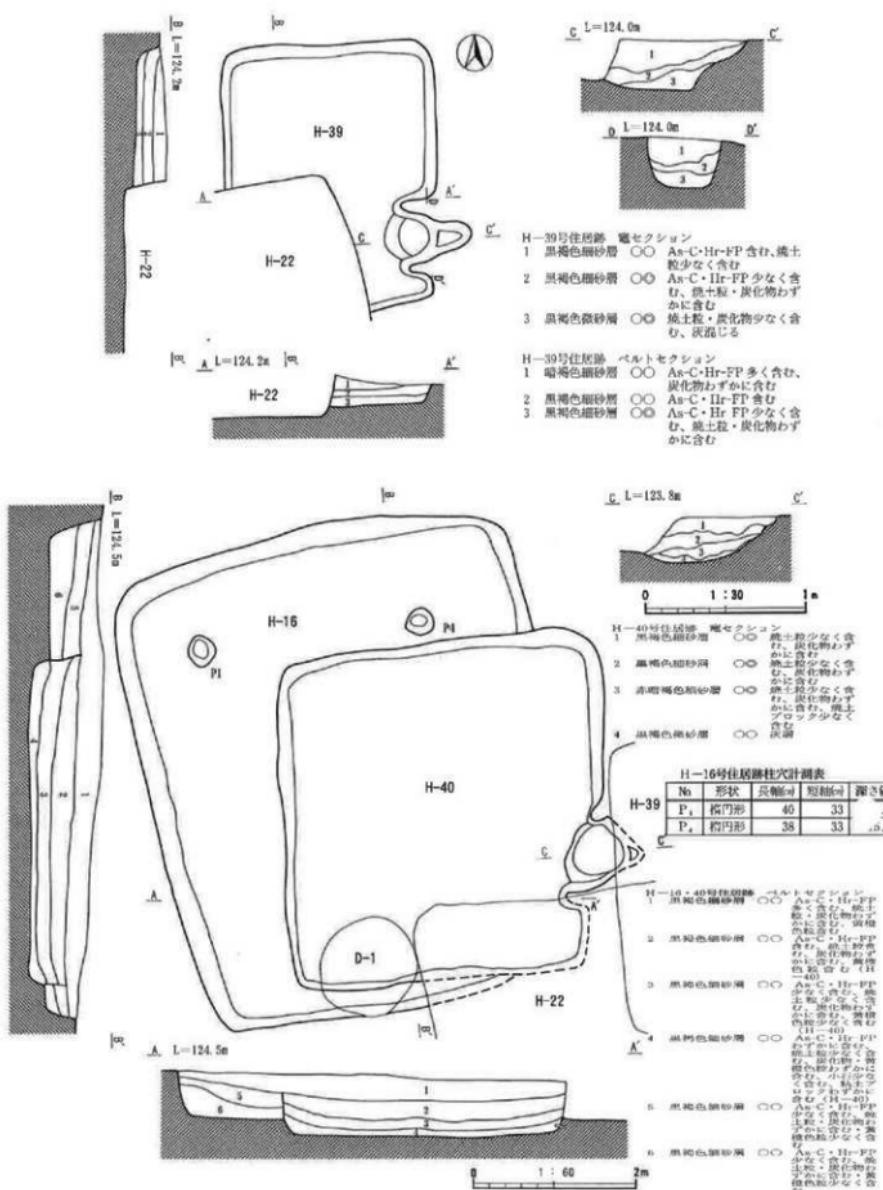


Fig.25 H-16・39・40号住居跡

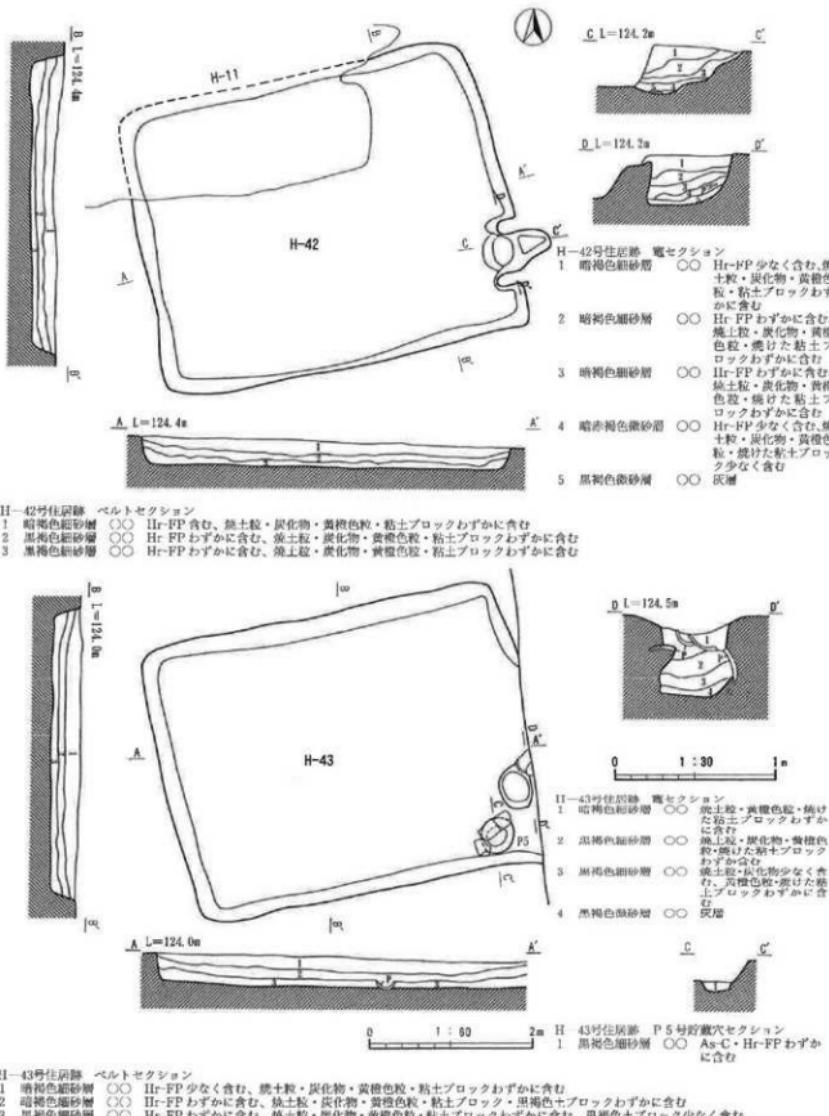
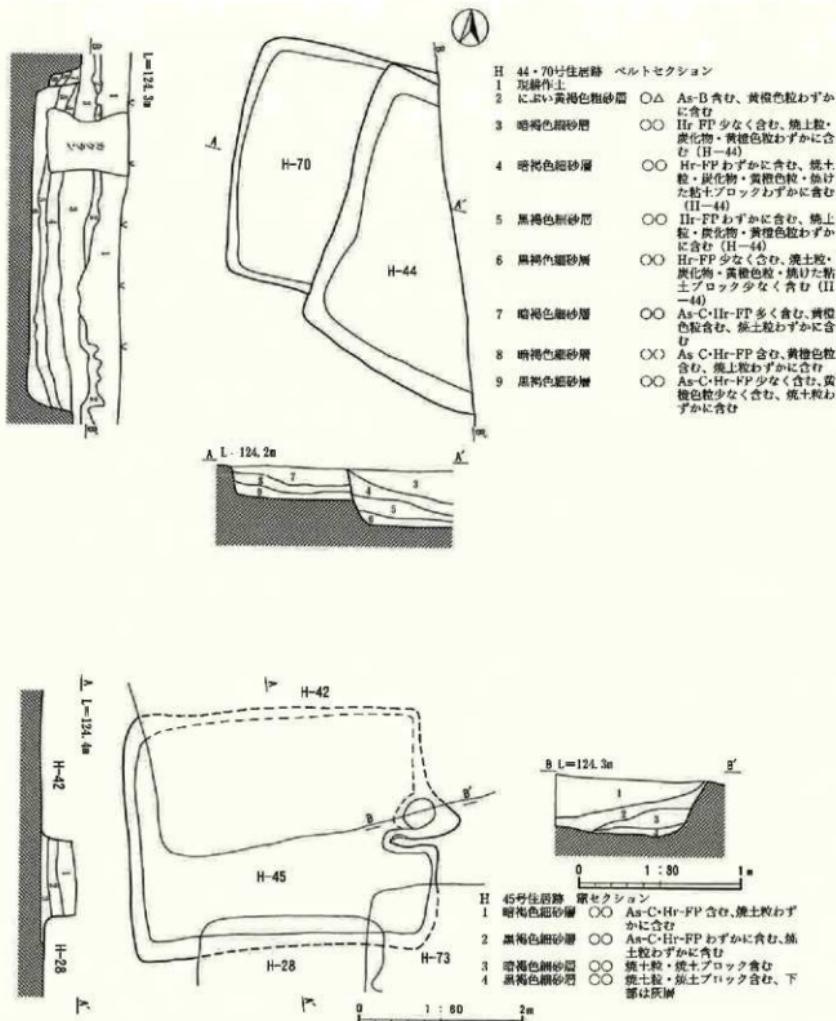


Fig.26 H-42・43号住居跡

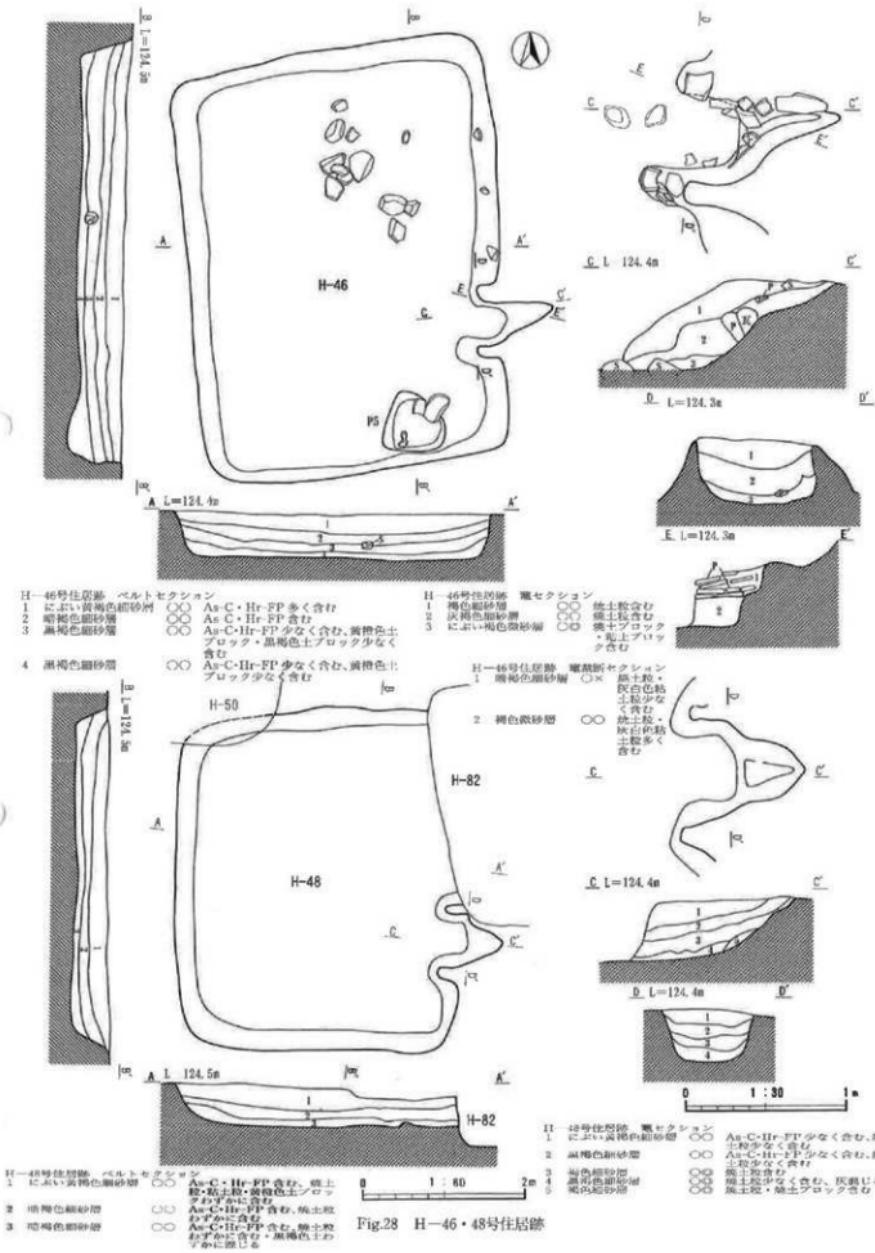


II-45号住居跡 ベルトセクション

1 塗膜付上
2 黄褐色細砂層
3 黄褐色細砂層

○○ As-C-Hr-FP 合む、焼土粒わずかに含む、黄褐色粒含む
○○ As-C-Hr-FP 少なく含む、焼土粒わずかに含む、黄褐色粒少なく含む、黄褐色土ブロックわずかに含む
○○ As-C-Hr-FP わずかに含む、焼土粒、黄褐色粒、黄褐色土ブロックわずかに含む

Fig.27 H-44・45・70号住居跡



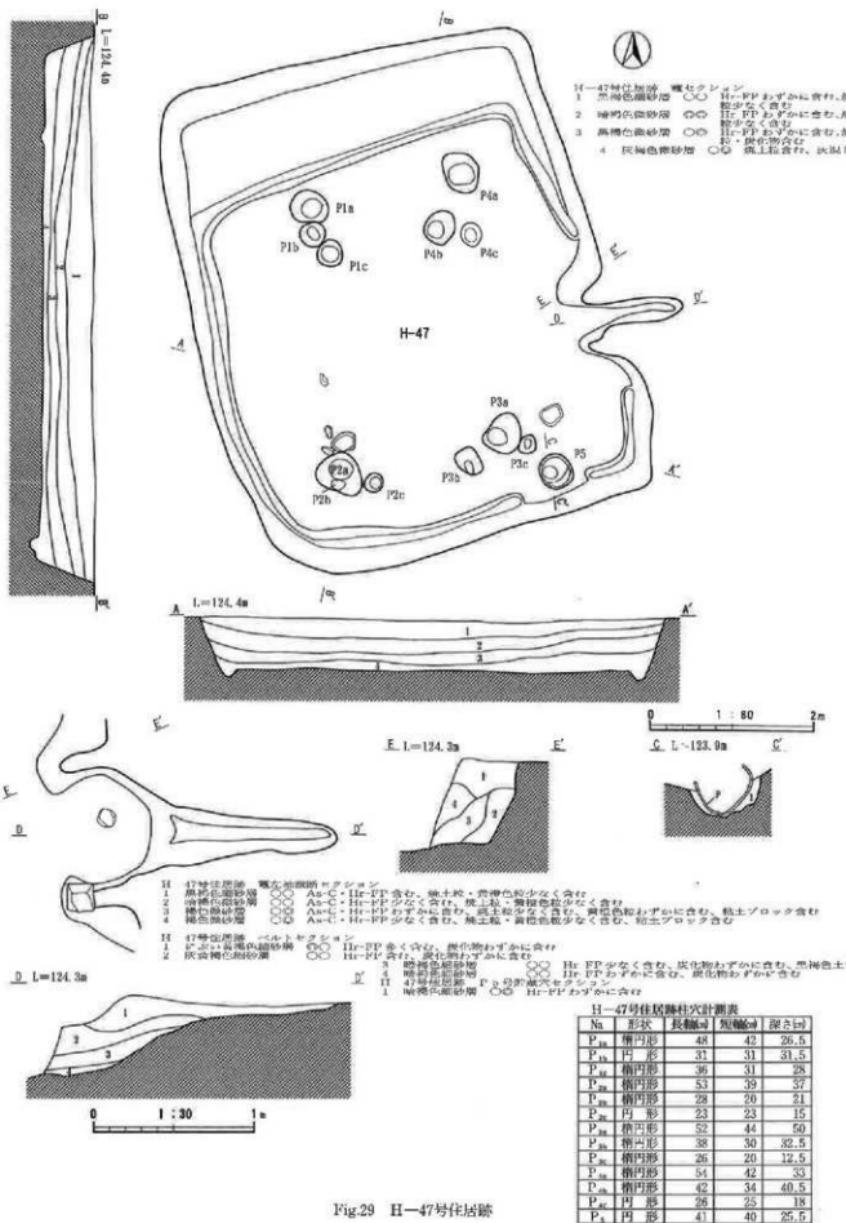


Fig.29 H-47号住居跡

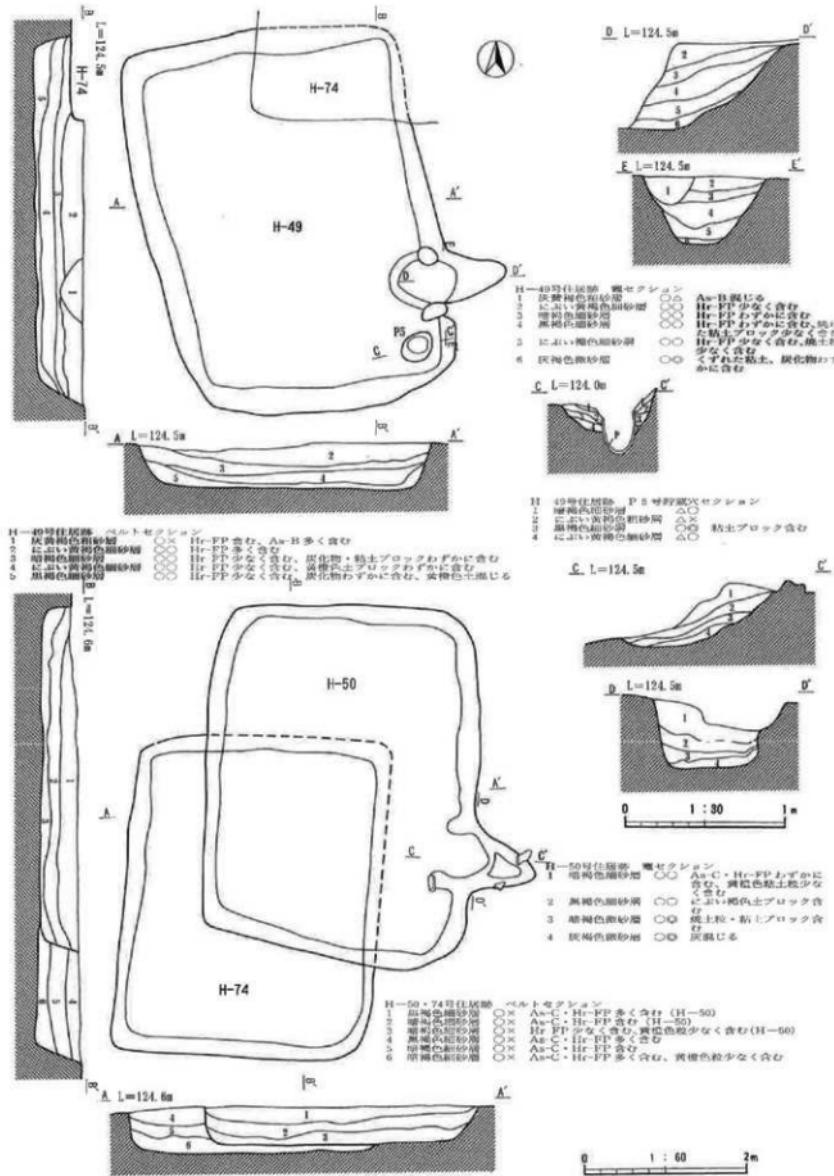
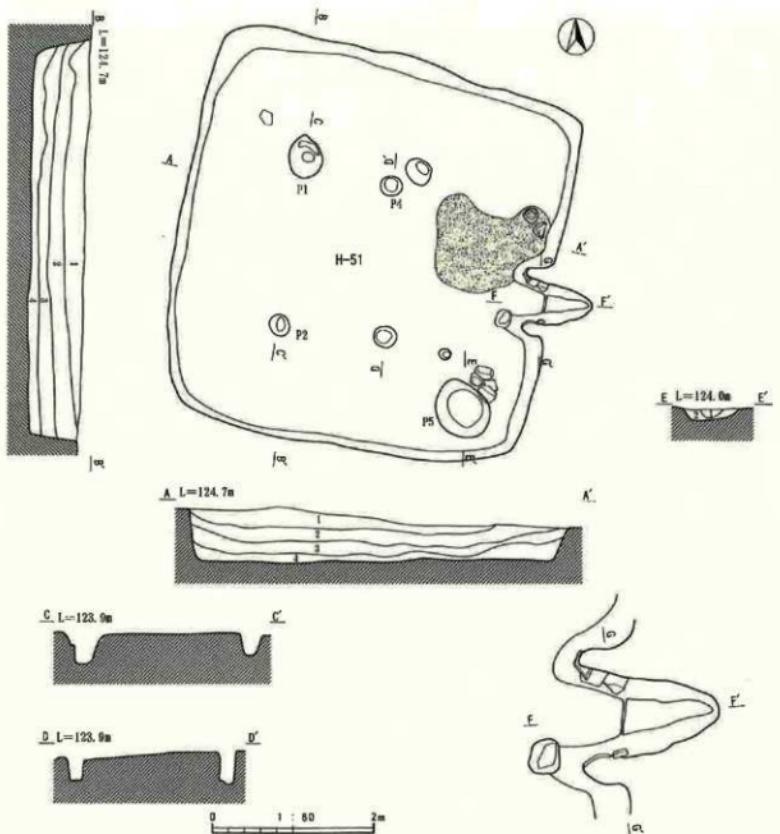


Fig.30 H—49·50·74号住居跡



H-51号住居跡 電セクション

- 1 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄褐色粒わずかに含む
- 2 灰褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土ブロック・粘土ブロックわずかに含む
- 3 褐色細砂層 ○○ 焼土ブロックわずかに含む、灰わずかに含む

H-51号住居跡 ベルトセクション

- 1 黑褐色細砂層 ○○ As-C わずかに含む、Hr-FP 少なく含む、焼土粒・炭化物・黄褐色粒わずかに含む
- 2 灰褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄褐色粒わずかに含む
- 3 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄褐色粒わずかに含む
- 4 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr FP わずかに含む、焼土粒・炭化物・黄褐色粒・黄褐色土ブロック・粘土ブロックわずかに含む

H-51号住居跡 P 5号貯蔵穴セクション

- 1 黑褐色細砂層 △△ 粘土ブロック含む
- 2 にかい灰褐色細砂層 ○○ 粘土ブロック含む

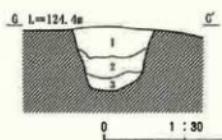
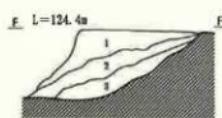


Fig.31 H-51号住居跡

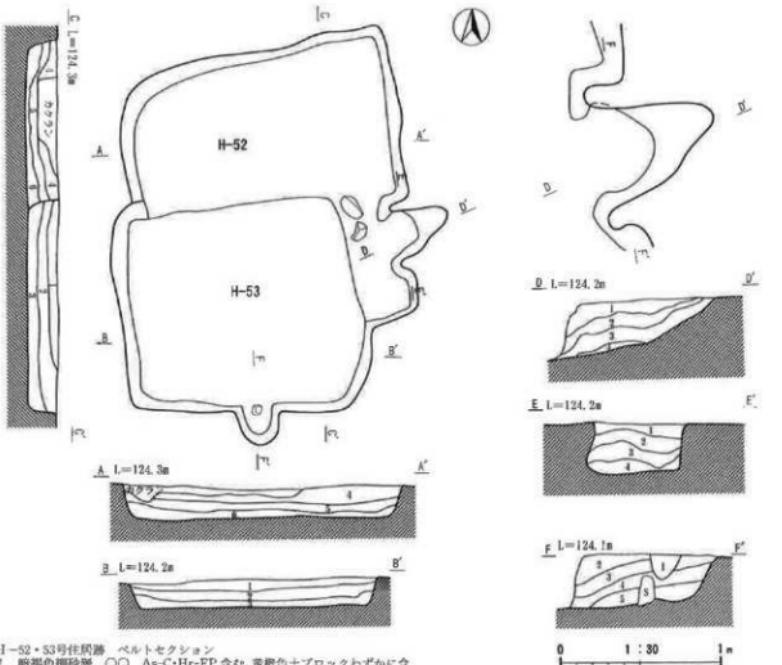


Fig.32 H-52 + 53 + 55号住居跡

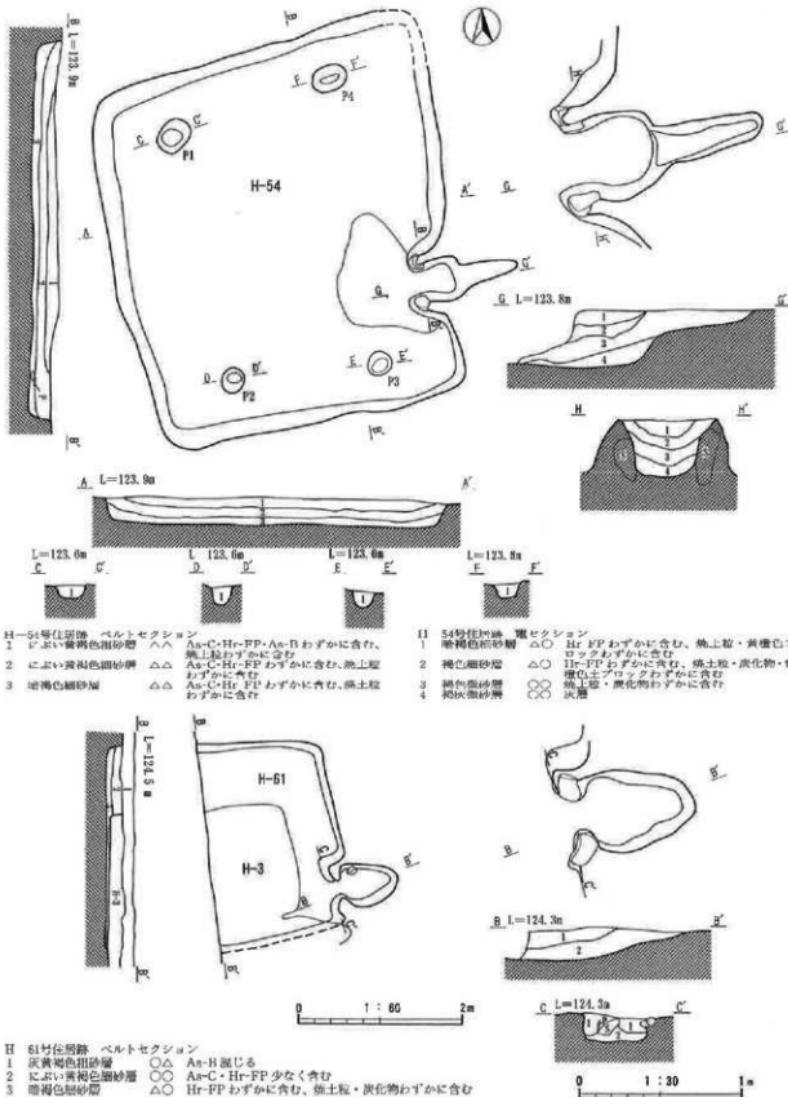


Fig.33 H-54・61号住居跡

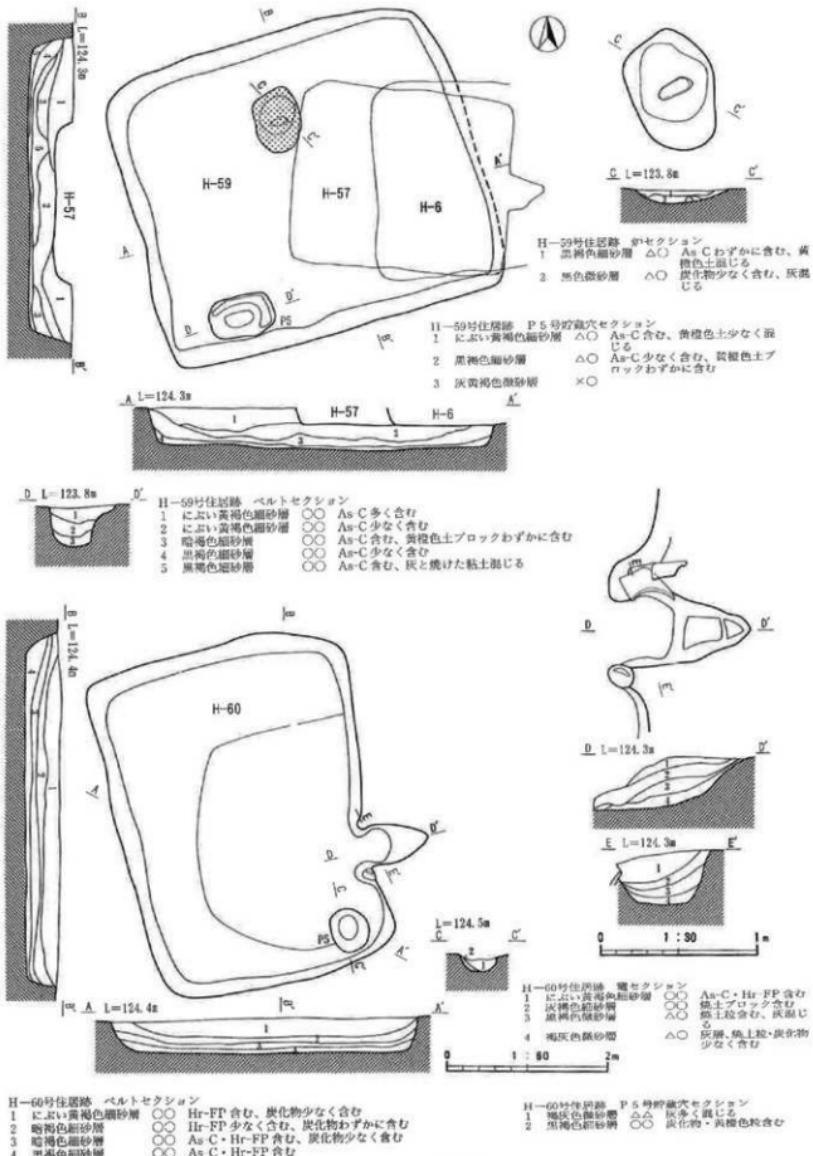


Fig.34 H-59・60号住居跡

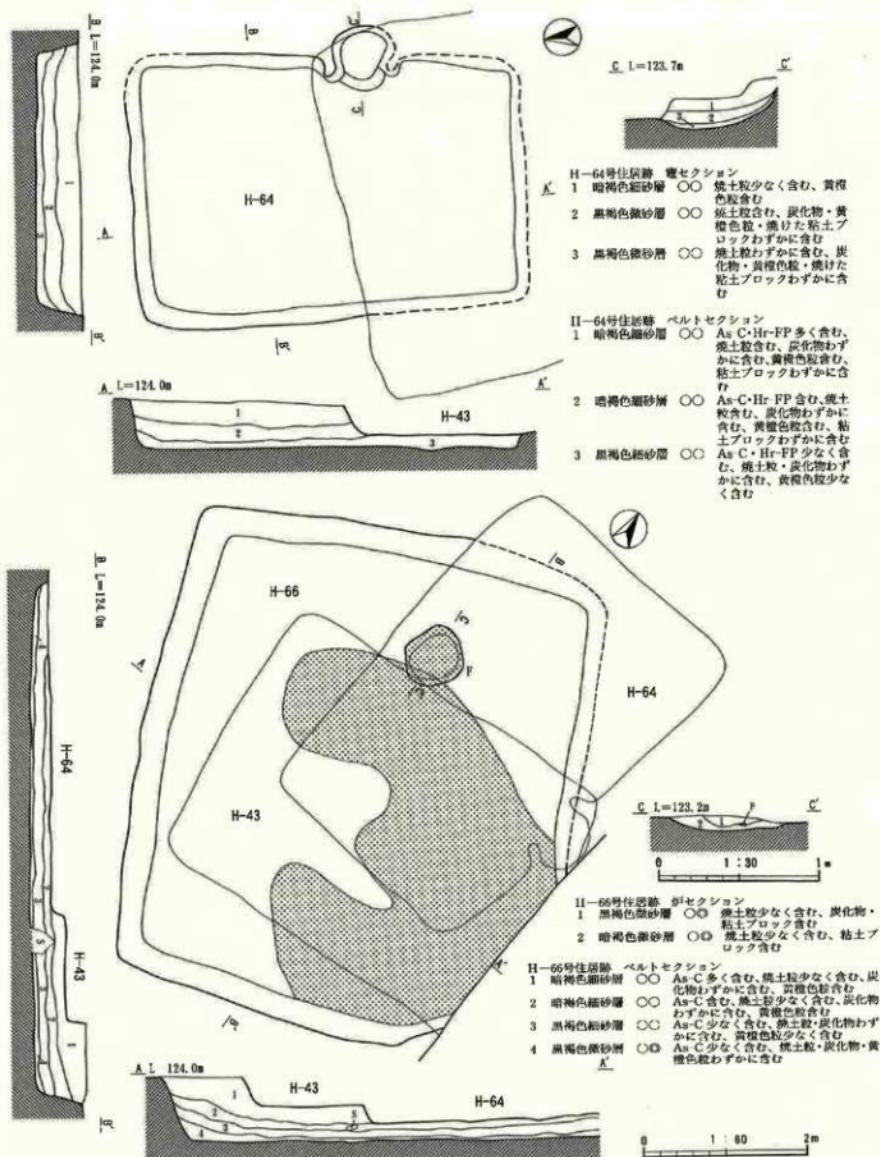


Fig.35 H-64・66号住宅跡

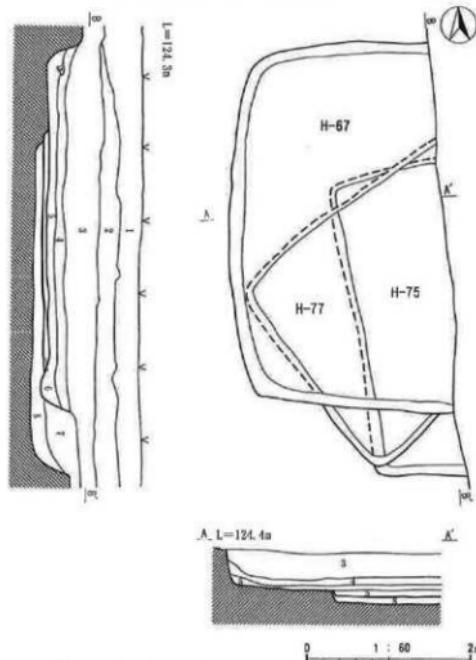
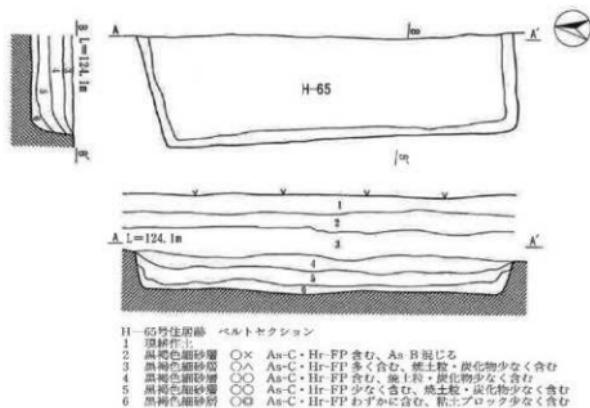
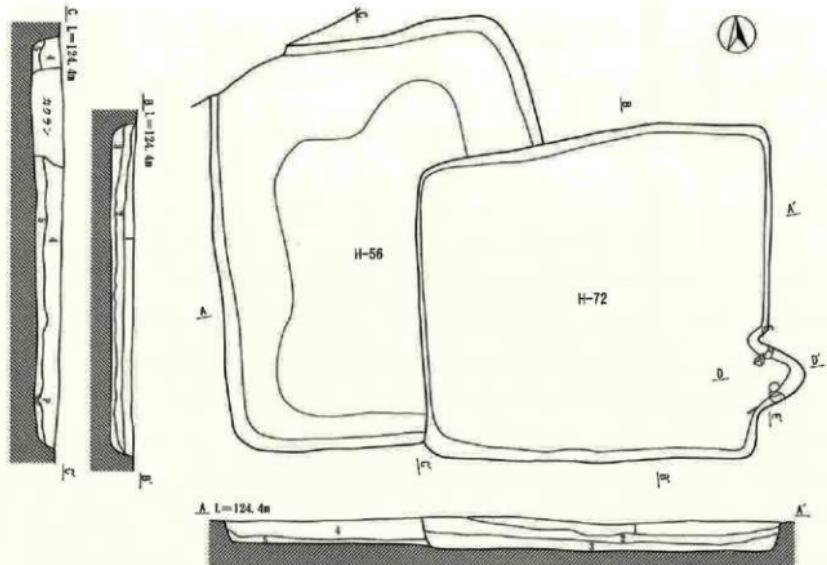


Fig.36 H-65・67・75・77号住居跡



H-56・72号住居跡 ベルトセクション

- 1 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 含む (H-72)
- 2 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 少なく含む、炭化物わずかに含む (H-72)
- 3 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP わずかに含む、炭化物わずかに含む (H-72)
- 4 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 多く含む、灰土粒・炭化物わずかに含む、黄褐色粘合む
- 5 黑褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 含む、灰土粒・炭化物わずかに含む、黄褐色粘合む

H-72号住居跡 セクション

- 1 暗褐色細砂層 ○△ As-C・Hr-FP 多く含む、灰土粒少く含む
- 2 黑褐色細砂層 ○○ Hr-FP 含む、灰土粒多く含む、炭化物わずかに含む
- 3 黑褐色細砂層 △○ As-C・Hr-FP わずかに含む、灰土粒多く含む、灰少なく含む

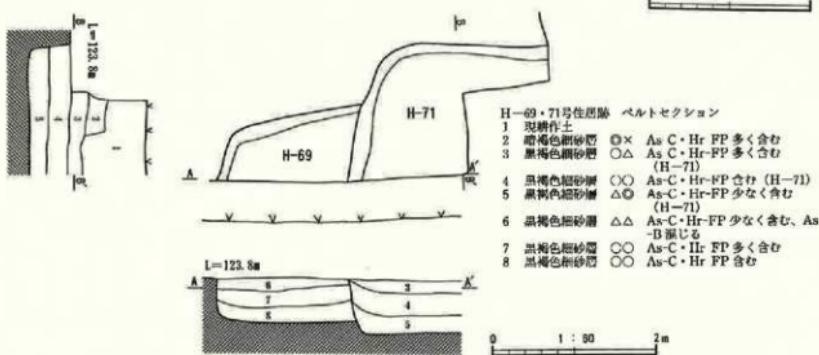
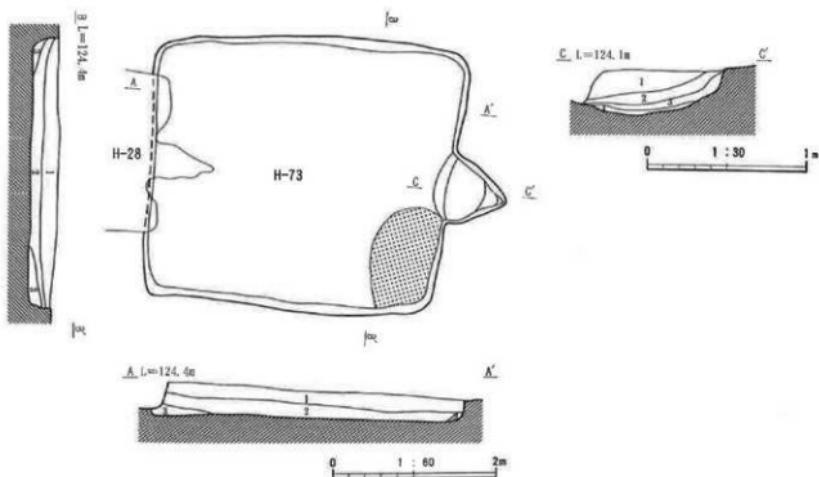
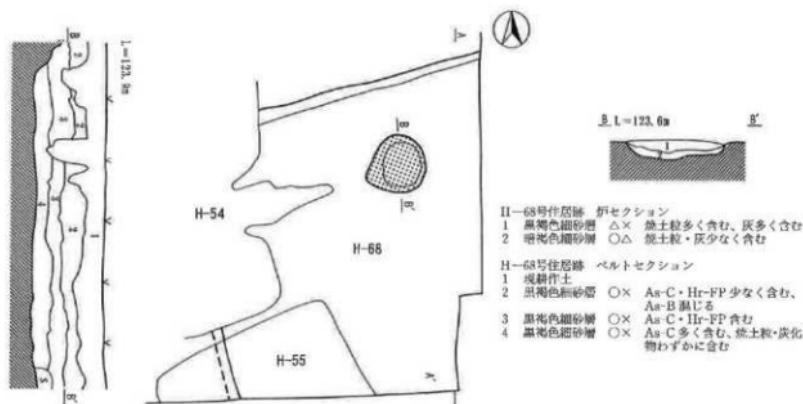


Fig.37 H-56・69・71・72号住居跡



- H-73号住居跡 ベルトセクション
- 1 黒褐色細砂層 $\bigcirc \triangle$ As-C・Hr-FP 多く含む、焼土粒含む・炭化物わずかに含む
2 黑褐色細砂層 $\bigcirc \triangle$ As-C・Hr-FP 含む、焼土粒少なく含む
3 埋褐色細砂層 $\bigcirc \bigcirc$ As-C・Hr-FP 少なく含む、焼土粒・炭化物少なく含む

Fig.38 II-68・73号住居跡

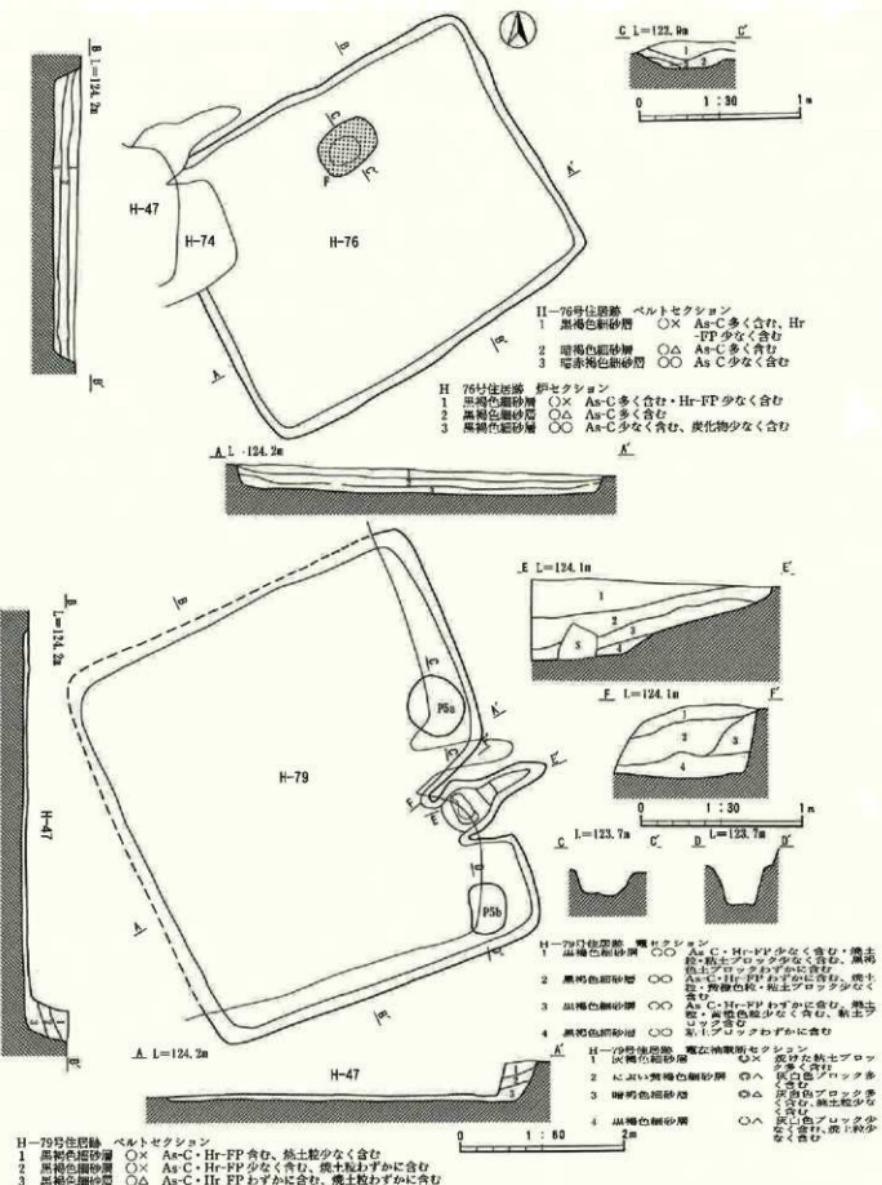


Fig.39 H-76・79号住宅跡

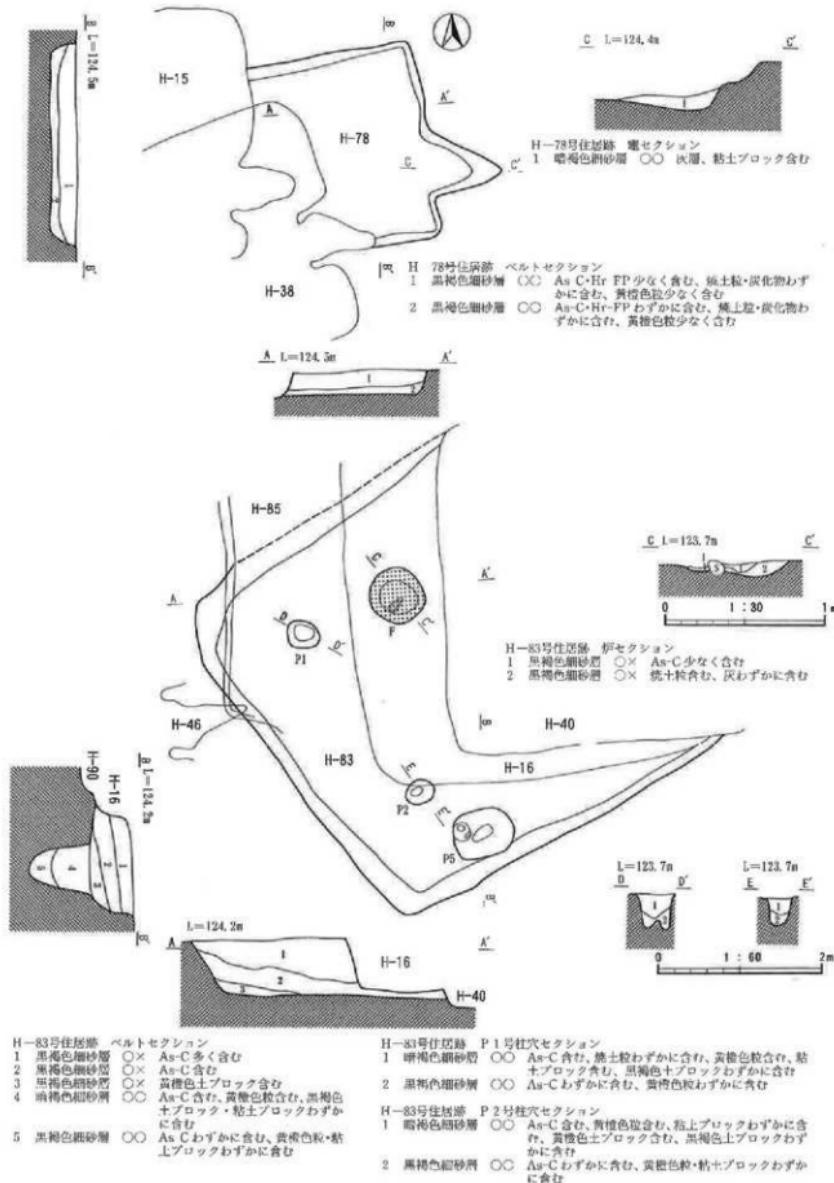


Fig.40 H-78・83号住居跡

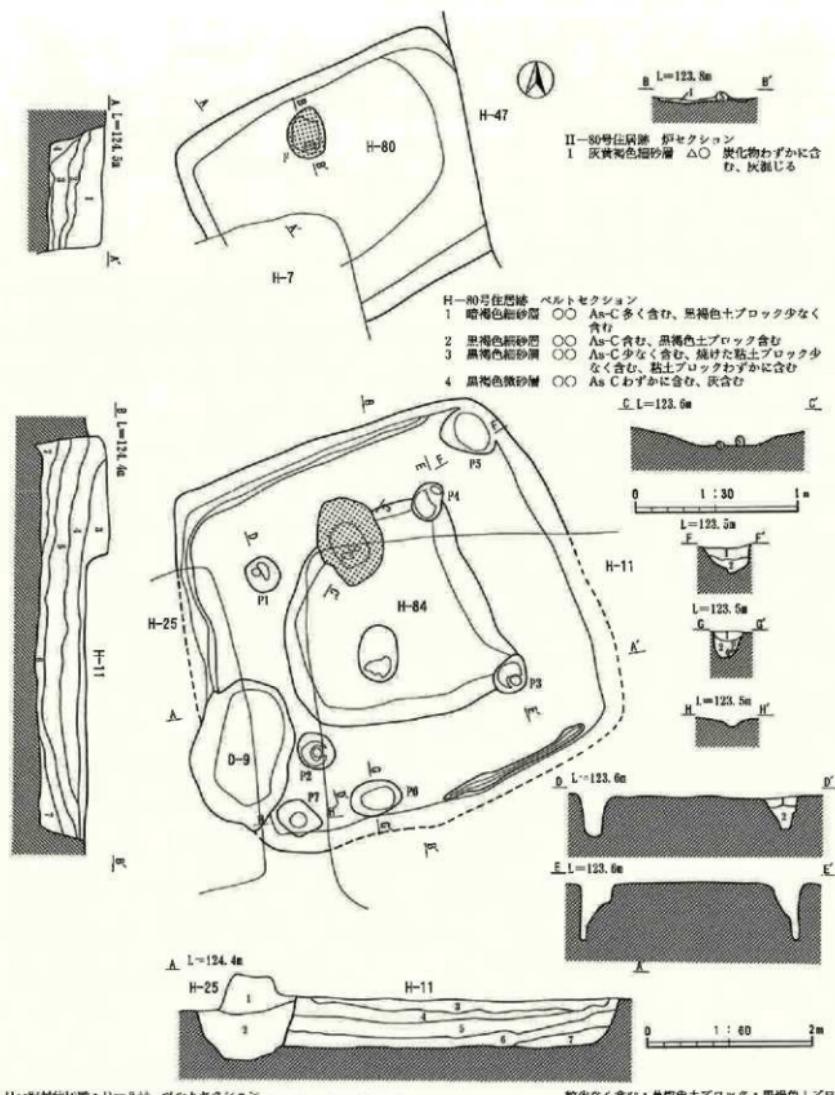


Fig.41 H-80-H-84号住居跡

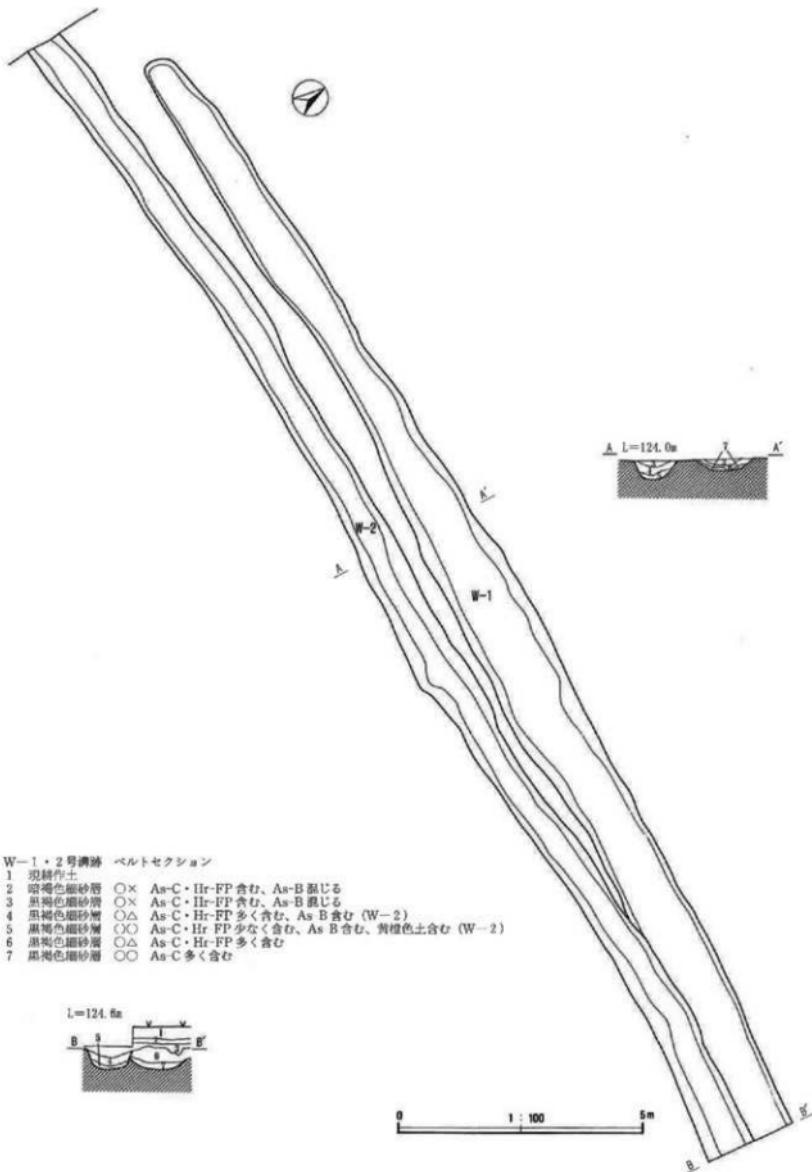


Fig.42 W-1 + 2号溝跡

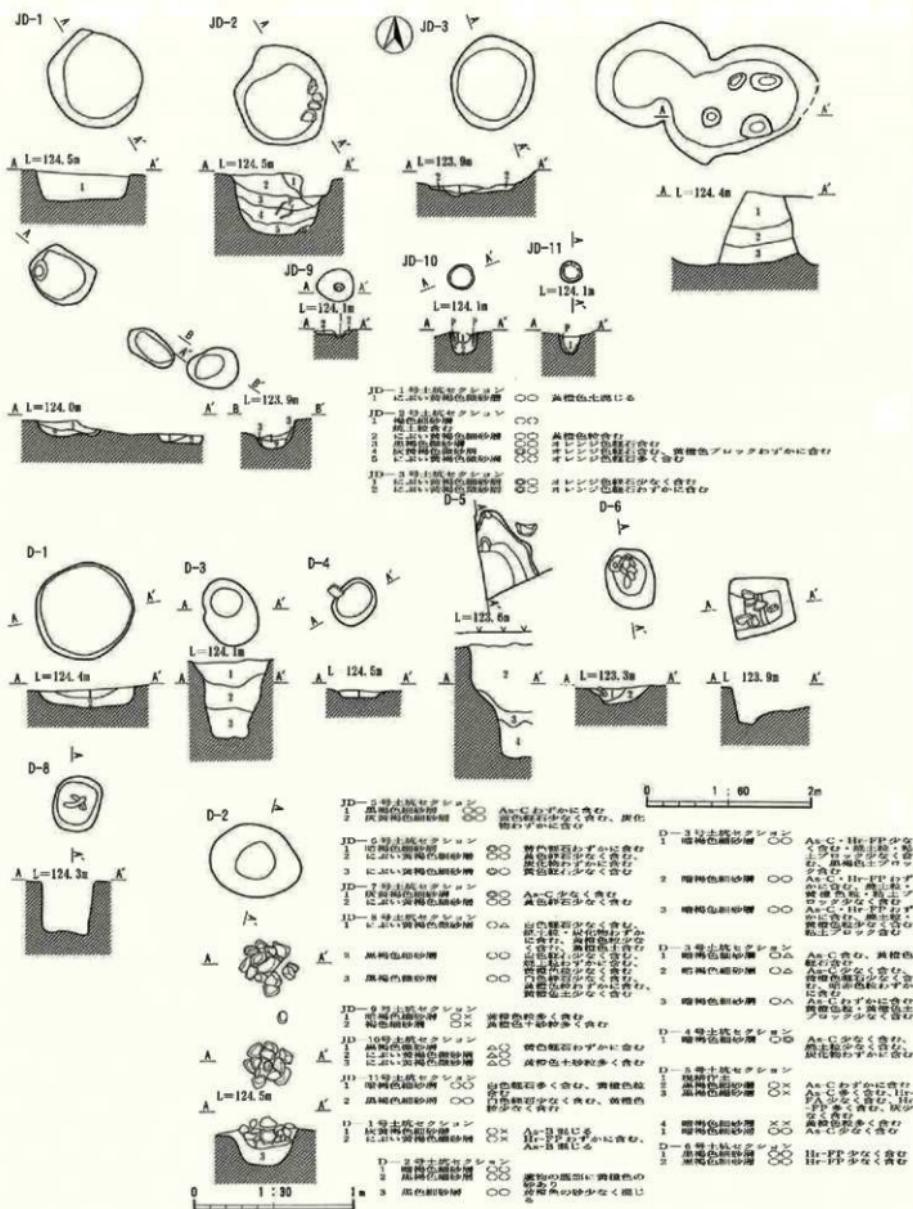


Fig.43 JD-1~11号土坑、D-1~8号土坑

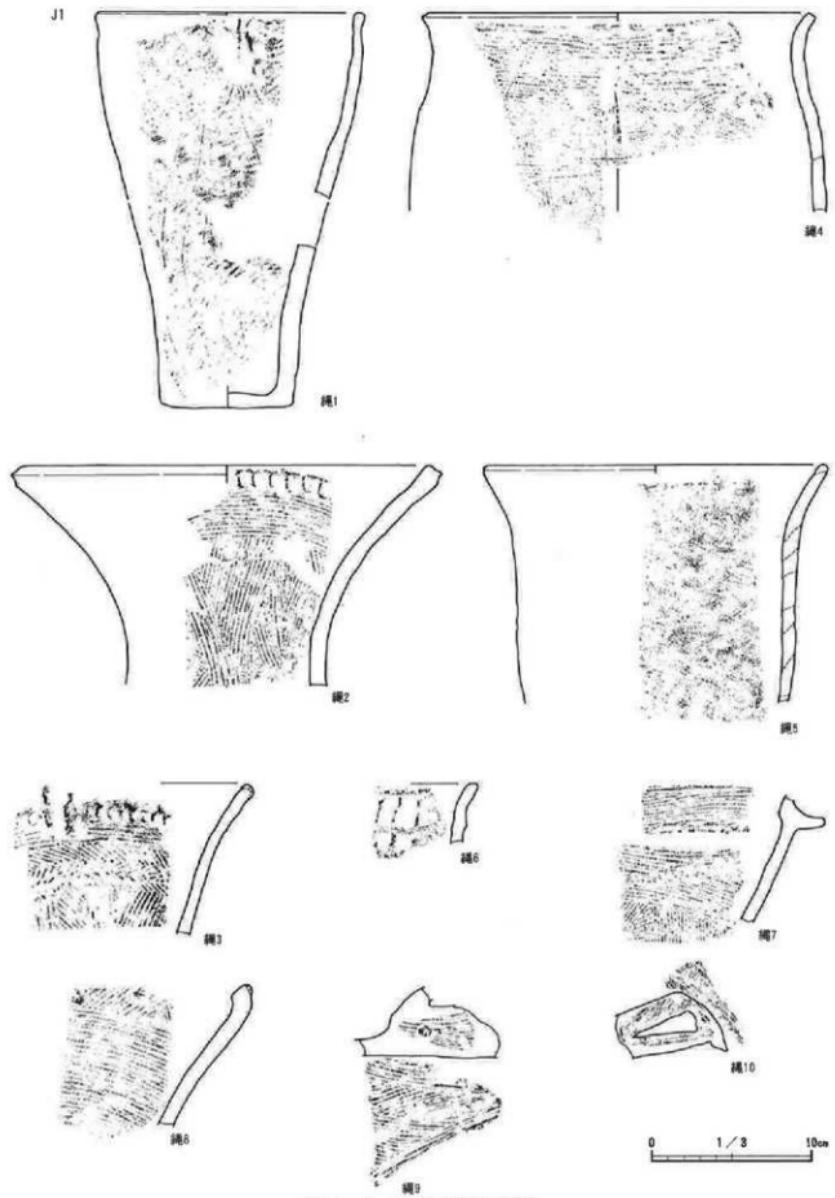
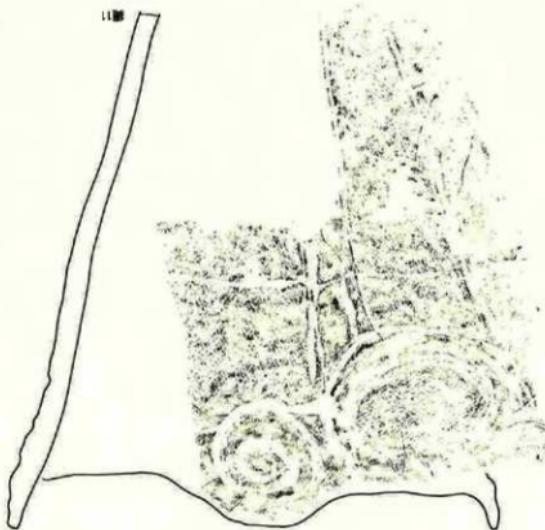
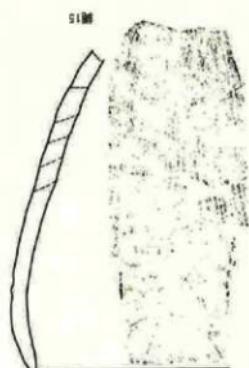
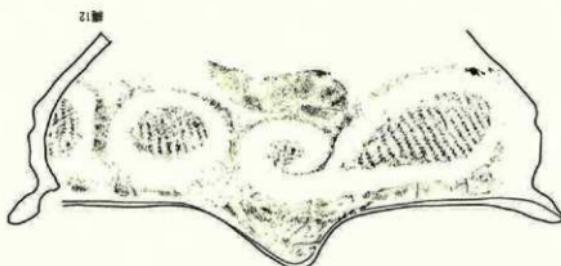
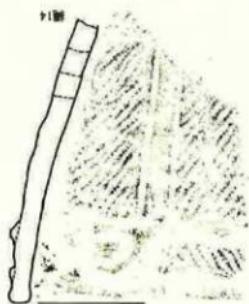
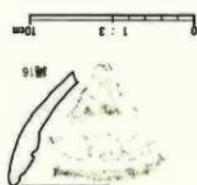
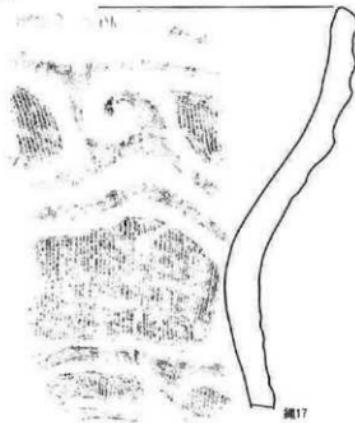


Fig.44 J-1号住居跡出土の遺物

Fig. 45 J-1-2号住居出土の遺物



JD-1



JD-5

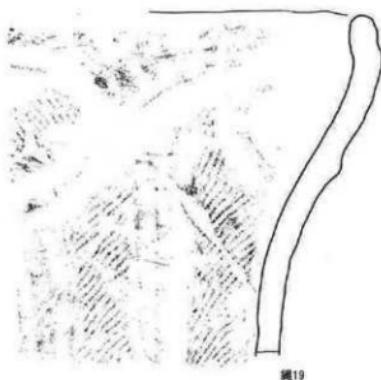


図17

図19

JD-2

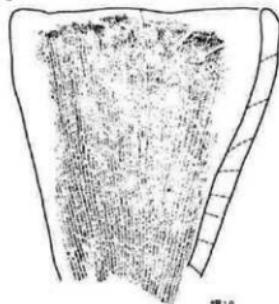


図18

JD-11

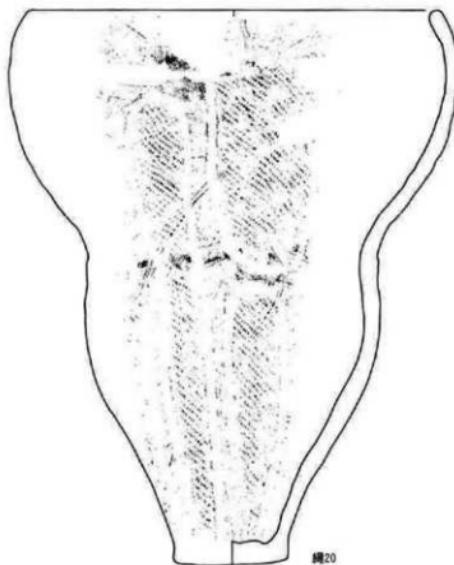


図20

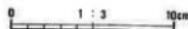


Fig.46 JD-1・2・5・11号土坑出土の遺物

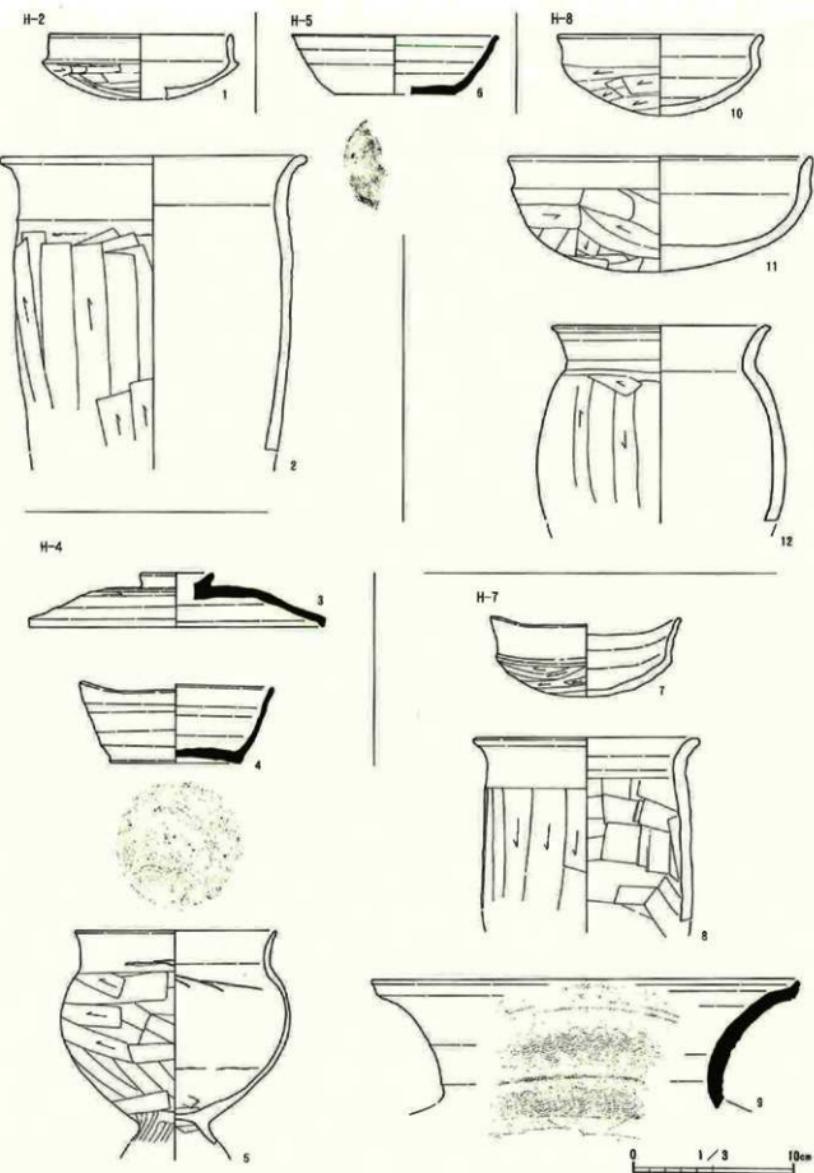


Fig.47 H—2・4・5・7・8号住居跡出土の遺物

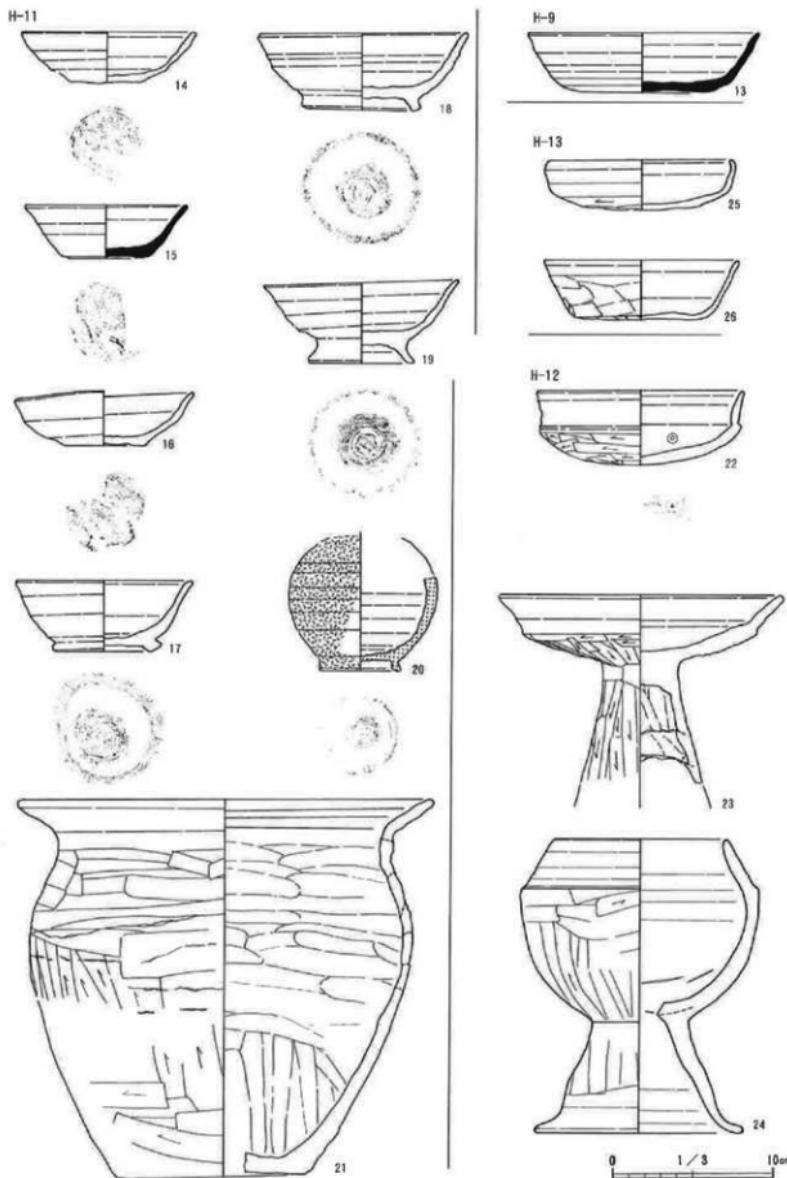
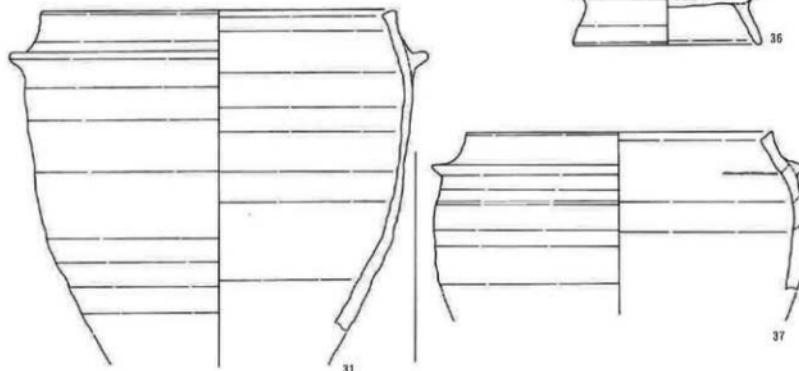
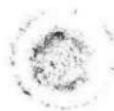


Fig.48 H-9・11～13号住居跡出土の遺物

H-14



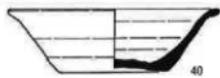
H-15



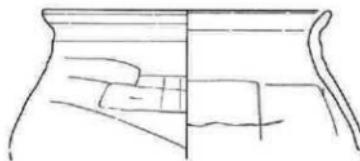
0 1 / 3 10cm

Fig.49 H-14・15号住居跡出土の遺物

H-17



40

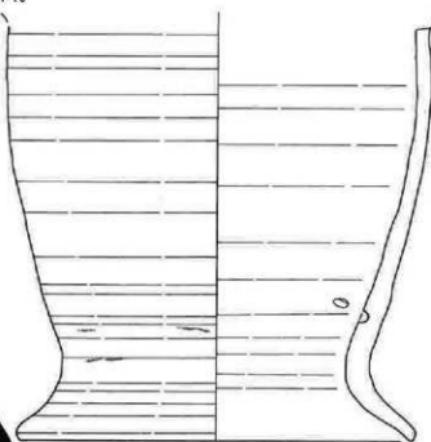


42

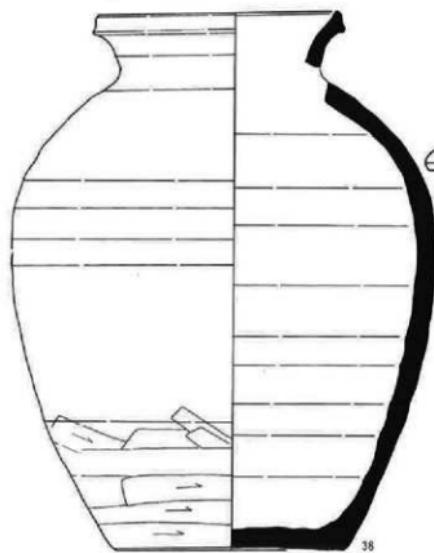


41

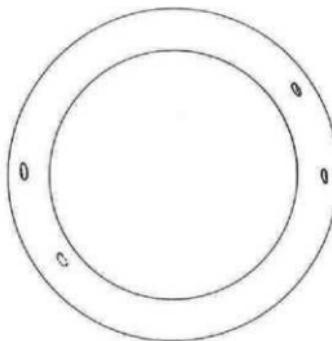
H-15



35



35



0 1 / 3 10cm

Fig.50 H-15・17号居跡出土の遺物



Fig.51 H-18~21号住居跡出土の遺物

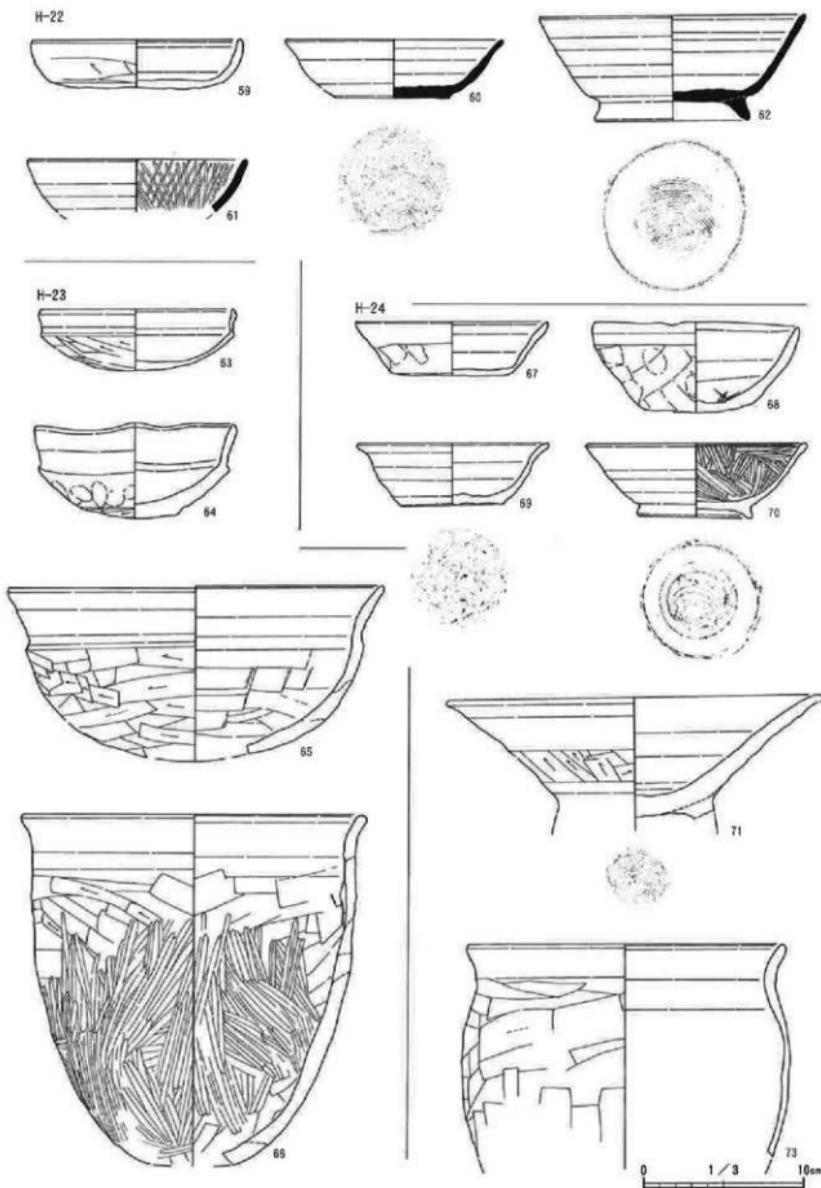
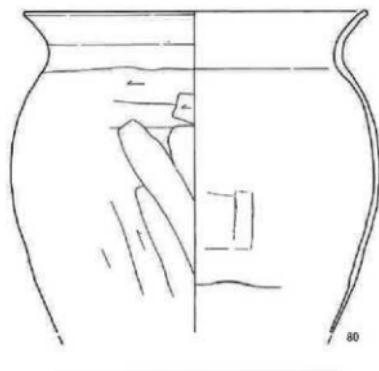
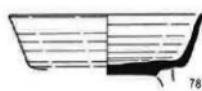
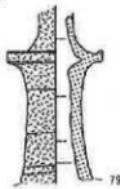
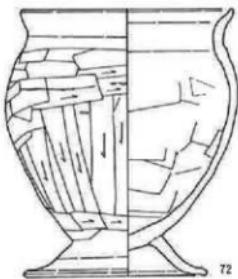
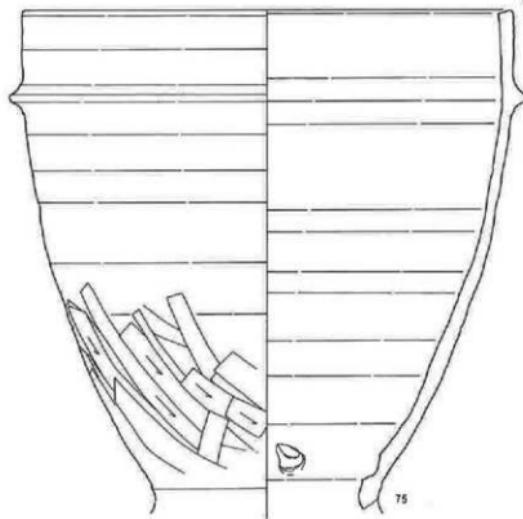
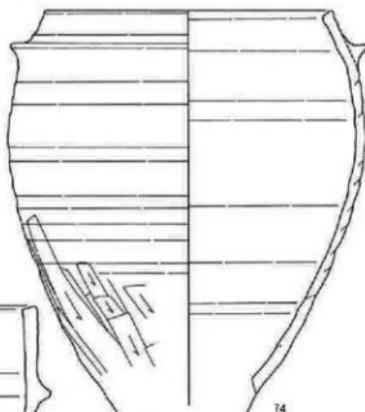


Fig.52 H—22～24の住居跡出土の遺物

H-25



H-24



0 1 / 3 10cm

Fig.53 II-24・25号住居跡出土の遺物

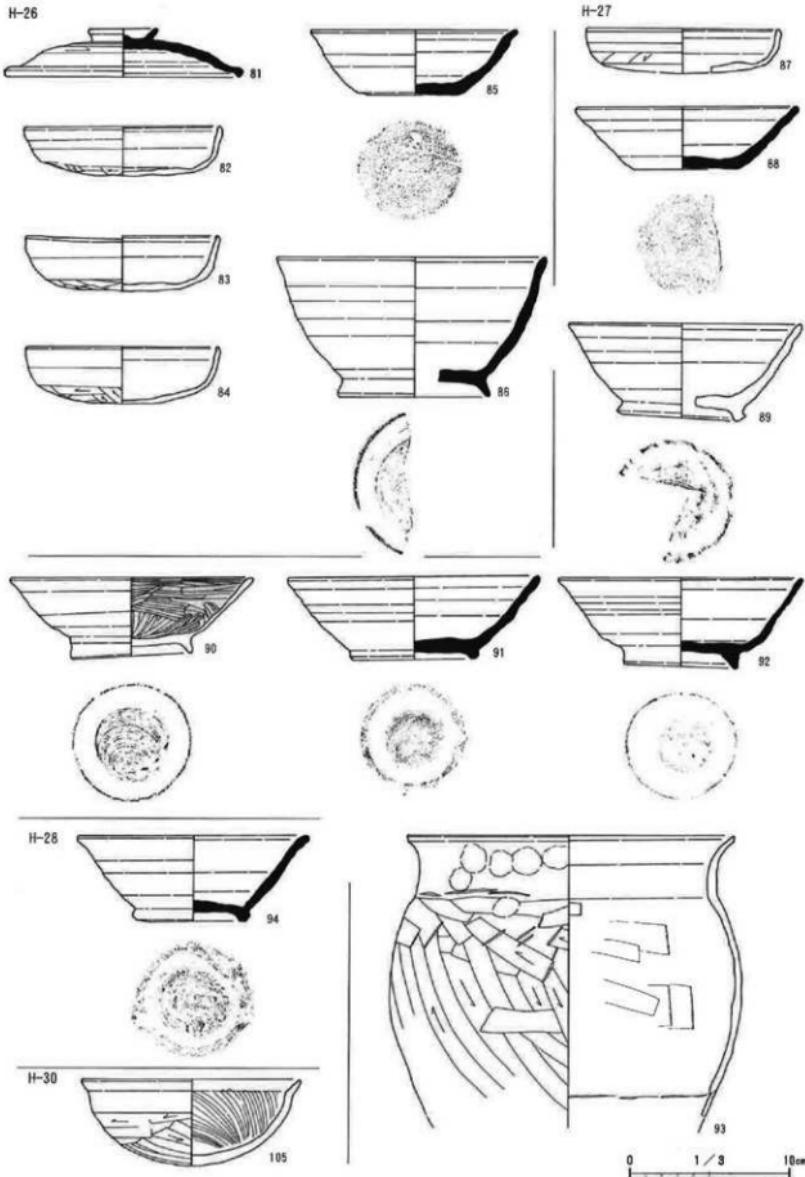
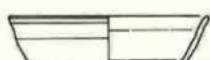


Fig.54 H-26~28・30号住居跡出土の遺物

H-29



95



99



96



100



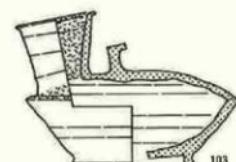
97



98

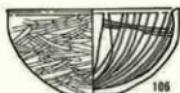


101



103

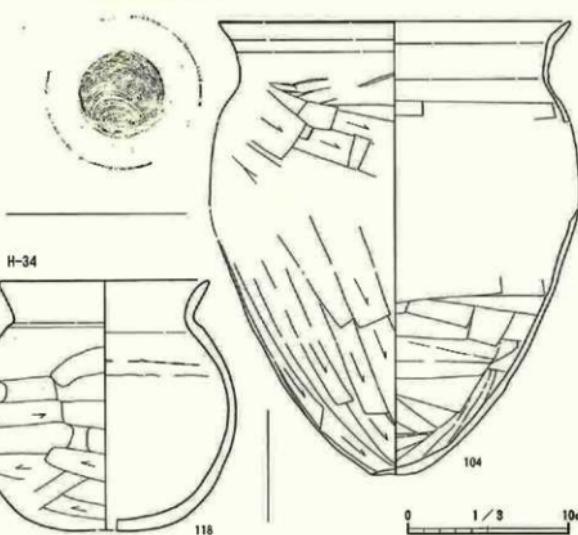
H-31



105



107



104

Fig.55 H—29・31・34号住居跡出土の遺物

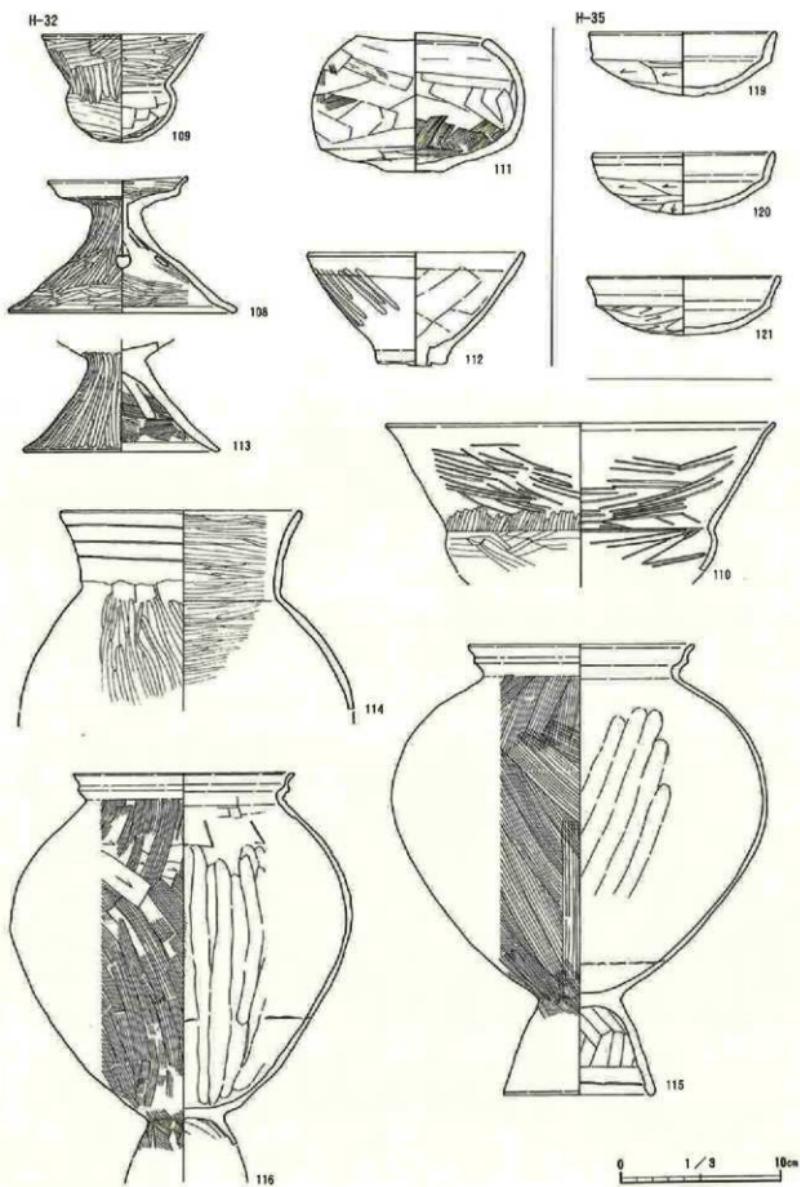


Fig.56 H-32・35号住居跡出土の遺物

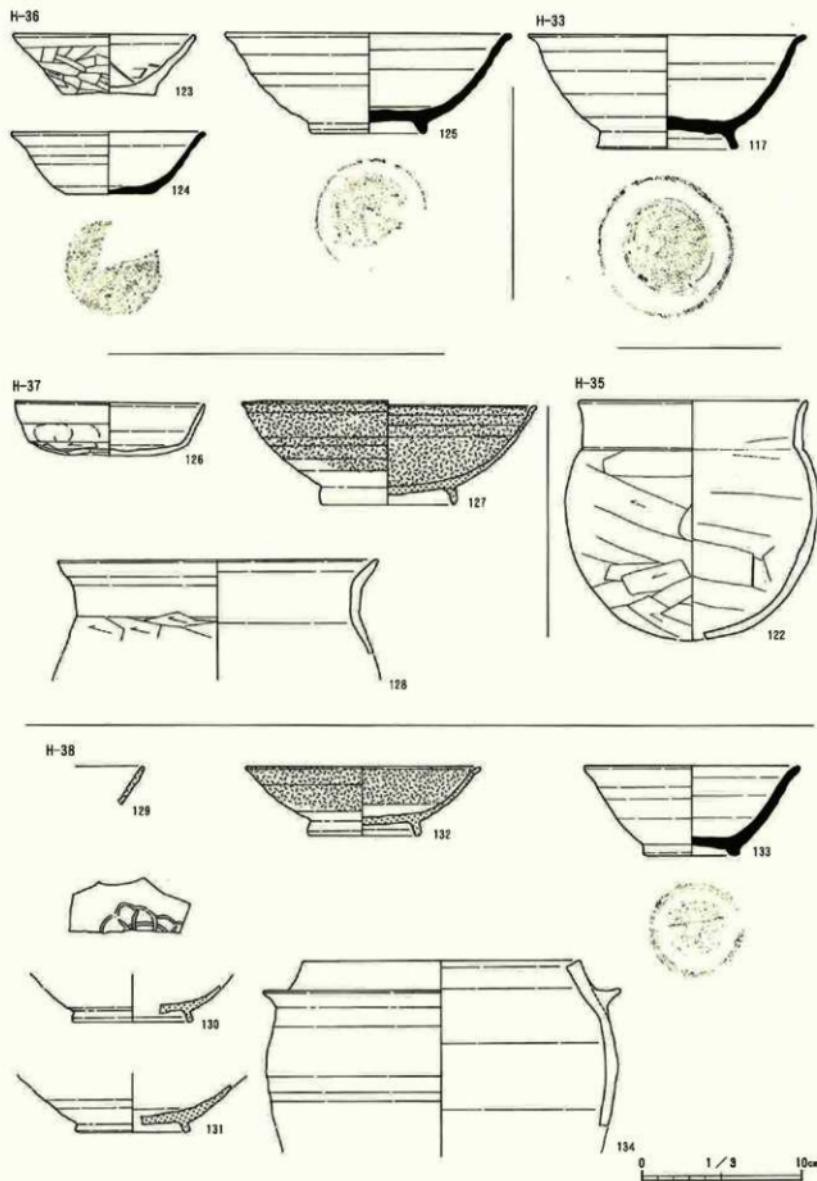


Fig.57 II-33・35~38号住居跡出土の遺物

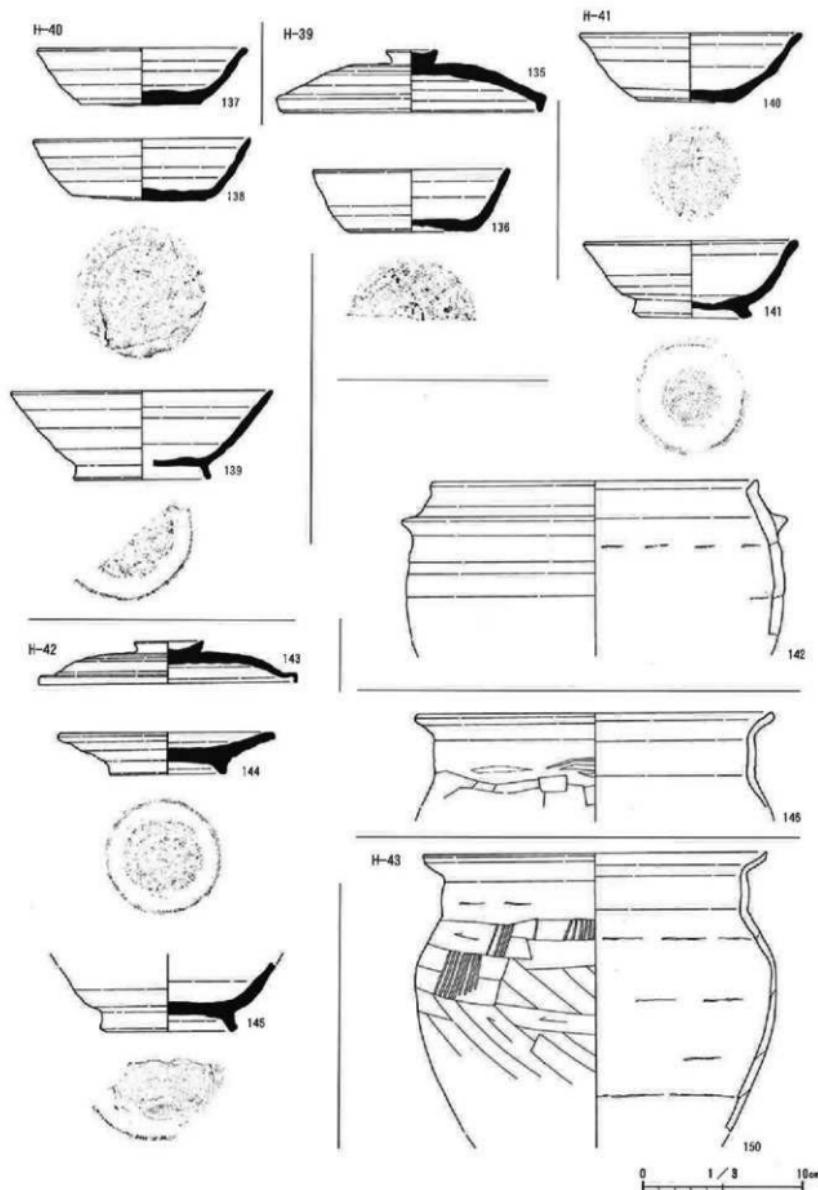


Fig.58 H-39～43号住居跡出土の遺物

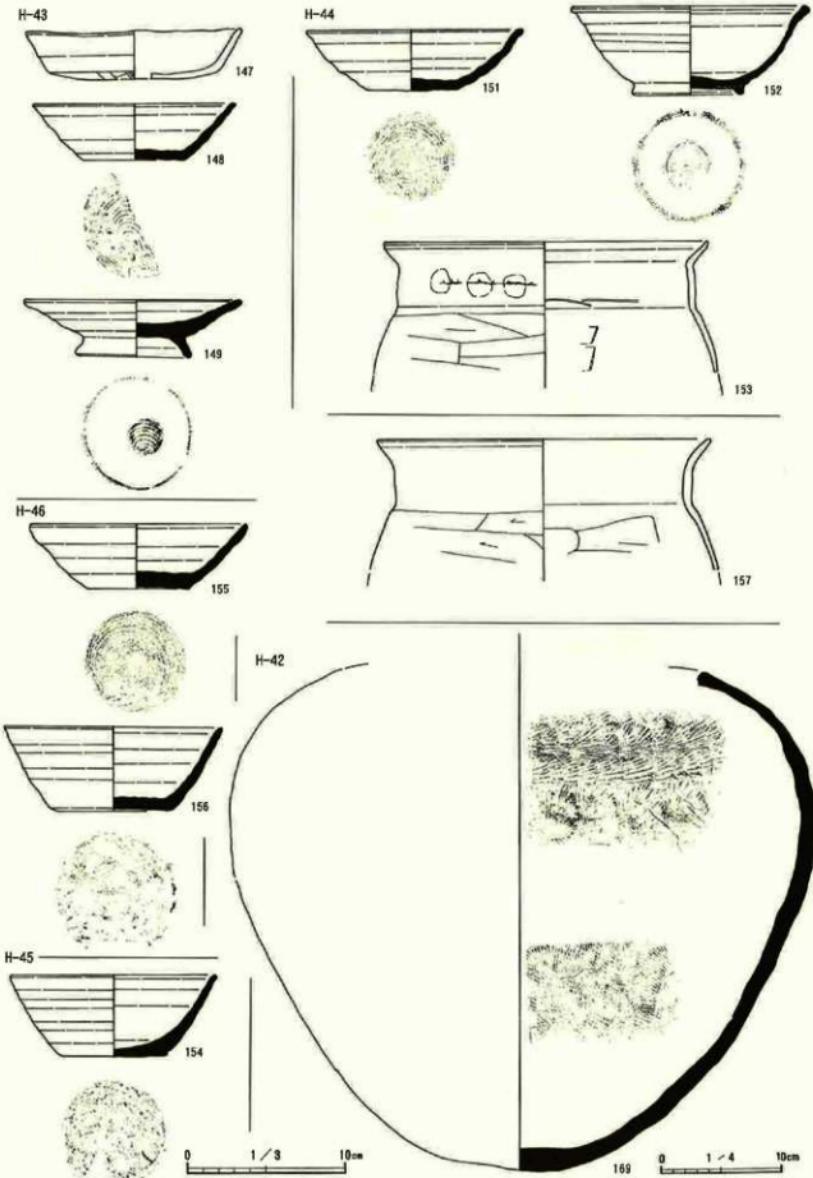
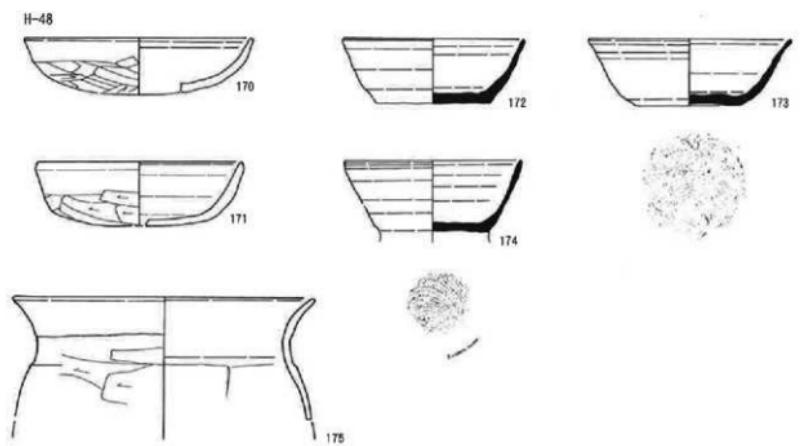
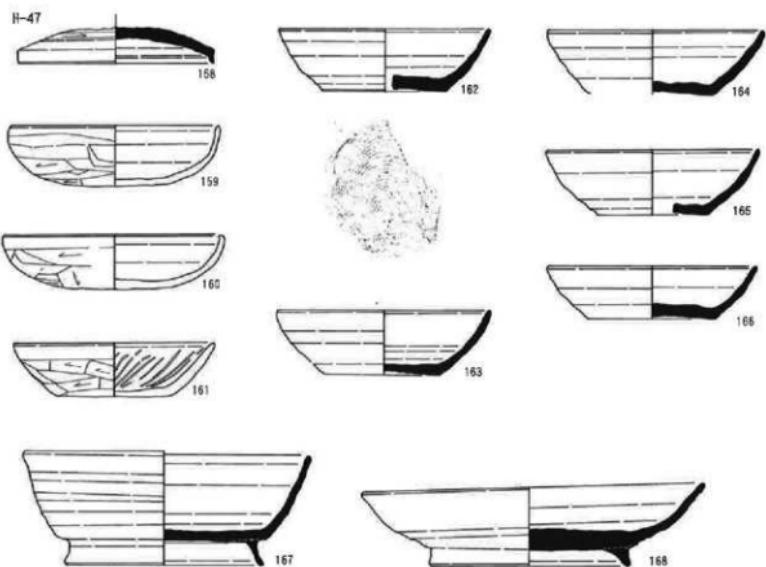


Fig.59 II-43~47号住居跡出土の遺物



0 1 / 3 10cm

Fig.60 H-47・48号住居跡出土の遺物

H-49



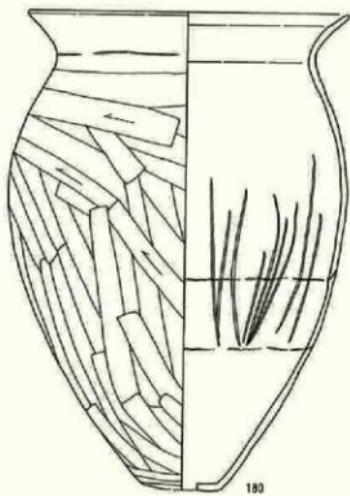
177



179

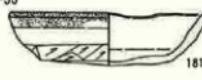


178



180

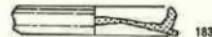
H-50



181



182

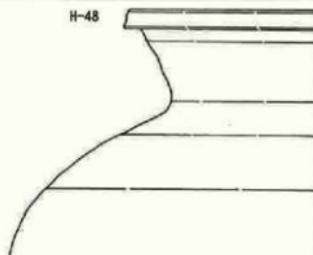


183



184

H-48



176

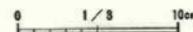


Fig.61 H-48~50号住居跡出土の遺物

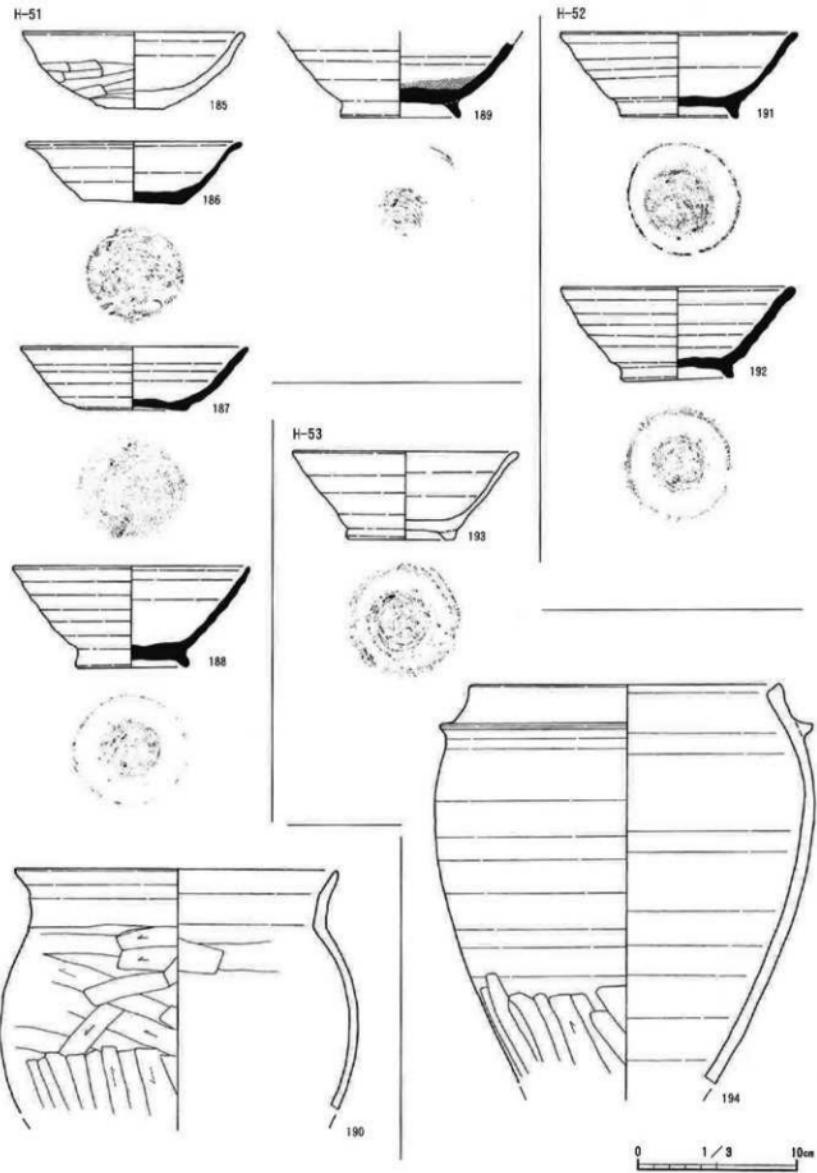


Fig.62 H-51~53号住居跡出土の遺物

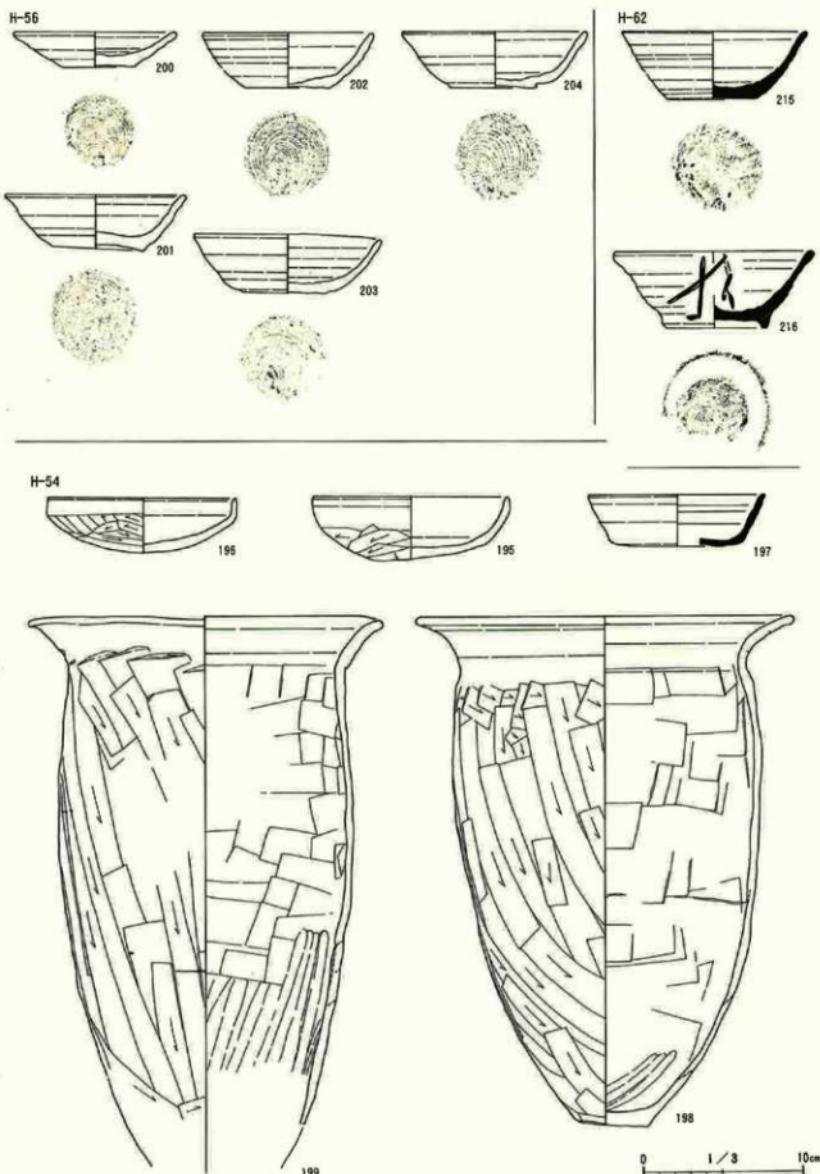
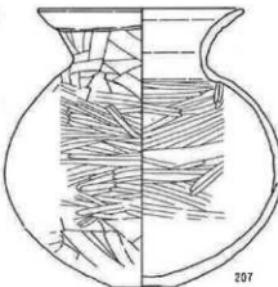
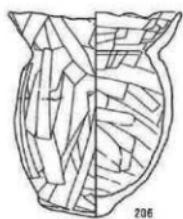


Fig.53 H-54・56・62号住居跡出土の遺物

H-59



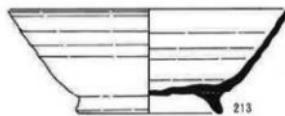
H-60



208



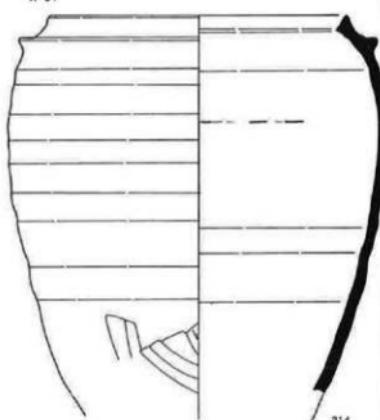
209



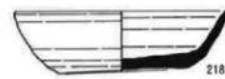
213



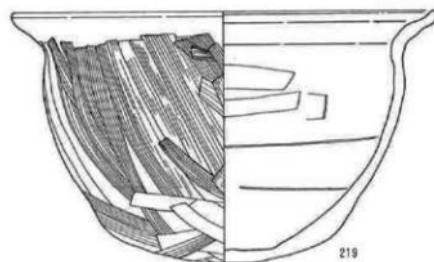
H-61



H-64



217 218



219

0 1/3 10cm

Fig.64 H-59~61・64号住居跡出土の遺物

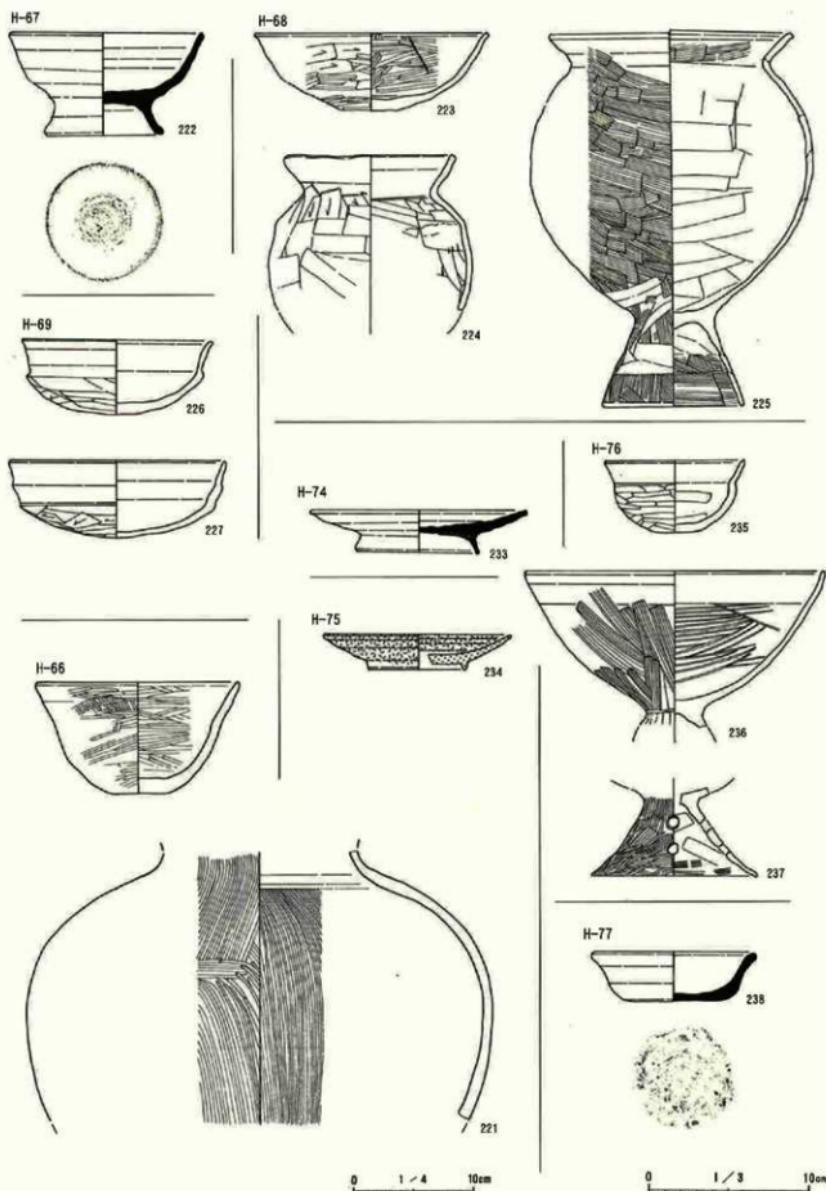
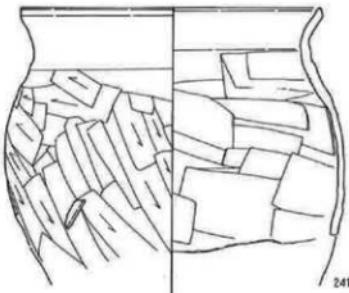
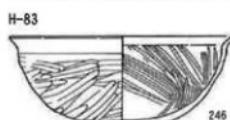
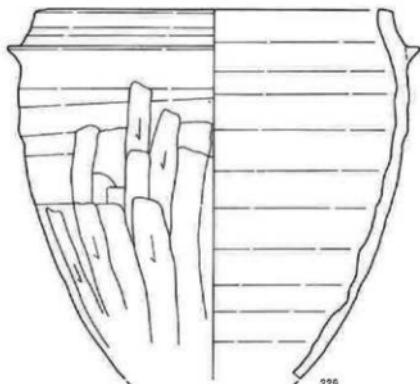
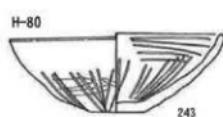
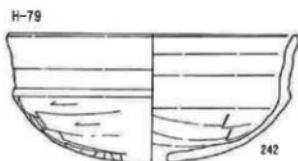
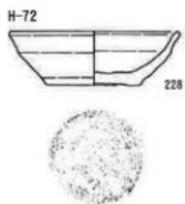


Fig.65 H-66~69・74~77号住居跡出土の遺物



0 1 / 3 10cm

Fig.66 H-72・78～80・82・83号住居跡出土の遺物

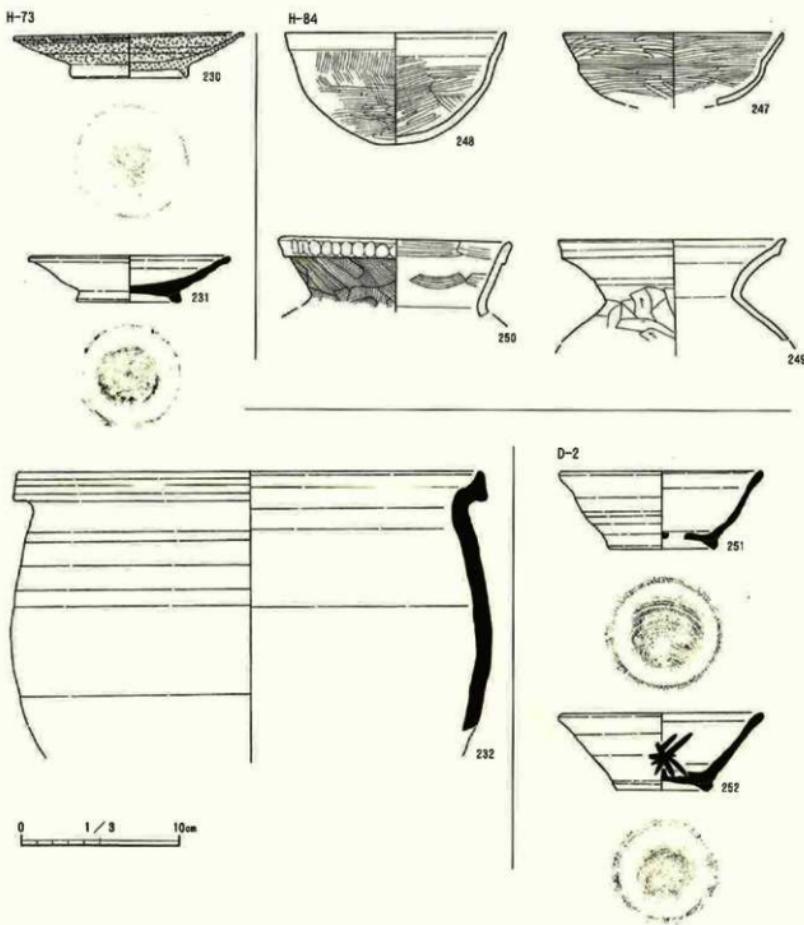
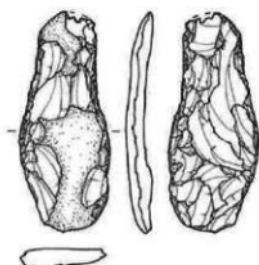
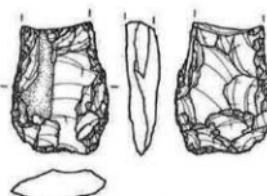


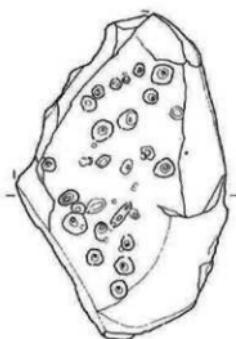
Fig.67 H-73・84号住居跡、D-2号土坑出土の遺物



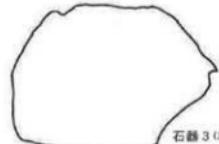
石器 1 (a-d)



石器 2 (e-f)



石器 3 (g-i)



石器 9 (b-d)

0 1 / 3 10cm

0 1 / 6 20cm

Fig.68 石器・石製品

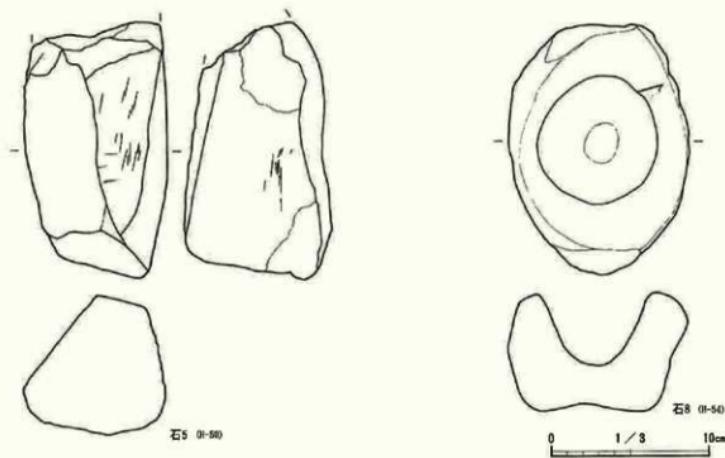
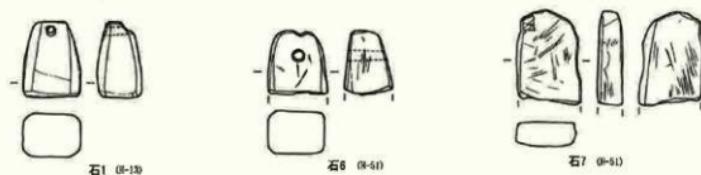
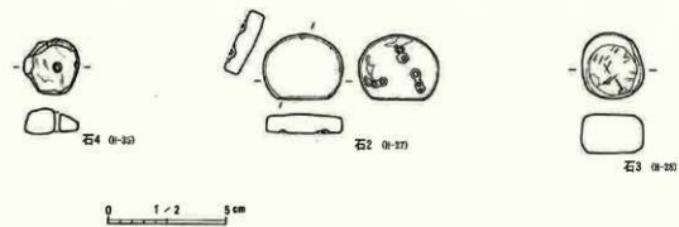


Fig.69 石製品・土製品

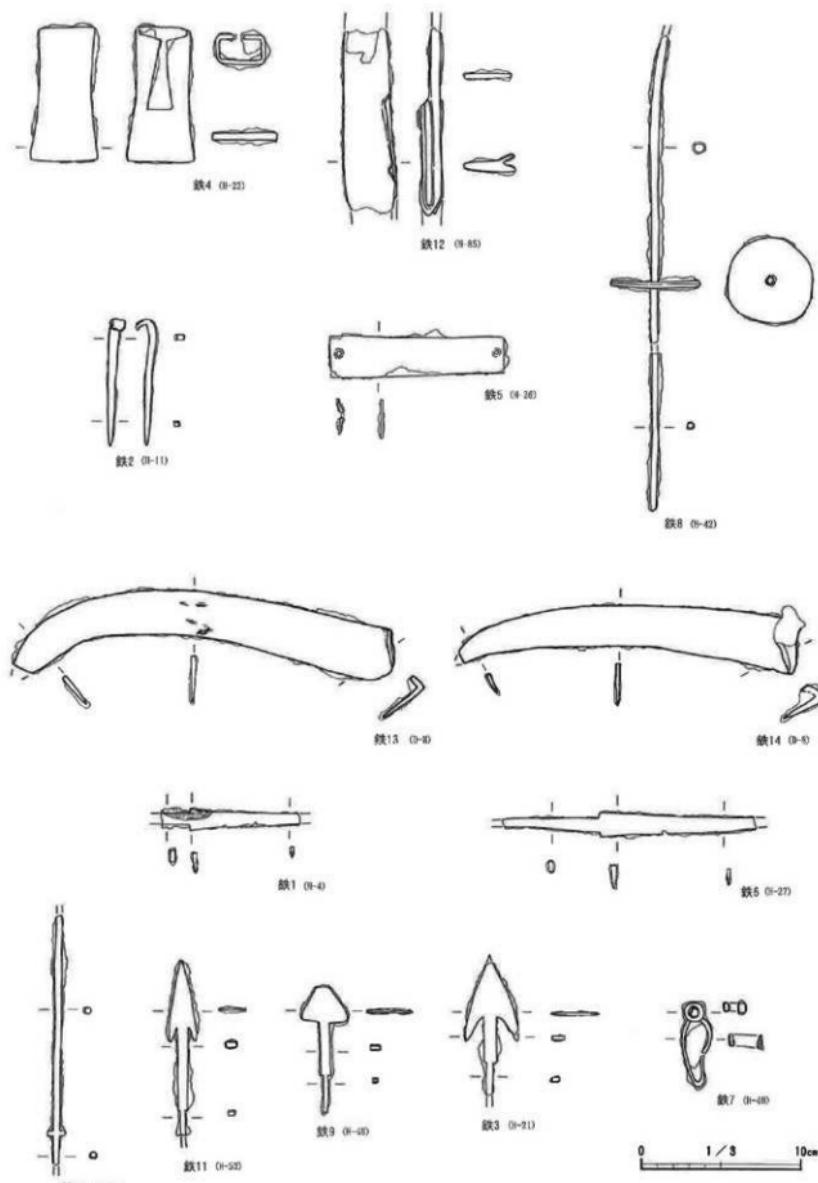


Fig.70 鉄器・鉄製品



II1



II3



II2



II7



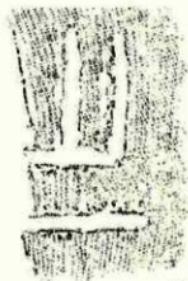
II8



II14



II16



II17



II18



II19

0 1 2 5 cm

Fig.71 II(1)



图20



图21



图23



图24



图25



图27



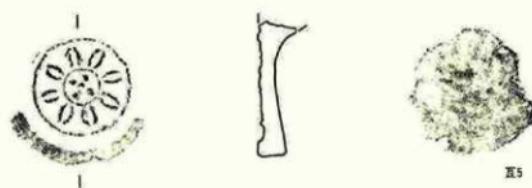
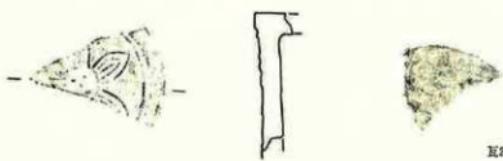
图28



图29

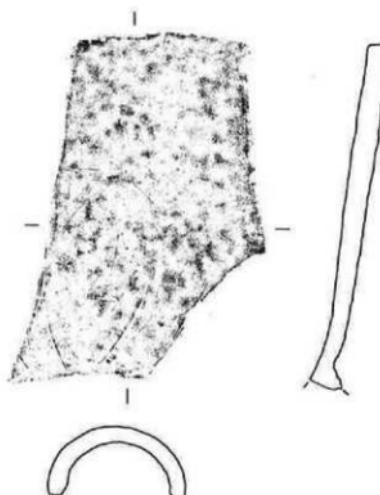
0 1 2 5 cm

Fig.72 图(2)

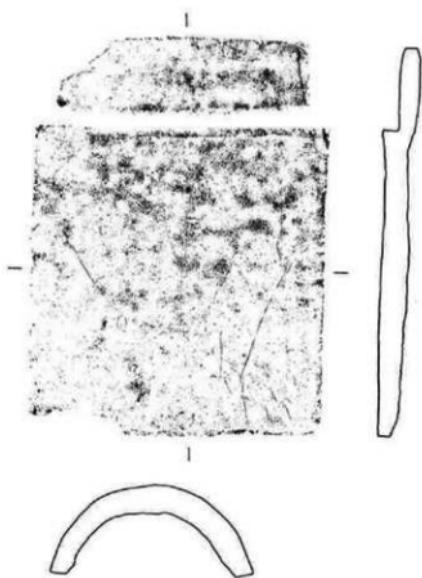


0 1 - 4 10cm

Fig.73 R(3)



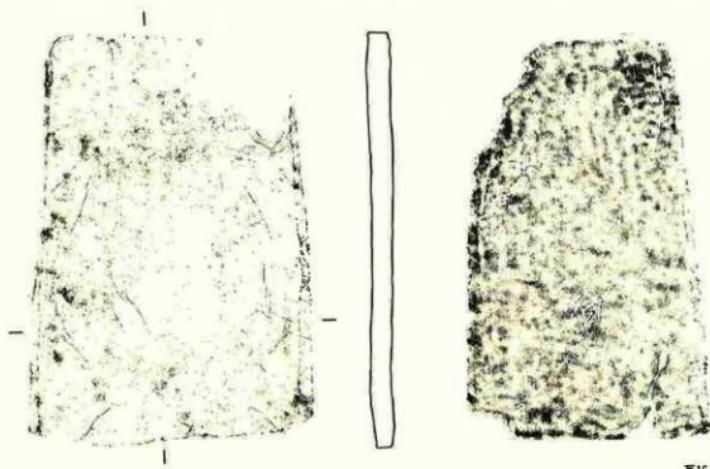
III



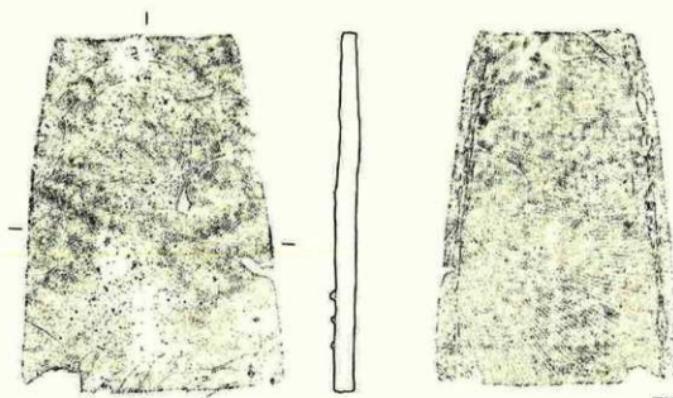
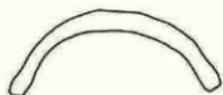
II

0 1 4 10cm

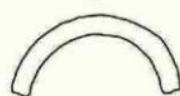
Fig.74 II(4)



II16



II25



0 1 4 10cm

Fig.75 II(5)

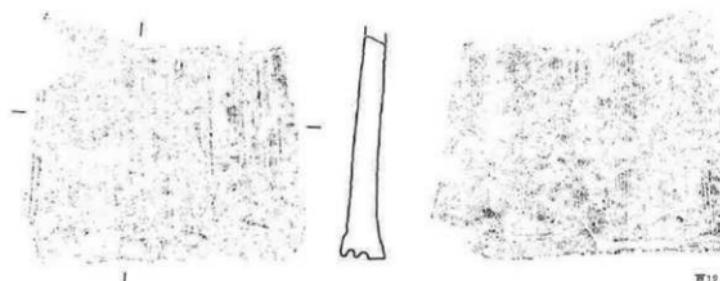


图12

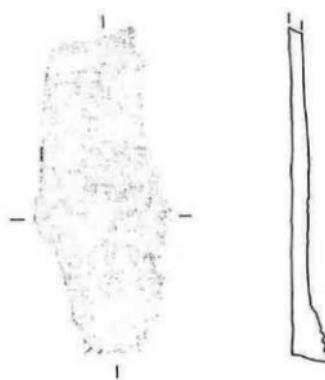
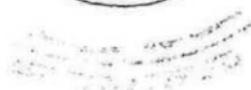


图13



0 1 4 10cm

Fig.76 E(6)

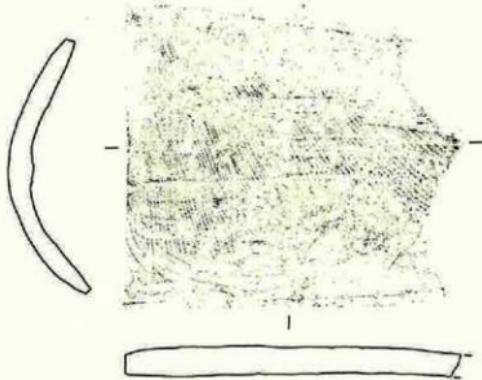


Fig. 77. *KC7*

0
1 / 4 mm

Fig. 75



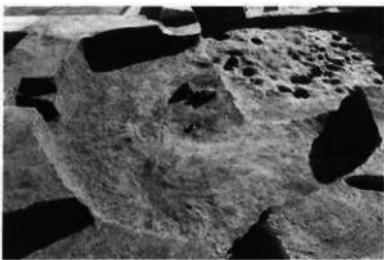
調査区全景（北から）



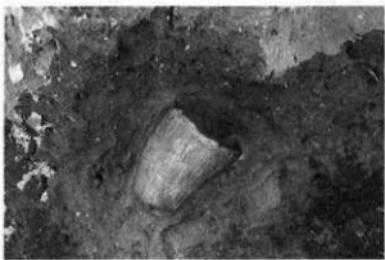
J-1号住居跡全景（南から）



J-1号住居跡埋設土器セクション（南から）



J-2号住居跡全景（北から）



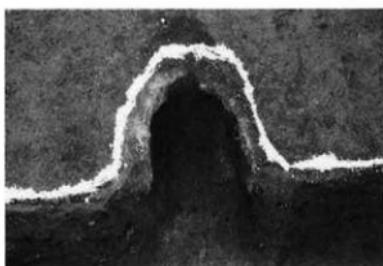
JD-2号土坑遺物出土状況



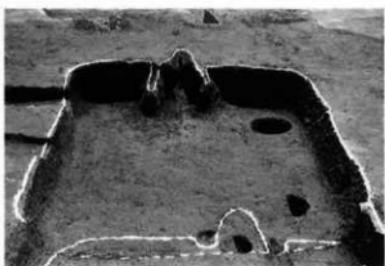
H-6、9、57、59号住居跡全景（西から）



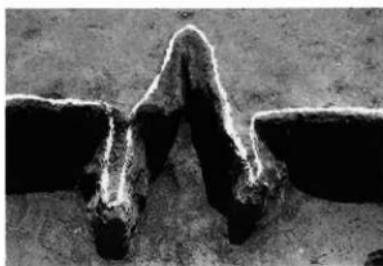
H-6号住居跡全景（西から）



H-6号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



H-7号住居跡全景 (西から)



H-7号住居跡竪窓全景 (西から)



H-8号住居跡全景 (西から)



H-8号住居跡竪窓全景 (西から)



H-15号住居跡全景 (西から)



H-15号住居跡竪窓全景 (西から)



H-15号住居跡遺物出土状況① (西から)



H-15号住居跡遺物出土状況② (北から)



調査区北中央部住居跡複状況（北から）



H-21号住居跡全景（西から）



H-21号住居跡全景（西から）



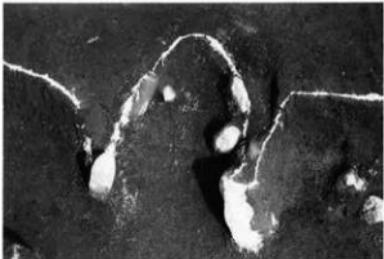
H-23号住居跡全景（西から）



H-23号住居跡全景（西から）



H-24号住居跡全景（西から）



H-24号住居跡遺全量（西から）



H-25号住居跡全景（南から）



H-25号住居跡遺全量（南から）



H-28号住居跡全景（西から）



H-28号住居跡遺全量（西から）



H-29号住居跡全景（西から）



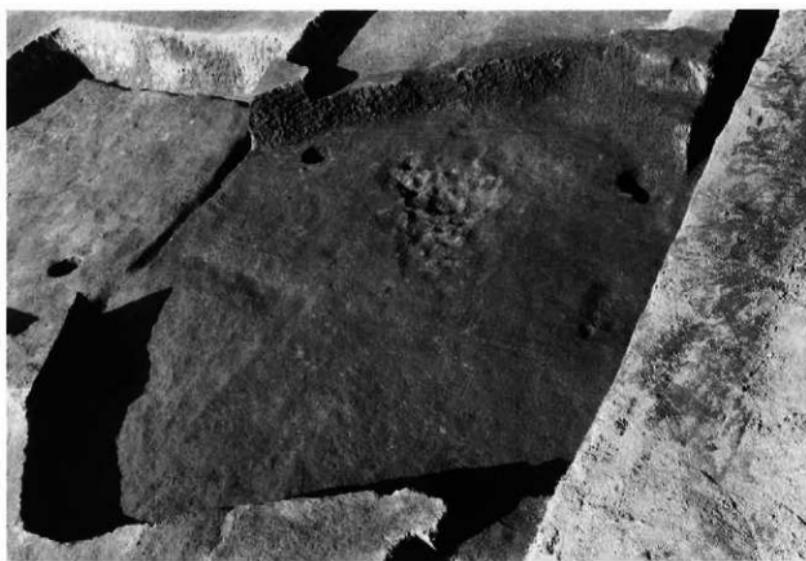
H-29号住居跡遺全量（西から）



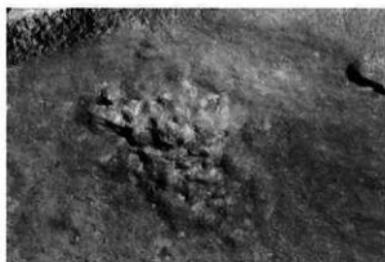
H-32号住居跡遺物出土状況①（西から）



H-32号住居跡遺物出土状況②（東から）



H-32号住居跡全景（南から）



H-32号住居跡全景（南から）



H-32号住居跡遺物出土状況③（南から）



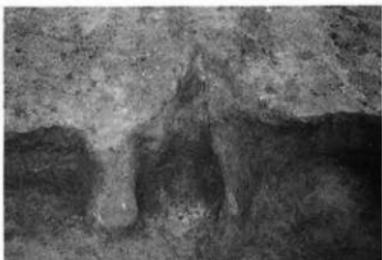
H-33号住居跡全景 (西から)



H-33号住居跡遺全景 (西から)



H-38号住居跡全景 (西から)



H-38号住居跡遺全景 (西から)



H-40号住居跡全景 (西から)



H-40号住居跡遺全景 (西から)



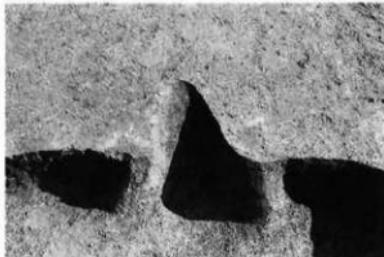
H-40号住居跡遺物出土状況① (南から)



H-40号住居跡遺物川上块穴② (西から)



H-42号住居跡全景（西から）



H-42号住居跡全景（西から）



H-45号住居跡全景（西から）



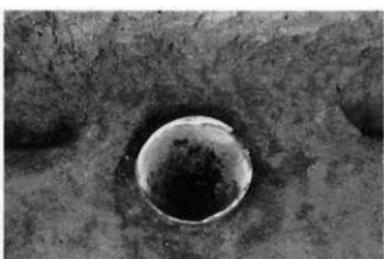
H-45号住居跡全景（西から）



H-47号住居跡全景（西から）



H-47号住居跡全景（西から）



H-47号住居跡P 5号貯蔵穴全景（北から）



H-47号住居跡出土状況（西から）



H-49号住居跡全景 (西から)



H-49号住居跡遺全景 (西から)



H-50号住居跡全景 (西から)



H-50号住居跡遺全景 (西から)



H-51号住居跡全景 (西から)



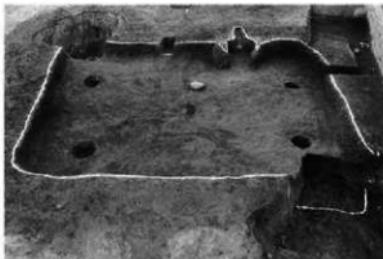
H-51号住居跡遺全景 (西から)



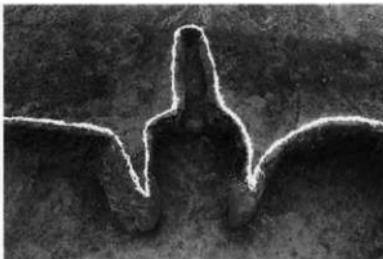
H-52号、53号住居跡全景 (西から)



H-52号住居跡遺全景 (西から)



H-54号住居跡全景（西から）



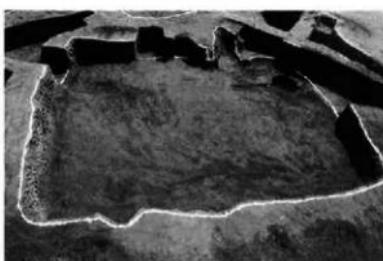
H-54号住居跡全景（西から）



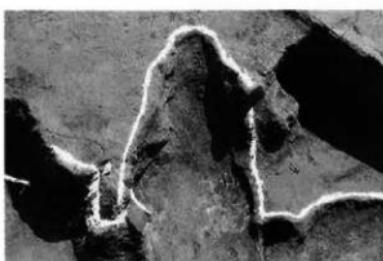
H-54号住居跡遺物出土状況①（西から）



H-54号住居跡遺物出土状況②（西から）



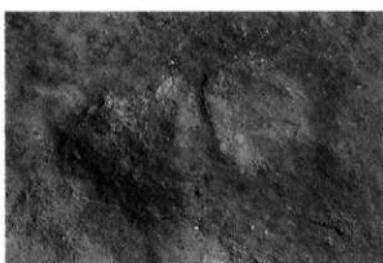
H-60号住居跡全景（西から）



H-60号住居跡全景（西から）



H-76号住居跡全景（西から）



H-76号住居跡全景（南から）



H-79号住居跡全景（西から）



H-79号住居跡竪竈全景（西から）



H-59号住居跡全景（西から）



H-59号住居跡炉全景



H-59号住居跡遺物出土状況①（北から）



W-1・2号溝跡全景（北から）



D-2号土坑金置（南から）



D-2号土坑セクション





4 (H-4)



7 (H-7)



5 (H-4)



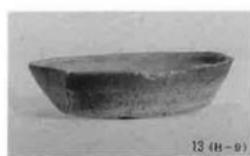
10 (H-8)



11 (H-8)



8 (H-7)



13 (H-9)



17 (H-11)



14 (H-11)



19 (H-11)



21 (H-11)



16 (H-11)



20 (H-11)



24 (H-12)



23 (H-12)



22 (H-12)

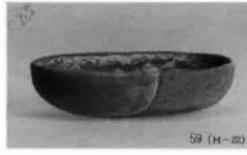


29 (H-14)



28 (H-14)

PL. 14





64 (H-23)



65 (H-23)



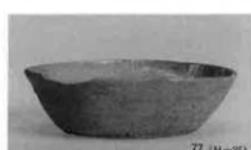
72 (H-24)



68 (H-24)



69 (H-24)



77 (H-25)



70 (H-24)



74 (H-24)



79 (H-25)



81 (H-26)



82 (H-26)



85 (H-26)



86 (H-26)



93 (H-27)



89 (H-27)



90 (H-27)



96 (H-28)



94 (H-28)



95 (H-28)

P L. 16



97 (II-28)



99 (H-29)



104 (II-29)



105 (H-30)



103 (II-29)



108 (H-32)



106 (II-31)



107 (H-31)



111 (H-32)



114 (H-32)



109 (H-32)



112 (H-32)



118 (H-32)



110 (H-32)



116 (H-32)



120 (II-35)



115 (H-32)



116 (H-32)



121 (H-35)



123 (H-36)



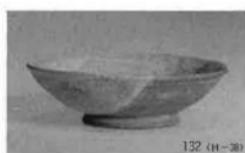
127 (H-37)



136 (H-38)



137 (H-40)



132 (H-38)



140 (H-41)



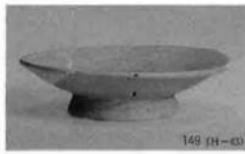
141 (H-41)



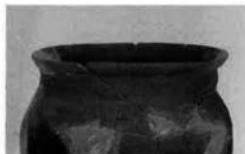
144 (H-41)



151 (H-44)



149 (H-43)



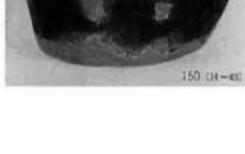
150 (H-43)



152 (H-44)



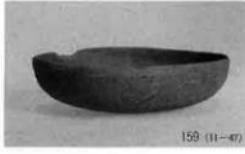
156 (H-46)



153 (H-47)



158 (H-47)



159 (H-47)



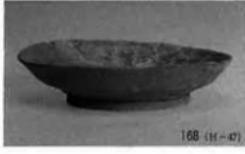
163 (H-47)



164 (H-47)

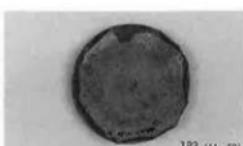
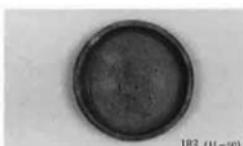
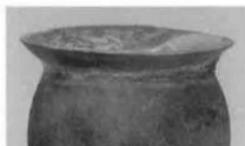
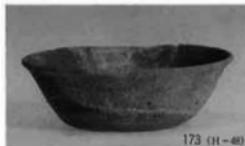


167 (H-47)



168 (H-47)

PL. 18





195 (H-54)



196 (H-54)



199 (H-65)



200 (H-56)



203 (H-58)



204 (H-58)



205 (H-58)



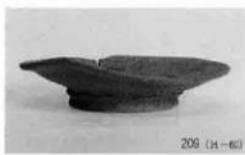
206 (H-58)



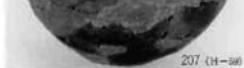
207 (H-68)



208 (H-60)



209 (H-60)



210 (H-68)



212 (H-60)



213 (H-60)



214 (H-61)



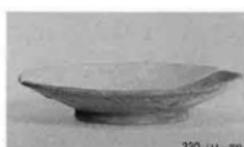
215 (H-60)



216 (H-62)



217 (H-64)





鉄4 (H-32)



鉄12 (H-86)



鉄2 (H-11)



鉄5 (H-25)



鉄8 (H-40)



鉄13 (D-8)



鉄4 (D-8)



鉄1 (H-4)



鉄6 (H-27)



鉄10 (H-50)



鉄11 (H-52)



鉄3 (H-21)



鉄9 (H-40)



鉄7 (H-40)

P L. 22



瓦23 (H-48)



瓦10 (H-26)



瓦5 (H-18)



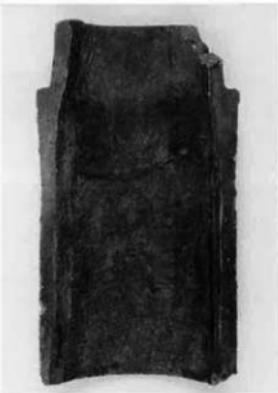
瓦13 (H-29)



瓦16 (H-40)



瓦6 (H-21)



瓦27 (H-90)



抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン モトソウジャオミロクイセキ
書名	元総社蒼海遺跡群 元総社小見VI遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	近藤雅順・後藤俊輝
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2005年3月22日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 緯			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社小見VI遺跡	前橋市元総社町 1614-1 他	10201	16A107	36°23'19"	139°01'46"	20040524 ～ 20041215	1,760m ²	前橋都市計 画事業元総 社蒼海土地 区画整理事 業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
元総社小見VI遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世	竪穴住居跡2軒、土坑11基 竪穴住居跡15軒 竪穴住居跡68軒、溝跡2条、 土坑7基 土坑2基	縄文土器、石器 上部器、須恵器 土師器、須恵器、鐵製品、 瓦

元総社蒼海遺跡群 元総社小見VI遺跡

2005年3月17日 印刷
2005年3月24日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷 朝日印刷工業株式会社

